

青 苗 遺 跡 (F 地区)

～青苗地区漁業集落環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)～

1 9 9 8

奥尻町教育委員会

青 苗 遺 跡 (F 地区)

～青苗地区漁業集落環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)～

1 9 9 8

奥尻町教育委員会

例 言

1. 本書は、「青苗地区漁業集落環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」報告書である。
2. 本書の編集は木村哲朗が行った。執筆は、木村、安西雅希が携わった。各章の執筆分担は文末に記す。
3. 整理作業は以下のように行った。
 - 土器復元、拓本、トレース：天内千秋，近藤美佐子，工藤竹美
 - 土器実測：木村哲朗
 - 石器分類：安西雅希
 - 石器実測，トレース：大橋敏子，柳谷とし子
 - 集計，計測：大崎恵美子，工藤きよ子
4. 写真撮影は現場で各調査員，補助員が行った。遺物撮影は木村と安西が，焼きつけは木村が行った。
5. 発掘調査には以下の方々が従事した。
 - 油屋ヨコ，天内千秋，内田彰，大橋敏子，大崎恵美子，神谷和弘，菊池ミサ子，工藤きよ子，工藤竹美，近藤美佐子，佐々木俊久，武田良子，西本裕子，古川ミツ，松田逸松，三浦京子，柳谷とし子。
6. 出土遺物及び実測図，写真等は奥尻町歴史民俗資料館（字青苗442-3）で保管している。
7. 調査及び整理，報告にあたって次の機関，諸氏よりご指導，ご協力を賜った。
 - 北海道教育庁生涯学習部文化課，（財）北海道埋蔵文化財センター，北海道開拓記念館，天野哲也，右代啓視，大沼忠春，菊池徹夫，斉藤邦典，清野往男，田口尚，千葉英一，寅尾裕志，西脇対名夫，畑宏明。

凡 例

1. 本書の遺物の略記号は以下のように用いた。

(1) 遺構

竪穴：H, 土壕：P, 石組遺構：S, 竪穴内の土壕：HP, 竪穴内の焼土：HF.

(2) 遺物

土器：P, 礫類：S.

(3) 地層

波島大島火山灰：O s - a, 白頭山-苦小牧火山灰：B - T m.

2. 本書の挿図の縮尺は原則として以下のように示した。

遺跡分布図：1/25000 遺構配置図, グリット配置図, 遺物分布図：1/1000

遺構図(竪穴, 土壕)：1/40 遺構図(石組遺構)：1/20 復元土器：1/4

土器拓本：1/3 剥片石器：1/2 礫石器：1/3

3. 遺物の写真の縮尺は各実測図や拓本図の縮尺に等しい。

4. 遺構図の向きは方位で示す。

5. 地層の土色については、(株)日本色研事業所発行の“新版標準土色帳”を用いた。

6. 本書の一覧表等の計測単位を以下のように統一した。

遺構平面図, 土層堆積図：m, 遺物：mm, g.

7. 焼土の範囲や、焼礫の焼けた範囲はスクリーントーンを貼って示す。

8. 遺物分布図は基本的には、大グリット毎に出土量を統計し、その数値を記す形を取ったが、図Ⅲ-30は、出土した小グリットを丸印で示しておおよその出土範囲を示すにとどめた。

9. 遺構一覧表での遺構の規模は、長軸×短軸/確認面からの深さ、である。

目 次

例 言

凡 例

目 次

神岡目次

押表目次

写真図版目次

第 I 章 遺跡の概要	1
1 節 調査要項	1
2 節 調査体制	1
3 節 調査に至る経緯	1
4 節 調査方法と分類	2
1. 調査方法	2
2. 遺物の分類	2
5 節 青苗遺跡の位置と環境	4
1. 奥尻島の位置と環境	4
2. 青苗周辺の遺跡と立地条件	4
6 節 遺跡の概要と基本層序	6
1. 概要	6
2. 基本層序	6
第 II 章 遺構	10
1 節. 竪穴	10
2 節. 土壇	31
3 節. 石組遺構	35
第 III 章 遺物	40
1 節. 土器	40
2 節. 石器	58
第 IV 章 総括	102
写真図版	104

挿 図 目 次

図 I-1	発掘区グリッド配置図	2	図 III-10	包含層出土石器 (10)	53
図 I-2	小グリッド模式図	2	図 III-11	包含層出土石器 (1)	61
図 I-3	青苗地区の遺跡分布図	5	図 III-12	包含層出土石器 (2)	64
図 I-4	発掘区地形図	6	図 III-13	包含層出土石器 (3)	65
図 I-5	土層断面位置図	7	図 III-14	包含層出土石器 (4)	67
図 I-6	土層断面図 (1)	7	図 III-15	包含層出土石器 (5)	68
図 I-7	土層断面図 (2)	8	図 III-16	包含層出土石器 (6)	69
図 I-8	土層断面図 (3)	9	図 III-17	包含層出土石器 (7)	70
			図 III-18	包含層出土石器 (8)	73
			図 III-19	包含層出土石器 (9)	74
図 II-1	H-1 図	11	図 III-20	包含層出土石器 (10)	75
図 II-2	H-1 出土遺物 (1)	12	図 III-21	包含層出土石器 (11)	77
図 II-3	H-1 出土遺物 (2)	13	図 III-22	包含層出土石器 (12)	82
図 II-4	H-1 出土遺物 (3)	14	図 III-23	包含層出土石器 (13)	83
図 II-5	H-1 出土遺物 (4)	15	図 III-24	包含層出土石器 (14)	84
図 II-6	H-2 図	18	図 III-25	包含層出土石器 (15)	85
図 II-7	H-2 出土遺物	19	図 III-26	包含層出土石器 (16)	90
図 II-8	H-3 図, 出土遺物 (1)	22	図 III-27	包含層出土石器 (17)	91
図 II-9	H-3 出土遺物 (2)	23	図 III-28	包含層出土石器 (18)	92
図 II-10	H-4 図	25	図 III-29	包含層出土石器 (19)	93
図 II-11	H-4 出土遺物 (1)	26	図 III-30	包含層出土石器 (20)	93
図 II-12	H-4 出土遺物 (2)	27	図 III-31	土器分布図 (全体)	94
図 II-13	H-4 出土遺物 (3)	28	図 III-32	縄文中期土器分布図	95
図 II-14	P-1~4 図	32	図 III-33	石器分布図 (1)	96
図 II-15	P-5~7 図	33	図 III-34	石器分布図 (2)	97
図 II-16	S-1 図	35	図 III-35	石器分布図 (3)	98
図 II-17	S-2 図	36	図 III-36	石器分布図 (4)	99
図 II-18	S-2 出土遺物	37	図 III-37	石質別フレイクチップ分布図	100
図 II-19	S-3 図	38			
図 III-1	包含層出土石器 (1)	41			
図 III-2	包含層出土石器 (2)	42			
図 III-3	包含層出土石器 (3)	44			
図 III-4	包含層出土石器 (4)	45			
図 III-5	包含層出土石器 (5)	46			
図 III-6	包含層出土石器 (6)	48			
図 III-7	包含層出土石器 (7)	49			
図 III-8	包含層出土石器 (8)	50			
図 III-9	包含層出土石器 (9)	51			

挿 表 目 次

表Ⅱ-1	H-1 復元土器一覽表	15	表Ⅲ-20	Uフレイク一覽表(1)	72
表Ⅱ-2	H-1 出土石器一覽表(1)	16	表Ⅲ-21	Uフレイク一覽表(2)	73
表Ⅱ-3	H-1 出土石器一覽表(2)	17	表Ⅲ-22	石核一覽表	73
表Ⅱ-4	H-2 復元土器一覽表	20	表Ⅲ-23	石製品一覽表	75
表Ⅱ-5	H-2 出土石器一覽表(1)	20	表Ⅲ-24	石斧一覽表	76
表Ⅱ-6	H-2 出土石器一覽表(2)	21	表Ⅲ-25	すり石一覽表(1)	78
表Ⅱ-7	H-3 復元土器一覽表	23	表Ⅲ-26	すり石一覽表(2)	79
表Ⅱ-8	H-3 出土石器一覽表	24	表Ⅲ-27	すり石一覽表(3)	80
表Ⅱ-9	H-4 復元土器一覽表	28	表Ⅲ-28	すり石一覽表(4)	81
表Ⅱ-10	H-4 出土石器一覽表(1)	28	表Ⅲ-29	砥石一覽表	84
表Ⅱ-11	H-4 出土石器一覽表(2)	29	表Ⅲ-30	石錘一覽表(1)	85
表Ⅱ-12	H-4 出土石器一覽表(3)	30	表Ⅲ-31	石錘一覽表(2)	86
表Ⅱ-13	H-4 出土石器一覽表(4)	31	表Ⅲ-32	石錘一覽表(3)	87
表Ⅱ-14	土竪出土石器一覽表	34	表Ⅲ-33	石錘一覽表(4)	88
表Ⅱ-15	S-2 復元土器一覽表	37	表Ⅲ-34	たたき石一覽表(1)	88
表Ⅱ-16	S-2 出土石器一覽表	37	表Ⅲ-35	たたき石一覽表(2)	89
表Ⅱ-17	遺構一覽表(1)	38	表Ⅲ-36	石皿一覽表	89
表Ⅱ-18	遺構一覽表(2)	39	表Ⅲ-37	台石一覽表	89
			表Ⅲ-38	石棒一覽表	93
表Ⅲ-1	包含層出土復元土器一覽表	54			
表Ⅲ-2	包含層出土拓本土器一覽表(1)	54			
表Ⅲ-3	包含層出土拓本土器一覽表(2)	55			
表Ⅲ-4	包含層出土拓本土器一覽表(3)	56			
表Ⅲ-5	包含層出土拓本土器一覽表(4)	57			
表Ⅲ-6	石鏃一覽表(1)	59			
表Ⅲ-7	石鏃一覽表(2)	60			
表Ⅲ-8	石槍一覽表	60			
表Ⅲ-9	石錐一覽表(1)	62			
表Ⅲ-10	石錐一覽表(2)	63			
表Ⅲ-11	抉入石器一覽表	63			
表Ⅲ-12	楔形石器一覽表	63			
表Ⅲ-13	つまみ付きナイフ一覽表(1)	65			
表Ⅲ-14	つまみ付きナイフ一覽表(2)	66			
表Ⅲ-15	削器一覽表(1)	68			
表Ⅲ-16	削器一覽表(2)	69			
表Ⅲ-17	搔器一覽表	69			
表Ⅲ-18	Rフレイク一覽表(1)	71			
表Ⅲ-19	Rフレイク一覽表(2)	72			

写真図版目次

図版 1	表土剥ぎ作業	103	図版14	遺構出土遺物 (1)	116
	作業風景	103	図版15	遺構出土遺物 (2)	117
図版 2	H-1 完掘状況	104	図版16	遺構出土遺物 (3)	118
	H-1 土層断面	104	図版17	遺構出土遺物 (4)	119
図版 3	H-1 土器出土状態	105	図版18	遺構出土遺物 (5)	120
	H-1 調査風景	105	図版19	遺構出土遺物 (6)	121
図版 4	H-2 完掘状況	106	図版20	遺構出土遺物 (7)	122
	H-2 土層断面	106	図版21	遺構出土遺物 (8)	123
図版 5	H-3 完掘状況	107	図版22	包含層出土土器 (1)	124
	H-3 土層断面	107	図版23	包含層出土土器 (2)	125
図版 6	H-4 完掘状況	108	図版24	包含層出土土器 (3)	126
	H-4 土層断面	108	図版25	包含層出土土器 (4)	127
図版 7	H-4 石棒出土状況	109	図版26	包含層出土土器 (5)	128
	P-1 完掘状況	109	図版27	包含層出土土器 (6)	129
	P-1 土層断面	109	図版28	包含層出土土器 (7)	130
	P-2 完掘状況	109	図版29	包含層出土土器 (8)	131
	P-2 土層断面	109	図版30	包含層出土土器 (9)	132
図版 8	P-3 完掘状況	110	図版31	包含層出土土器 (10)	133
	P-3 土層断面	110	図版32	包含層出土土器 (1)	134
	P-4 完掘状況	110	図版33	包含層出土土器 (2)	135
	P-4 土層断面	110	図版34	包含層出土土器 (3)	136
	P-5 完掘状況	110	図版35	包含層出土土器 (4)	137
	P-5 土層断面	110	図版36	包含層出土土器 (5)	138
	P-5 調査風景	110	図版37	包含層出土土器 (6)	139
図版 9	P-6 完掘状況	111	図版38	包含層出土土器 (7)	140
	P-6 土層断面	111			
	P-7 完掘状況	111			
	P-7 土層断面	111			
	沢跡と S-1	111			
図版10	S-1 検出状況	112			
	S-2 検出状況	112			
図版11	S-2 遺物出土状態	113			
	S-2 完掘状況	113			
図版12	S-3 検出状況	114			
	S-3 完掘状況	114			
図版13	D-16区土器出土状態	115			
	完掘風景	115			

第I章 調査の概要

1節 調査要項

事業名	青苗地区漁業集落環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
委託者	奥尻町
受託者	奥尻町教育委員会
遺跡名	青苗遺跡（F地区）北海道教育委員会遺跡登録番号：C-07-02
所在地	奥尻郡奥尻町字米岡54-3ほか
調査面積	2,230㎡
調査期間	平成8年4月～9年3月（現場期間、平成8年5月15日から7月31日まで）

2節. 調査体制

奥尻町教育委員会	教育長	加藤堅寿
	課長	高田延三
	係長	泉沢克尚
	調査担当者	木村哲朗
	調査補助員	安西雅希 乾哲也（平成8年8月まで）
調査指導	北海道教育庁文化課	田才雅彦

3節 調査に至る経緯

平成5年7月12日に突如として襲った北海道南西沖地震は甚大な被害を奥尻島にもたらした。特に青苗地区の被害は甚だしく、奥尻町災害復興計画に基づく防災集団移転事業及び漁業集落環境整備事業が計画された。後者の環境整備の一環として町道建設が計画されたが、そこは周知の青苗遺跡があることから奥尻町と北海道教育庁文化課との間で協議がなされた。結果、町道新設内の南側は平成6年9月に範囲確認調査を行って発掘調査を平成7年度に（E地区）、北側を同7年5月に範囲確認調査を行ってF地区とし、発掘調査を平成8年度に行うこととなった。このF地区の調査をもって防災集団移転事業及び漁業集落環境整備事業に伴う青苗遺跡の発掘調査は終了となる。

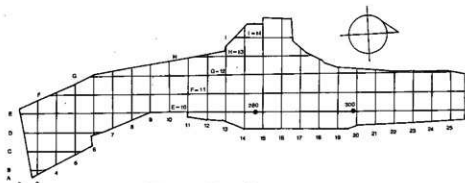
なお、8年度の調査面積は当初、2,098㎡であった。しかし、新設町道と道道奥尻島線を結ぶ枝道新設の計画が起り、そのための範囲確認調査を行った結果、132㎡が加わり、合計2,230㎡となった。また、調査を進めるうち、2軒の竪穴が発掘区外まで広がっていることが判り、竪穴の範囲のみを掘り広げることとなった。（木村 哲朗）

4節. 調査方法と遺物の分類

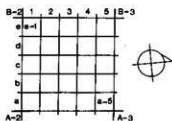
1. 調査方法

F地区もE地区同様、表面を被う笹や耕作土、火山灰層(Os-a)をバックホウで除去、遺物包含層であるⅢ層上面が出るまで下げた。

グリッドの設定は、道路設計センターの測点280~300のラインと並行してX軸を設定し、5m×5m四方で分割した。グリッドの呼称はX軸にアラビア数字、それと直交するY軸には大文字のアルファベットを用いた。図I-1に示したようにX軸は南から2~25、Y軸は東からA~Iとし、東南端の杭をグリッドの呼称とした。小グリッドは、図I-2のように大グリッドとを1m毎に区切った。



図I-1 発掘区グリッド配置図



図I-2 小グリッド模式図

なお小グリッドの呼称はX軸にアラビア数字、Y軸には小文字のアルファベットを用いた。

発掘作業は、層位毎に掘り下げる分層発掘を基本とし、層の厚い場所は幾度かに分けて掘りすすめた。

遺物の取り上げ方法は層位別に取り上げ、面的には前述の小グリッドを基本として取り上げた。また、遺構、遺物集中地点は1点ずつ取り上げた。攪乱となっているところは大グリッド毎で取り上げた。

2. 遺物の分類

① 土器

土器は、全て縄文時代のものであり、早期中葉から後期中葉のものまで認められる。以下4群に分類した。

I群：縄文時代早期 a類 早期中葉に相当するもの

b類 早期後葉、末葉に相当するもの

- II群：縄文時代前期 円筒下層式に相当するもの
 III群：縄文時代中期 a類 中期初頭に相当するもの
 b類 中期前葉に相当するもの
 c類 中期中葉に相当するもの
 d類 中期後葉に相当するもの
 e類 中期末葉に相当するもの
 IV群：縄文時代後期 a類 後期初頭に相当するもの
 b類 後期前葉に相当するもの
 c類 後期中葉に相当するもの

(木村 哲朗)

② 石器

石器は剥片石器類と礫石器類に大別し、剥片石器類は石器9種類と石核、フレイクに、礫石器類は石器7種類に分類した。以下、特徴的な器種について記す。

抉入石器

矢柄研磨器等として利用されたと考えられるもので、剥片の縁辺に抉りを持ち、使用頻度によっては抉りがつぶれているもの。

楔形石器

骨や木を断ち割る等に使用されたと考えられるもので、楔形もしくは凸レンズ状の断面を持ち、その上端、下端、あるいは両側縁に階段状の剥離のみられるもの。

つまみ付きナイフ

製作過程の素材、未製品と製品もしくは完成品とに分類した。完成品もしくは製品については一覧表の備考欄に記さなかった。

搔器

皮なめし等に利用されたと考えられるもの。刃部の形態、あるいは部位によってラウンドスクレイパー、エンドスクレイパー、サイドスクレイパー、その他に分けられる。なお、背面が全面加工され、爪形に調整されたものも搔器とした。

Rフレイク

剥片の一部に二次加工をもつもの。器種の特定できないもの。

Uフレイク

刃こぼれ状の使用痕を持つ剥片。

たたき石

礫の端部、面部、側縁にたたいた痕跡をもつもの。くぼみ石とよばれるものも含まれた。

石皿

使用面のくぼんでいる礫。

台石

使用面の平坦な大型の礫。

(安西 雅希)

5節. 青苗遺跡の位置と環境

1. 奥尻島の地形と環境

奥尻島は北海道南西部、日本海に浮かぶ南北27km、東西11km、周囲84kmの離島である。島は島火山帯上に位置し、幾度かの隆起、沈降を繰り返してきたため、海成段丘が発達しており、そのため島の外観は、起伏の少ないなだらかな地形に見える。海成段丘は瀬川秀良により神威山Ⅰ面（標高580～520m）から寺屋敷面（標高60～50m）、青苗岬面（標高4m）に至る10面に分けられている。このように平坦面が多いのにも関わらず、人口の多くは、周囲84kmの海岸線に集住している。このことは島の人々と海との絆の強さを物語っているとさえ言える。事実、この離島は今でも太公望の憧れの的であり、夏には大物狙いの釣り客で賑わう。また北上した対馬暖流が沿岸部を洗い、多くの海洋生物が棲む豊かな海を形づくっている。

最北の稲穂岬からは、北海道本土の北松山町帆越岬と僅か18kmの距離であり、その北側の大田山地、更にその北側には後志管内との分水嶺である狩場山系を見渡すことができ、東海岸からは、遊楽部岳、カニカン岳を始めとする渡島半島の脊嶺山脈を間近に望み、最南の青苗岬からは、南東部に伸びる松前半島の山々、水平線に浮かぶ渡島大島を望み、海を介した交流の拠点として好位置であると言える。

2. 青苗周辺の遺跡と立地条件

奥尻島の遺跡は、立地条件から、砂丘遺跡と段丘上の遺跡に分けることができる。前者は、青苗砂丘遺跡、青苗2遺跡、米岡5遺跡、赤川遺跡、後者は、青苗遺跡をはじめ、奥尻空港遺跡、米岡遺跡、米岡2～4遺跡、米岡神社遺跡、千疊遺跡、石見牧場遺跡、松江遺跡、松江2遺跡、赤川2遺跡、ワサビ谷地川右岸遺跡、同左岸遺跡がある。これら段丘上には、縄文時代早期～擦文時代にいたる多種多様な遺跡があるが、最も多いのは縄文時代中期の遺跡で、青苗遺跡カベ山（C地区）がその代表である。このほか、縄文時代早期の壜穴の検出された松江遺跡、統縄文時代恵山期の米岡2遺跡、擦文時代の貝塚のある青苗遺跡貝塚台地などがある。これらの遺跡の多くが寺屋敷面に立地しており、当時、この面が現在以上に、重要な生活の場であったことを物語っている。

奥尻島の遺跡の環境を考えるのに重要なのは、河川や沢などの関わりである。島には段丘を開漸し、あるいは急な段丘斜面を流れ落ちる多くの河川がある。そのうち最大河川は青苗川の、全長8,475mである。河口右岸の段丘上にはワサビ谷地川左岸遺跡がある。そのほか、赤川を挟んだ段丘上に赤川2遺跡、ワサビ谷地川の右岸の段丘上にはワサビ谷地川右岸遺跡、同左岸遺跡などがある。これらの遺跡の時期は縄文時代早期～中期であり、段丘上やその縁辺部には川に向かう小さな枝沢が刻まれているのは特徴である。とくにワサビ谷地川には、その枝沢である「工藤さんの沢」が、本遺跡の沢状地形とつながり、一見活用しにくそうに見える段丘縁辺部の緩斜面が、場として利用されている間題で、沢を介した河川とのつながりが重要な意味をもってくると考えられる。

(木村 哲朗)

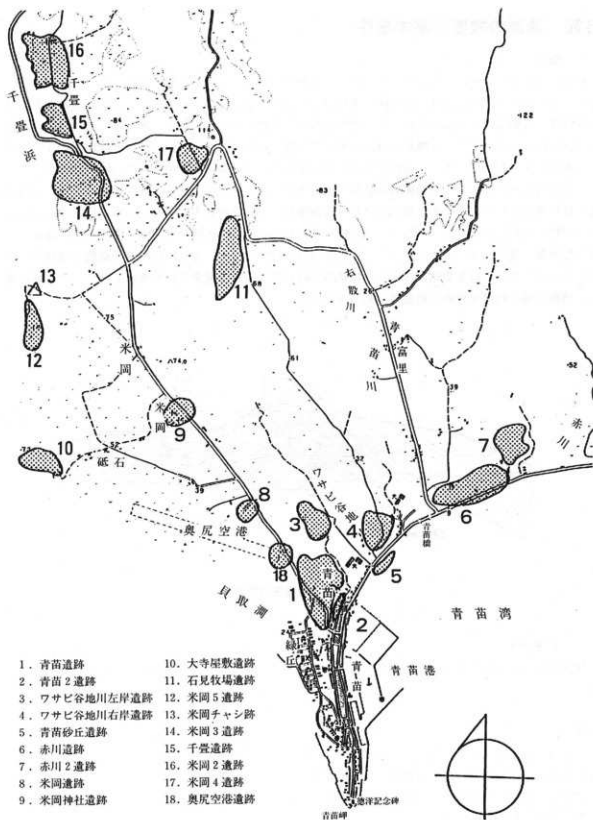
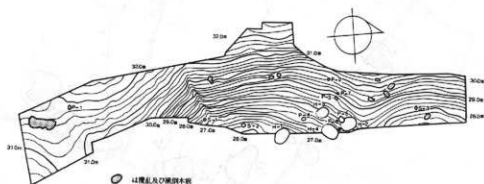


図1-3 青苗地区の遺跡分布図

6節. 遺跡の概要と基本層序

1. 概要

発掘区は東西15~30m, 南北117 mである。発掘区南側は、標高31m程の段丘上平坦面となっているが、中央部から北側にかけては沢状の地形が入り込んだ東向きの斜面である。南側の遺物の多くは中茶路式、東銅路IV式土器とそれに伴う遺物であり、E地区に続く生活面と考えられる。台地の北側は斜面となっており、そこは攪乱が及ぶなどして遺物の分布は少ない。斜面下は沢状地形となっており、標高も26~27m位である。発掘区の最も低い地点からは、縄文時代中期の住居跡が見つかり、その周辺からは多くの中期後葉の遺物や縄文時代早期の貝殻土器等が検出され、早期の石組遺構2基が発見されている。また散見的ながら前期後葉の円筒下層式等が見つかり、沢の北側は細い尾根が東西にのび、その南斜面には3軒の縄文時代中期の住居跡及び土壌が発見され、周辺からは中期後葉の遺物が多く出土している。北斜面は遺物はすくなく、縄文時代早期の遺物が散発的に出土するのみである。最も北側はなだらかな傾斜が続いている。攪乱を受けた場所もあり、包含層は薄い。遺構は縄文時代早期の石組遺構1基のみである。



図I-4 発掘区地形図

2. 基本層序

発掘区層位はX軸では15ラインとB~Dの3ライン、Y軸ではE-4~25とC-2~4ラインを記録した。

I層

表土層。笹根が密に入り込んでいる層。

渡島大島a火山灰層（にぶい黄橙色，10YR,6/4）

寛保元（1741）年降下の火山灰（0 s-a）。

II層（黒色，10YR,1.7/1）

締まりなく、やや粘性あり。0 s-aとB-Tm間の黒色腐食土層。

白頭山-苫小牧火山灰層（暗褐色，7.5YR,3/4）

A D950年頃の降灰とされる白頭山起源の火山灰（B-Tm）と考えられる。多くは土層中に不明瞭な層状ないしはブロック状に見られ、部分的に堆積している。

III層 (黒色, 10YR,2/1)

締まりなく, 粘性あり。0 s-a ないし B-Tm より下層の黒色腐食土層で, II層より僅かに赤みを帯びる。

IV層 (黒褐色, 10YR,3/1)

締まり, 粘性あり。III層とV層の漸移層である。

V層 (にふい黄褐色, 10YR,4/3)

締まり, 粘性あり。IV層の黒褐色土, VI層の黄褐色土が斑状にみられるローム質土主体の層。

VI層 (黄褐色, 10YR,4/6)

基盤層。締まり, 粘性強い。

(木村 哲朗)

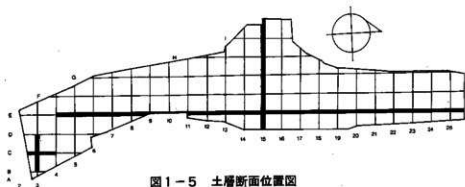


図1-5 土層断面位置図

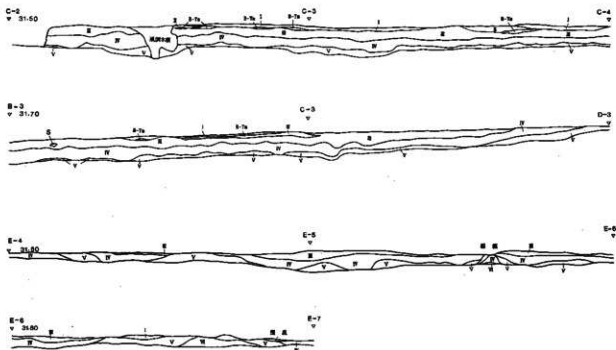


図1-6 土層断面図(1)

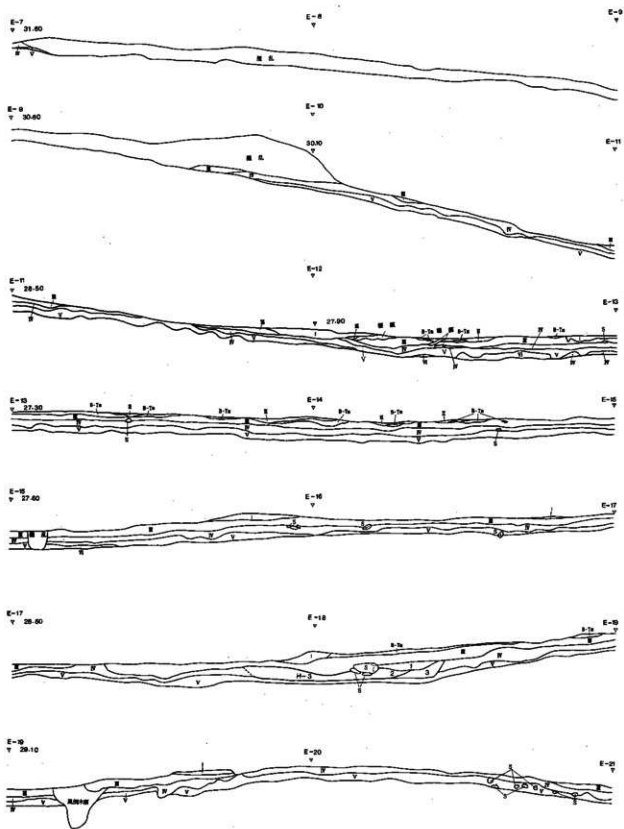


图 1-7 土层断面图(2)

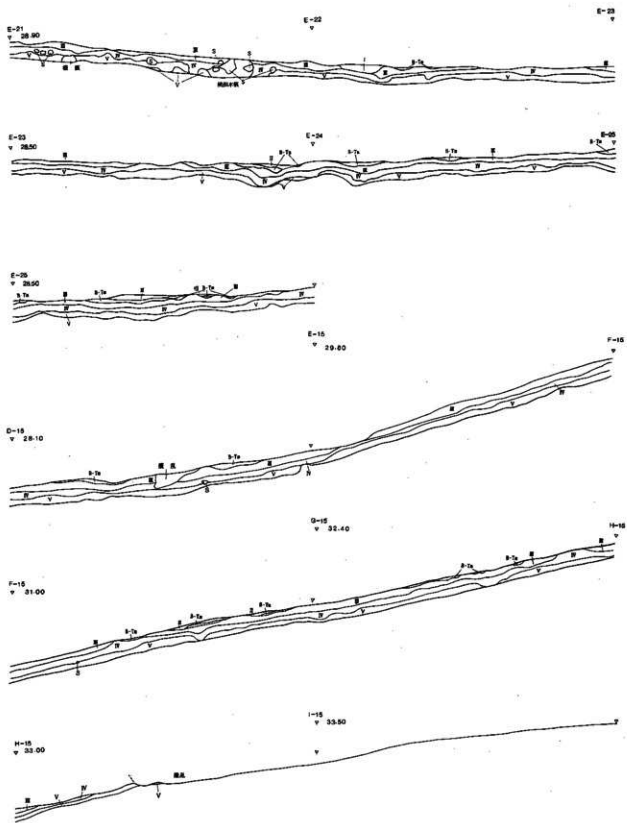


图 I-8 土层断面图(3)

第二章 遺構

F地区において検出された遺構は、縄文時代早期の石組遺構3基、早期後葉の土壇1基、中期の堅穴4基、土壇3基、そのほか時期不明の土壇3基である。

1節. 堅穴

H-1

遺構

D-15区を調査中、火山灰(Os-a)の落ち込みを確認し、グリットに沿ってトレンチを開けることにより、壁の立ち上がりを確認した。遺構は発掘区外に大きく広がり、遺構の範囲にあわせて調査範囲を広げた。平面形は長軸の方向が北西-南東をむいた楕円形と考えられるが、北側の一部は風倒木攪乱。東壁は地滑りで消失している。遺構確認面における長径は推定4.60m、短径が3.20m、確認面からの深さ0.46m、墳底面の長径が推定4.40m、短径が3.10mである。焼土(HF-1)は堅穴の中央に位置し、長軸が東西方向を向き、長径が0.50m、短径が0.29mの範囲に楕円形に広がる。HF-1の南側には、長軸が東西方向を向き、長径0.85m、短径0.55mの土壇(HP-1)が検出されており、中から魚の骨片が出土している。柱穴は8基(HP-2~9)確認されており、炉や土壇を囲むように巡る。

時期は床面よりⅢ群d類が出土していることから縄文時代中期後葉と考えられる。

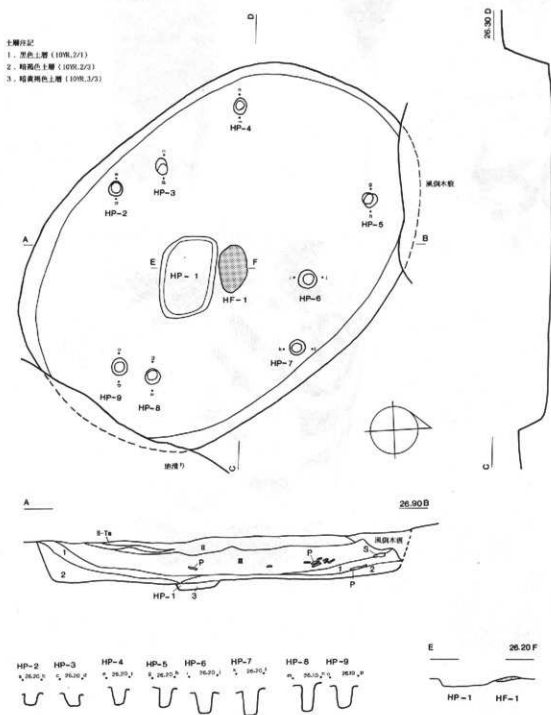
出土遺物は他の堅穴に較べて多い。特に土器は他の堅穴に較べて多いが床面からの出土は3個体(図Ⅱ-3. 1~3)である。床面出土の石器はすり石が5点と多く、HP-1、HF-1とその周りに多く分布する。

遺物

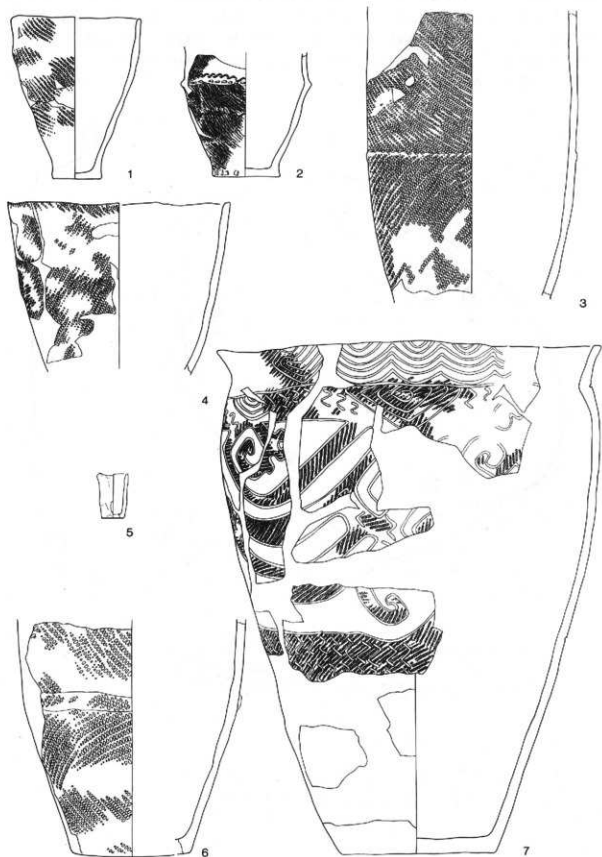
1は胴部から口縁部に向け、なだらかに立ち上がる深鉢型土器である。地文である斜行縄文のみが施されている。胴部には輪積みの跡が残る。2は口縁部の欠損した深鉢型土器である。胴部には刺突文の施された貼付帯や綾絡文が巡り、底部には棒状工具による押引文が施される。器面の調整は悪く、若干いびつである。3も口縁部の欠損した深鉢型土器である。胴部には貼付帯が1条巡る。4は底部の欠損した深鉢型土器である。文様は斜行縄文であるが、口縁部と胴部で施文方向が異なる。器面の調整はあまり良くない。5は円筒形のミニチュア土器である。器面には指頭による調整痕が残る。6は口縁部の欠損した深鉢型土器である。胴部に1条の貼付帯が巡る。地文は斜行縄文であるが、貼付帯を境に施文方向が異なる。7は胴部が張り出す大型の深鉢型土器である。胴部には渦巻文様を基調とする区画文や“Z”字状の沈線文が施され、胴下部から底部にかけて無文帯となるなど、入江式の特徴を持つ。8・9は口唇に刺突の施されたものである。10~13は沈線文の施されているもので、10・13は平行沈線文、11・12は区画文が施される。14は地文のみのもの。15は底部の破片で縄線文が1条巡る。

16~21は石鏃で全て有茎である。基部は16・17が平基、18~21は凸基である。鏃身は16~18、20が三角、19・21が木葉状である。22~25は石槍である。22が柳葉状、24・25は木葉状である。26~29は石錐である。すべて小型のチャート剥片に加工をほどこしたものである。30はつまみ付きナイフである。縦型で先端部は切り出し形を呈する。32は搔器、34は削器である。31・33はRフレイクで、縦形の剥片を加工したものである。36は石核である。37~42はすり石で、37・39は断面楕円形、42は板状。

38・40は断面三角の原石を用いており、早期のすり石の再利用の可能性がある。擦り面はそれぞれ幅が約、0.5cmのもの(40)、1cmのもの(39・41)、1.5cmのもの(37)、2.0cmのもの(38)があり、種類に富む。なお、37・40は両側縁に剥離があり、一時期石錘として利用したものと思われる。43は石錘。44は砥石で、一面のみ研ぎ面として利用している。45は石皿で板状礫を利用している。46は台石で、花崗岩の楕円礫を用いている。(木村 哲朗)



図II-1 H-1図



图II-2 H-1出土遗物(1)

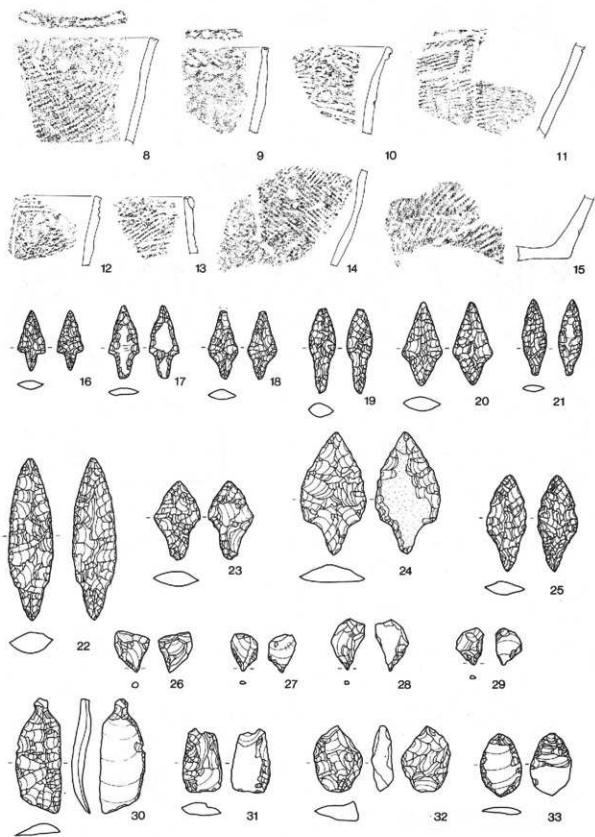


圖 II-3 H-1 出土遺物 (2)

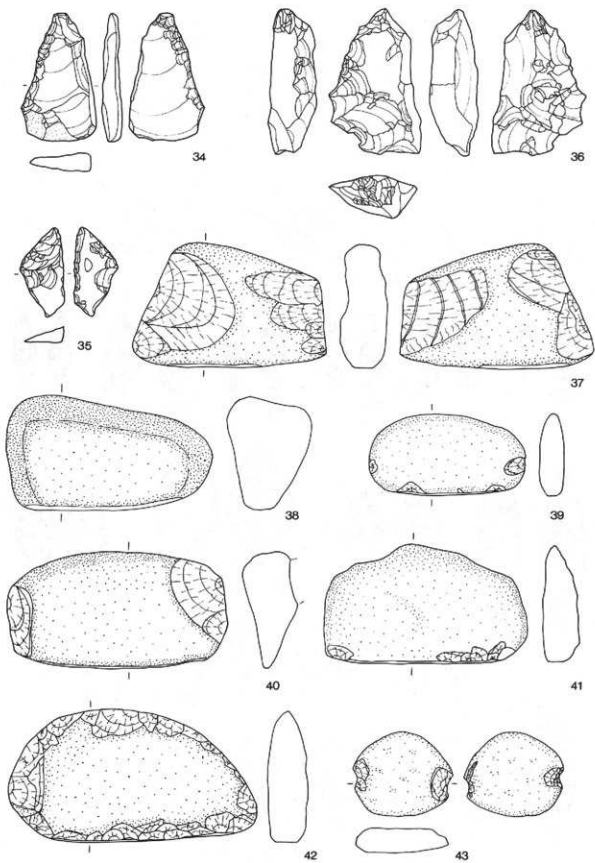


圖 II-4 H-1 出土遺物(3)

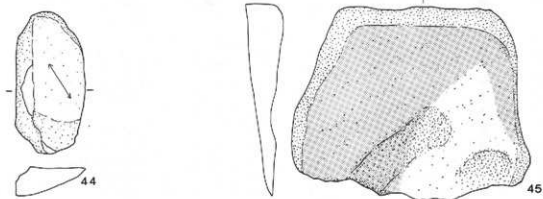


图 II-5 H-1 出土遺物(4)

表 II-1 H-1 出土復元土器一覽表

No	分類	器高(cm)	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	図番	備 考
1	Ⅲ	17.5	14.0	11.0	5.0	0.5	1	床面出土
2	Ⅲ d			31.8	7.0	0.5	2	床面出土
3	Ⅲ e			22.0		0.9	3	床面出土
4	Ⅲ		23.0	20.0		0.6	4	
5	Ⅲ		3.0	3.0	2.0	0.4	5	
6	Ⅳ a			22.0		0.9	6	
7	Ⅳ b	54.0	41.0	36.2	16.5	0.8	7	

表II-2 H-1出土石器一覧表(1)

No	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	石鏃	16.7	10.7	4.2	0.6	黒曜石		基部欠損	
2	石鏃	32.6	19.1	7.7	3.6	頁岩		有柄凸基	
3	石鏃	31.6	9.6	5.0	1.4	頁岩	16		
4	石鏃	23.0	18.1	3.7	1.2	頁岩		先端部欠損,有柄凸基	
5	石鏃	30.0	32.7	6.9	5.7	黒曜石		基部欠損	
6	石鏃	22.4	21.8	7.7	2.6	頁岩		先端部及び基部欠損	
7	石鏃	40.2	17.1	8.6	3.3	頁岩		有柄凸基 床面出土	
8	石鏃	39.0	16.0	3.8	1.9	頁岩	17		
9	石鏃	36.4	16.0	6.2	2.4	頁岩	18	床面出土	
10	石鏃	33.4	16.1	4.5	7.1	頁岩		未製品,基部のみ作出	
11	石鏃	21.2	15.6	3.6	1.5	頁岩		先端部及び基部欠損	
12	石鏃	45.2	14.6	7.6	4.0	頁岩	19	床面出土	
13	石鏃	44.4	21.2	7.3	3.5	頁岩	20	床面出土	
14	石鏃	39.3	21.6	9.6	6.0	頁岩		基部欠損	
15	石鏃	40.2	12.6	3.8	1.7	頁岩	21		
16	石鏃	36.0	13.4	3.9	1.4	頁岩		未製品 床面出土	
17	石鏃	11.1	8.6	4.0	0.2	黒曜石		先端部のみ 床面出土	
18	石鏃	20.8	16.8	3.0	0.8	頁岩		基部欠損 床面出土	
19	石鏃	31.4	17.6	6.1	3.2	頁岩		基部欠損 床面出土	
20	石槍	85.0	23.8	12.2	18.4	頁岩	22		
21	石槍	41.4	24.6	8.4	5.5	黒曜石	23	床面出土	
22	石槍	64.6	35.0	10.2	12.2	頁岩	24		
23	石槍	50.8	21.2	17.6	6.5	頁岩	25		
24	石鏃	19.6	18.4	11.2	4.6	チャート	26		
25	石鏃	19.5	9.9	3.8	0.7	チャート			
26	石鏃	26.5	15.3	9.0	3.1	チャート			
27	石鏃	20.4	7.8	4.4	1.4	チャート	27		
28	石鏃	27.4	5.3	10.0	4.2	チャート	28	床面出土	
29	石鏃	21.8	12.7	4.4	1.2	チャート			
30	石鏃	8.8	17.3	4.8	1.2	チャート	29		
31	つまみ付きナイフ	61.8	24.0	5.6	8.6	頁岩	30	床面出土	
32	削器	35.3	17.4	3.9	2.8	頁岩		両側縁両面加工	
33	削器	40.4	36.8	10.5	12.3	頁岩		両側縁背面加工 床面出土	
34	削器	67.4	38.8	11.8	31.5	頁岩	34		
35	搔器	31.0	27.5	10.9	10.1	黒曜石		背面に原石を残す	
36	搔器	25.0	34.8	10.4	8.9	チャート	32		
37	模型石器	25.5	22.3	8.9	6.3	頁岩			
38	R・F	37.1	28.4	5.0	4.7	頁岩		一側縁背面加工	
39	R・F	28.7	18.3	5.6	2.3	頁岩		一側縁両面加工	
40	R・F	54.9	21.5	5.6	6.4	頁岩		一側縁背面加工	
41	R・F	58.1	26.4	12.2	17.3	頁岩			
42	R・F	35.4	23.2	6.3	3.9	黒曜石			
43	R・F	43.6	28.3	10.1	13.5	頁岩		一側縁背面加工	
44	R・F	65.9	42.8	24.9	82.6	チャート			
45	R・F	33.2	21.0	7.2	4.8	頁岩	31		
46	R・F	25.3	20.3	4.7	2.5	頁岩		先端部両面加工	
47	R・F	41.7	14.3	9.1	3.6	頁岩		一側縁両面加工	
48	R・F	33.0	21.0	3.4	2.2	頁岩	33	床面出土	
49	R・F	43.7	37.7	10.1	14.4	頁岩		一側縁背面加工 床面出土	
50	R・F	33.2	22.9	8.4	5.2	頁岩		背面加工の側縁部片 床面出土	
51	R・F	46.4	23.0	8.6	7.9	頁岩	35	床面出土	
52	R・F	38.3	29.7	9.6	7.6	頁岩		一側縁背面加工 床面出土	
53	R・F	40.7	32.0	12.7	20.6	頁岩		背面加工の側縁部片 床面出土	
54	R・F	59.7	34.9	16.5	24.0	頁岩		床面出土	

表Ⅱ-3 H-1 出土石器一覧表(2)

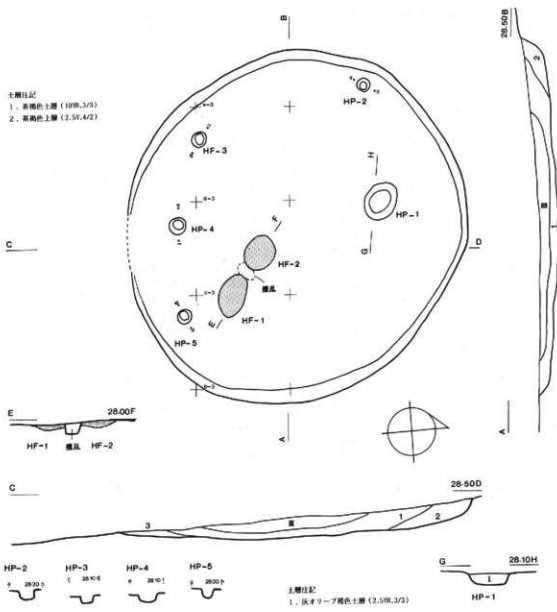
No	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
55	R・F	31.8	11.3	5.9	2.0	頁岩		床面出土
56	R・F	26.3	24.4	8.5	6.0	頁岩		床面出土
57	R・F	32.7	17.6	7.1	4.1	頁岩		床面出土
58	U・F	59.6	51.6	25.6	77.7	頁岩		
59	U・F	26.1	27.3	8.6	3.9	頁岩		床面出土
60	石核	77.4	45.4	24.6	88.0	頁岩	36	
61	石斧	27.7	16.1	13.2	5.2	頁岩		
62	石斧	39.2	12.6	3.1	1.6	片岩		破片
63	石斧	54.3	23.8	7.1	7.3	片岩		破片
64	すり石	164.0	84.9	40.2	800	花崗岩		断面楕円形、両側面に剥離
65	すり石	150.0	99.0	36.8	760	花崗岩	37	床面出土
66	すり石	158.0	91.4	64.4	1,370	安山岩	38	
67	すり石	123.3	64.3	25.0	300	砂岩	39	
68	すり石	170.0	90.4	43.8	880	麻績砂岩	40	床面出土
69	すり石	158.0	94.5	34.5	710	花崗岩	41	床面出土
70	すり石	145.3	94.2	34.5	630	花崗岩		断面楕円形
71	すり石	122.0	77.4	32.4	350	安山岩		断面楕円形
72	すり石	146.3	88.4	20.7	380	安山岩		板状礫 床面出土
73	すり石	148.0	102.6	38.7	770	花崗岩		断面楕円形 床面出土
74	すり石	180.0	99.3	43.2	1,150	花崗岩		断面楕円形 床面出土
75	すり石	192.0	73.5	39.5	400	花崗岩		板状礫
76	すり石	193.0	106.7	35.7	970	花崗岩	42	
77	たたき石	98.5	66.2	38.1	380	花崗岩		一側面に敲打痕
78	たたき石	46.2	46.5	32.6	100	花崗岩		
79	石錘	58.5	34.5	9.2	18.6	安山岩		床面出土
80	石錘	78.1	64.7	21.2	15.0	安山岩	43	
81	砥石	112.2	58.9	28.6	140	砂岩	44	
82	石皿	185.0	150.0	36.8	1,020	安山岩	45	
83	台石	282.0	234.0	123.5	13,000	花崗岩	46	
84	半円状打製礫	215.0	102.1	16.4	63.0	安山岩		両側面に剥離

H-2

遺構

D-19区を調査中、Ⅲ層の落ち込みを検出し、竪穴と確認した。H-1に較べ掘り込みは浅く南側の壁の立ち上りを確認することができなかった。立ち上がりが確認できた北側の形状から、平面形は円形と考えられる。竪穴の南東部には炉が2基(HF-1・2)検出されている。HF-1は長径0.45m、短径0.30m、厚さ0.06mで、HF-2は長径0.39m、短径0.32m、深さ0.07m、ともに長軸は北西-南東を向く。また、北西部には長径0.40m、短径0.33m、深さ0.25mの円形の土壇(HP-1)が検出され、覆土は炭化物を多く含む灰黄褐色土が主体で、墳底には砂質のシルトが堆積している。人為堆積の可能性のある特異な施設と考えられる。柱穴は精査した結果、南側に3基(HP-3~5)、北側に1基(HP-2)検出された。

本竪穴は、H-1に較べて掘り込みが浅く、炉、柱穴、土壇の分布がそれぞれ片寄って位置するなどの特徴があり、H-1とは異なる性格の遺構と考えられる。時期は床面近くでⅢ群d類の一括土器が出土していることから、H-1同様、縄文時代中期後葉と考えられる。



図II-6 H-2図

床面出土遺物はH-1に較べると少ない。しかしその分布はb-3区に一括土器、d-3区では石棒が出土しているほか、石核がe-3区に3点が分布するなど遺物の分布に、若干の器種毎の片寄りが認められる。また、他の壺穴に較べ、Rフレイク、Uフレイクの出土比率が高い。

遺物

1は胴部が大きく膨らみ、口縁部の外反する深鉢形土器である。底部は欠損している。口縁部には縄線文が2条施される。2・3も口縁部に縄線文の施されたもので、2は1条、3は数条走る。4は斜め方向の太い沈線文が施されているものである。5~7は胴部の資料で、5には縄線文が、7には沈線文が施されている。8は底部である。9は有柄凸基の石鏃、10は石鏃未製品と考えられる。11は

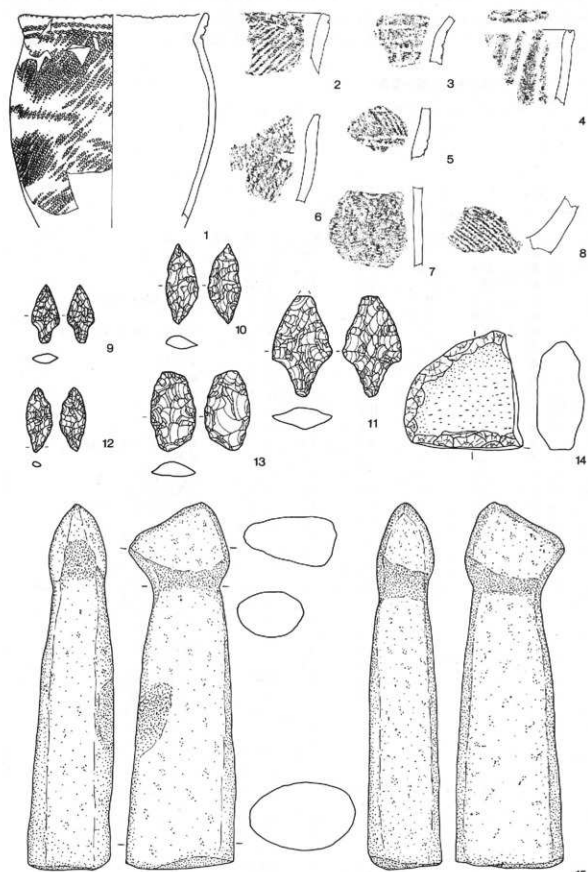


图 II-7 H-2 出土遺物

槍身の幅広の石槍で先端部が欠損している。12は石錐、13は削器である。14はすり石で、周縁に調整が施されている。15は石棒である。長さは40cm、太さは柄部の太い部分で7cmである。砂岩製で、図Ⅱ-14、25に較べると堅く、丈夫である。整形後に表面に擦り調整を施している。(木村 哲朗)

表Ⅱ-4 H-2出土復元土器一覽表

No	分類	器高(cm)	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	図番	備 考
1	Ⅲ d		20.0	22.0		0.7	1	床面出土

表Ⅱ-5 H-2出土石器一覽表(1)

No	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備 考
1	石鏃	27.6	12.4	5.0	1.0	頁岩		木葉形
2	石鏃	28.4	14.8	8.4	3.1	頁岩		木葉形
3	石鏃	30.6	14.4	3.9	1.0	頁岩		床面出土
4	石鏃	61.8	24.0	8.4	8.1	頁岩		木葉形,基部わずかに欠損
5	石鏃	31.0	14.0	4.4	1.2	頁岩	9	
6	石鏃	25.8	17.8	5.1	1.4	頁岩		先端部及び基部欠損 床面出土
7	石鏃	42.4	17.0	7.0	3.4	頁岩	10	
8	石鏃	28.0	14.4	5.0	1.8	頁岩		未製品
9	石槍	68.2	19.8	7.0	7.5	頁岩		柳葉形
10	石槍	53.6	31.6	11.0	12.4	頁岩	11	床面出土
11	石槍	50.0	23.2	10.8	8.7	頁岩		有柄凸基
12	石錐	33.8	13.8	7.4	3.3	頁岩	12	床面出土
13	石錐	32.4	15.4	8.2	4.9	チャット		有柄,刃部つぶれ 床面出土
14	石錐	16.6	15.2	3.6	0.8	チャット		有柄
15	石錐	27.8	17.6	6.8	3.1	チャット		有柄 床面出土
16	削器	54.6	30.2	9.4	14.8	頁岩		両側縁両面加工
17	削器	37.8	39.6	9.8	11.8	頁岩		両側縁背面加工 床面出土
18	削器	41.6	23.8	9.0	9.7	頁岩	13	床面出土
19	R・F	52.2	29.8	8.1	12.4	チャット		一側縁両面加工
20	R・F	52.4	30.8	10.4	13.1	泥岩		一側縁背面加工 床面出土
21	R・F	40.6	24.8	8.6	7.2	チャット		一側縁両面加工 床面出土
22	R・F	27.2	49.1	8.8	8.2	頁岩		一側縁両面加工の端部片 床面出土
23	R・F	28.8	29.4	6.8	5.1	頁岩		一側縁両面加工 床面出土
24	R・F	49.6	35.4	22.4	26.4	頁岩		一側縁背面加工 床面出土
25	R・F	69.6	48.8	19.0	60.1	頁岩		一側縁背面加工 床面出土
26	R・F	24.0	15.2	7.0	2.1	チャット		両側縁背面加工 床面出土
27	R・F	25.9	15.4	6.0	1.9	チャット		一側縁背面加工 床面出土
28	R・F	16.8	11.8	2.8	0.6	黒曜石		一側縁両面加工
29	R・F	57.2	25.4	10.0	9.0	頁岩		一側縁両面加工 床面出土
30	U・F	42.0	29.0	8.6	6.7	頁岩		一側縁刃こぼれ状,背面に原石面有り 床面出土
31	U・F	48.4	61.2	17.6	30.7	頁岩		一側縁刃こぼれ状 床面出土
32	U・F	42.6	11.9	7.0	5.0	頁岩		一側縁刃こぼれ状 床面出土
33	U・F	23.4	33.2	10.6	6.3	チャット		一側縁刃こぼれ状 床面出土
34	U・F	26.6	31.0	5.3	3.6	頁岩		一側縁刃こぼれ状 床面出土
35	U・F	40.8	26.0	13.0	6.3	頁岩		一側縁刃こぼれ状 床面出土
36	石核	70.2	50.0	43.6	140	頁岩		
37	石核	69.8	45.6	24.8	69.5	頁岩		二面に原石面残す 床面出土
38	石核	45.6	38.8	25.4	34.8	頁岩		一面に原石面残す 床面出土
39	石核	41.6	38.0	29.6	42.9	チャット		床面出土
40	すり石	95.9	92.1	36.9	440	花崗岩	14	床面出土
41	たたき石	86.4	63.4	24.5	200	凝灰岩		一端に敲打痕

表Ⅱ-6 H-2出土石器一覧表(2)

No.	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
42	たたき石	71.6	52.0	29.0	160	花崗岩		両端及び一側縁に敲打痕有り
43	石棒	290.0	85.2	61.8	1,360	砂岩	15	

H-3

遺構

E-18区を調査中、Ⅲ層の落ち込みを検出し、小グリット及びセクションベルトに合わせてトレンチを掘ることにより壁の立ち上がりを確認した。グリットはD-17・18区、E-17・18区にまたがる。H-2同様、掘り込みは浅く、南東側の壁の立ち上がりを確認することはできなかった。平面形は北西側の壁の立ち上がりの形状から推して、長軸を北西-南東に向けた楕円形と考えられる。焼土は北西側1カ所(HF-1)、南東側2カ所(HF-2・3)に検出された。HF-1の東側には、長径0.45m、短径0.35m、深さ0.10mの円形の土壌(HP-1)が発見された。覆土内からは炭化物が若干見つかかり、焼土と関連する施設と考えられる。柱穴は精査したが、1基(HP-2)しか検出されなかった。また、HF-3の東側に礫群が出土しており、竅穴に伴う施設と考えられる。

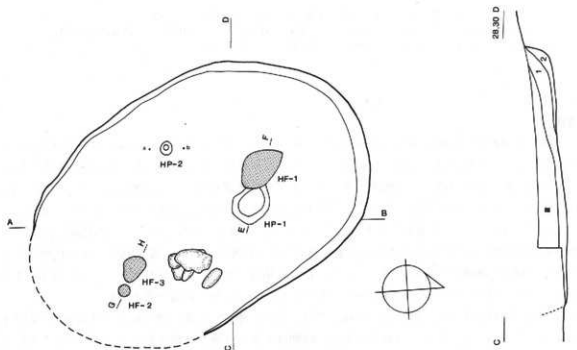
本竅穴も、規模が小さく、掘り込みが浅いこと、焼土、礫群、土塊、柱穴など“付属施設”がそれぞれ片寄って分布しているなどの特徴がある。時期は床面よりⅢ群d類土器が出土していることから、H-1、2同様、縄文時代中期後葉と考えられる。

床面出土の遺物は、H-2同様、H-1に較べて少なく、他の竅穴に較べフレイクチップは特に少なかった。分布はH-2にみられるような種類、器種毎の分布上の片寄り認められない。

遺物

1は胴部から口縁部に向けなだらかに立ち上がる深鉢型土器である。口縁部には縄線文が1条巡り、器面全体には縄線文と同じ原体と考えられる縄文が施文されている。2の底部は床面からの出土であり、同一個体である口縁部の破片を推定復元した。比較的小型の深鉢型土器と考えられる。口縁部には縄線文が巡り、胴部にはそれと同一原体と考えられる縄文が縦方向に施文されている。なお、この土器はH-4出土の土器片と接合した。3~7は口縁部の破片である。3・5・6は口唇に刺突を施し、5・6には口縁部文様帯にも同様の工具による刺突文が巡る。4は太い縄線文が巡るもの、7は貼付帯と縄線文のめぐるものである。8は板状の泥岩を加工して作った石槍の模造品で、石匙の可能性ある。9は石槍であるが、左右対称であり、未製品もしくは破損品を再加工した可能性が考えられる。10・11は石錐である。12は小型のつまみ付きナイフである。13・14はRフレイクである。15はすり石である。扁平な楕円礫を利用し、図の左側縁には敲打痕が認められ、たたき石としても利用したものである。16はたたき石で、楕円礫の長軸両端を利用している。17は砥石で砂岩製である。

(木村 哲朗)



土壤注記

1. 暗褐色土層 (109R.3/2)

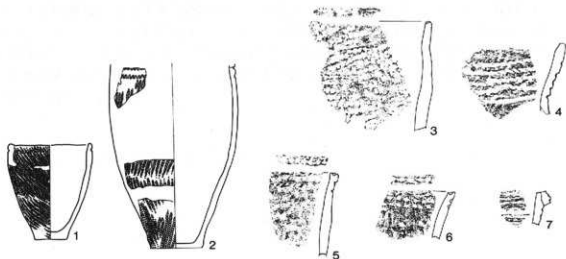


土壤注記

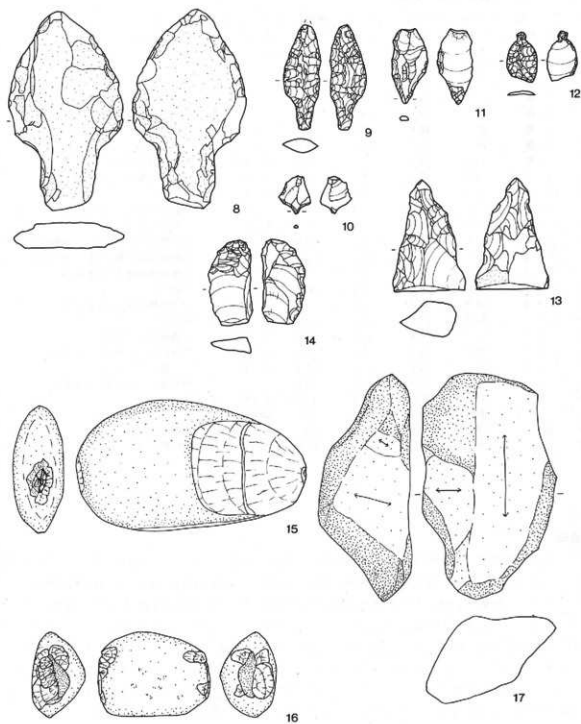
1. 深褐色土層 (109R.3/2)

2. 褐色土層 (109R.3/3)

3. 紅褐色土層 (109R.7/3)



圖II-8 出土遺物(1)



圖II-10 H-3出土遺物(2)

表II-7 H-3出土復元土器一覽表

No.	分類	器高(cm)	口径(cm)	胴徑(cm)	底徑(cm)	器厚(cm)	図番	備考
1	Ⅲd	10.0	9.0	7.8	3.5	0.5	1	床面出土
2	Ⅲd			13.0	5.5	0.5	2	床面出土 H-4出土破片と接合

表Ⅱ-8 H-3 出土石器一覧表

No.	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	石 棒	104.8	59.6	12.4	40.0	泥 岩	8	模造品,石匙か?
2	石 棒	56.0	19.0	7.4	5.5	頁 岩	9	床面出土
3	石 錐	20.9	17.8	5.0	1.5	チャート	10	
4	石 錐	39.0	19.0	6.8	5.0	チャート	11	
5	石 錐	21.0	15.5	8.2	3.2	チャート		有柄,刃部つぶれ
6	石 錐	31.4	18.6	5.7	3.2	チャート		有柄,刃部つぶれ
7	石 錐	26.3	16.6	7.1	3.0	チャート		有柄,未使用
8	石 錐	25.5	14.7	10.6	3.3	チャート		有柄 床面出土
9	石 錐	43.1	18.9	9.7	7.3	頁 岩		縦長,刃部つぶれ 床面出土
10	つまみ付きナイフ	25.8	14.9	4.5	1.5	頁 岩		背面全面加工, 床面出土
11	つまみ付きナイフ	26.6	16.0	3.0	1.1	頁 岩	12	
12	R・F	34.9	23.4	7.9	4.2	頁 岩		両側縁両面加工, 床面出土
13	R・F	34.8	10.0	7.1	1.5	頁 岩		一側縁背面加工
14	R・F	62.5	32.8	9.1	19.0	頁 岩		両側縁両面に粗い加工, 床面出土
15	R・F	69.1	42.6	20.0	62.5	頁 岩		両側縁両面に粗い加工, 床面出土
16	R・F	35.7	27.9	9.6	39.7	頁 岩		両側縁腹面加工, 床面出土
17	R・F	59.0	38.6	19.6	38.8	チャート	13	床面出土
18	R・F	44.9	33.9	5.8	6.7	頁 岩		一側縁腹面加工, 床面出土
19	R・F	45.0	23.6	12.4	10.1	頁 岩	14	床面出土
20	U・F	63.9	30.4	21.8	32.3	頁 岩		一側縁刃こぼれ状
21	U・F	32.6	24.6	8.0	5.9	頁 岩		周縁に刃こぼれ状 床面出土
22	U・F	34.1	20.9	11.4	17.4	頁 岩		一側縁刃こぼれ状
23	U・F	51.4	32.9	8.6	13.9	チャート		両側縁刃こぼれ状 床面出土
24	すり石	176.0	102.7	42.3	1,100	凝結岩	15	床面出土
25	たたき石	87.8	66.5	46.0	400	凝結岩	16	
26	砥石	102.7	80.6	59.1	730	砂 岩	17	床面出土
27	台石	265.0	208.0	98.0	8,000	花崗岩		楕円礫を使用

H-4

遺構

D-18区を調査中、Ⅲ層の落ち込みを確認し、グリットに沿ってトレンチを開けることにより、壁の立ち上がりを確認した。堅穴は発掘区外に大きく広がり、遺構の範囲にあわせ、調査範囲を広げた。グリットはC-18区・19区、D-18区・19区にまたがる。堅穴の平面形は長軸を北東-南西に向けた楕円形と考えられるが、南西側の壁の立ち上がりは確認できず、正確な形状は不明である。堅穴のほぼ中央に長径0.56m、短径0.50m、床面からの深さ0.25mの土壌(HP-1)が検出され、堅穴内の施設と考えられる。柱穴は北西側に4基(HP-2~5)検出されたが、南東側には認められなかった。なお、北西側の3基(HP-2~4)の柱穴はおよそ直線上に並ぶ。炉は検出されなかった。時期はⅢ群d類土器が床面より出土しており、H-1~3同様、縄文時代中期後葉と考えられる。

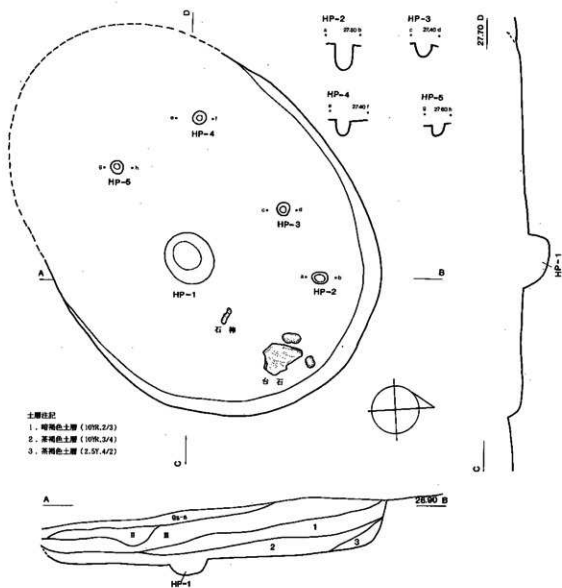
遺物の量は多い。床面からチャート製の石錐が多量に出土。その多くは使用痕の認められるものである(表Ⅱ-11)。また、チャートのフリイク・チップも多く出土し、石錐の製作及び使用に関わる場であったことを伺わせる。北東側には石棒、大型の台石が出土している。台石の周りには礫が出土、台石とともに堅穴内施設を構成していたと考えられる。なお、覆土からも多量のチャート製石錐が出土しているが、これは、住居廃絶後再び作業場として利用されたことを意味するものと思われる。

遺物

1は口縁部と底部の欠損した深鉢形土器である。胴上部と下部の破片は接合せず、図上で推定復元した。文様は斜行縄文が施されている。2は手ずくねによるミニチュア土器である。口縁部は欠損し

ている。底部は胎土をえぐり、揚げ底としている。器面には横方向の沈線文が巡る。3は口縁部の破片で、口唇に刺突文、口縁部には縦方向の貼付帯や横方向の縄線文がめぐる。4～8は胴部の破片である。5は縄線文が施されている。9は柳葉状を呈する石鏝である。10～15は石錐である。10は頁岩製で、全体に調整が加えられている。11～15はチャート製のもので、本地点で製作されたものと考えられる。11～14は刃部のみ加工、15は全面に調整が加えられている。本壜穴出土の石錐は12～14の形態が最も多い。16は挟入石器、17は削器である。18・19は板状の泥岩を加工した石製品と考えられる。20・21はすり石である。21は長軸の両端を打ち欠いており、石鏝としても利用したものと思われる。すり面の幅は狭い。22はたたき石で、楕円際の側縁を利用している。23・24は台石である。特に23は本壜穴の施設の一つであったと考えられる。25は石棒で、頭部は四角形を呈する。図Ⅱ-7の15に較べて石質は極めて脆く、取り上げの時点でボロボロに砕けた。

(木村 哲朗)



図Ⅱ-10 H-4図

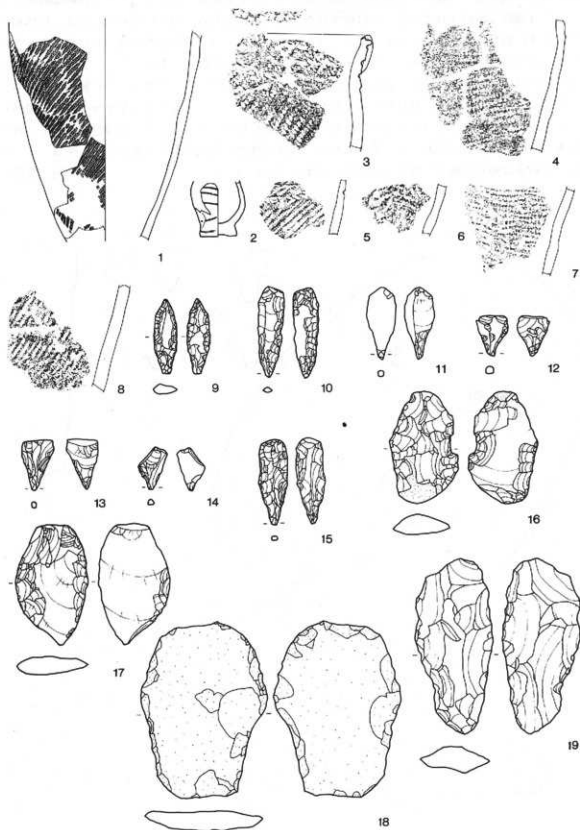
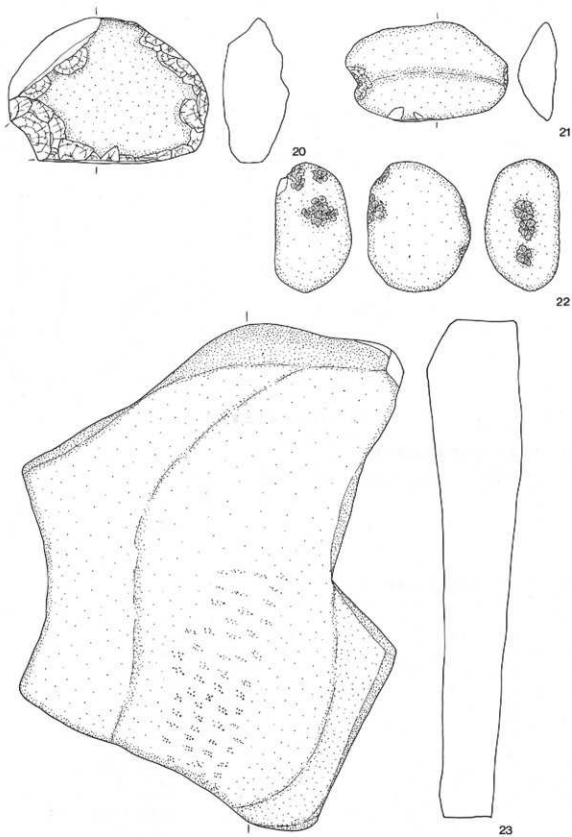
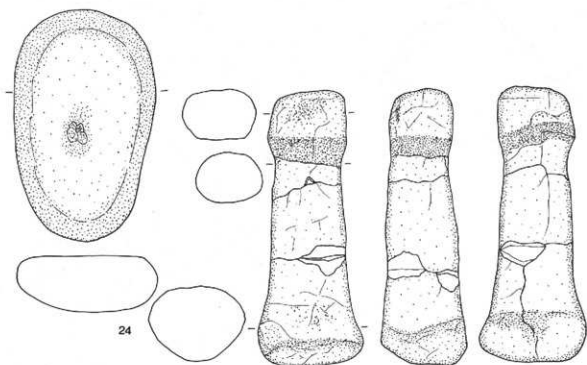


圖 II-12 H-4 出土遺物 (1)



图II-12 H-4出土遗物(2)



図II-13 H-4出土遺物(3)

表II-9 H-4出土復元土器一覽表

No	分類	器高(cm)	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	図番	備 考
1	IV a					0.8	1	
2	III d				3.8	0.6	2	床面出土

表II-10 H-4出土石器一覽表(1)

No	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備 考
1	石鏃	37.6	19.9	8.6	3.8	頁岩		有柄凸基
2	石鏃	20.5	10.1	3.5	0.8	頁岩		未製品
3	石鏃	32.4	13.5	5.6	1.1	頁岩		基部欠損
4	石鏃	20.0	13.7	7.2	1.5	頁岩		先端部及び基部欠損
5	石鏃	17.1	16.7	5.7	1.5	黒曜石		基部欠損
6	石鏃	13.5	18.7	7.3	4.1	黒曜石		基部欠損, 焼け
7	石鏃	41.9	10.6	4.7	1.8	頁岩		有柄凸基, 一側縁欠損
8	石鏃	30.8	22.3	8.0	2.9	頁岩		有柄凸基
9	石鏃	24.4	17.5	6.4	2.5	黒曜石		先端部及び基部欠損
10	石鏃	29.2	12.6	5.0	1.4	頁岩		有柄凸基, 基部が鏃身の2倍の長さ床面出土
11	石鏃	32.0	16.1	5.2	1.5	頁岩		木葉形 床面出土
12	石鏃	37.1	22.3	7.3	5.0	黒曜石		床面出土
13	石鏃	34.4	23.7	5.1	4.4	頁岩		先端部及び基部欠損 床面出土
14	石鏃	14.4	11.4	5.7	0.8	黒曜石		基部欠損 床面出土
15	石鏃	41.2	14.6	6.5	3.3	頁岩		木葉形 床面出土
16	石鏃	30.0	16.9	4.5	1.6	頁岩		有柄凸基 床面出土
17	石鏃	28.0	13.4	4.1	1.2	頁岩		有柄凸基 床面出土

表Ⅱ-11 H-4 出土石器一覽表(2)

No.	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
18	石鏃	27.9	15.1	4.4	1.1	頁岩		未製品 床面出土
19	石鏃	34.0	14.8	6.3	2.6	頁岩		先端部欠損 床面出土
20	石鏃	39.4	12.2	5.0	2.2	頁岩	9	床面出土
21	石鏃	48.1	13.4	7.7	5.2	頁岩	10	床面出土
22	石鏃	37.9	15.6	7.7	4.0	チャート	11	
23	石鏃	21.1	16.8	6.2	2.2	チャート	12	床面出土
24	石鏃	26.8	16.8	10.0	7.3	チャート	13	
25	石鏃	22.0	12.0	5.2	1.8	チャート	14	床面出土
26	石鏃	46.4	16.6	13.0	8.8	チャート	15	床面出土
27	石鏃	23.5	16.0	6.0	2.2	チャート		有柄, 刃部つぶれ
28	石鏃	19.9	12.8	4.8	1.3	チャート		有柄, 刃部つぶれ
29	石鏃	26.9	13.8	10.5	2.5	チャート		有柄, 未使用
30	石鏃	15.3	8.7	4.3	0.7	チャート		有柄, 刃部つぶれ
31	石鏃	24.9	17.7	7.1	3.2	チャート		
32	石鏃	23.7	14.8	7.3	2.5	チャート		有柄, 未使用
33	石鏃	22.8	14.9	7.6	2.6	チャート		有柄, 先端部欠損
34	石鏃	21.7	8.5	5.7	1.2	チャート		棒状
35	石鏃	25.0	21.8	9.4	4.8	チャート		有柄, 刃部つぶれ
36	石鏃	36.1	17.4	7.8	4.8	チャート		有柄
37	石鏃	31.6	17.8	5.4	3.4	チャート		有柄, 先端部欠損
38	石鏃	25.8	15.0	7.4	2.7	チャート		有柄, 刃部欠損
39	石鏃	21.0	13.2	9.1	1.6	チャート		有柄, 先端部欠損
40	石鏃	27.6	13.0	7.0	2.6	チャート		有柄, 刃部つぶれ
41	石鏃	38.2	14.6	9.0	5.2	チャート		有柄, 先端部欠損
42	石鏃	23.0	10.7	8.2	1.9	チャート		有柄, 刃部つぶれ
43	石鏃	17.3	16.6	7.4	1.6	チャート		有柄, 刃部つぶれ
44	石鏃	27.8	14.4	10.0	3.6	チャート		有柄, 刃部わずかにつぶれ
45	石鏃	27.8	23.2	8.6	5.4	チャート		有柄
46	石鏃	25.6	14.2	8.0	2.8	チャート		有柄
47	石鏃	31.6	16.0	14.8	7.0	頁岩		床面出土
48	石鏃	32.0	15.6	5.8	2.6	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
49	石鏃	24.8	13.0	9.0	2.4	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
50	石鏃	28.4	14.6	6.6	2.9	チャート		有柄, 先端部欠損 床面出土
51	石鏃	33.4	18.0	5.2	3.5	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
52	石鏃	22.3	12.8	6.6	2.1	チャート		有柄, 先端部欠損 床面出土
53	石鏃	30.8	20.0	8.5	5.0	チャート		有柄, 刃部わずかにつぶれ 床面出土
54	石鏃	31.6	16.0	13.6	5.4	チャート		有柄, 先端部欠損 床面出土
55	石鏃	26.1	24.9	7.9	4.0	チャート		有柄, 刃部わずかにつぶれ 床面出土
56	石鏃	36.6	19.2	8.9	5.9	チャート		有柄, 刃部わずかにつぶれ 床面出土
57	石鏃	26.6	15.2	6.8	2.3	チャート		有柄, 刃部わずかにつぶれ 床面出土
58	石鏃	28.8	15.0	9.8	4.6	チャート		棒状, 刃部つぶれ 床面出土
59	石鏃	28.4	20.2	8.2	5.0	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
60	石鏃	23.6	15.7	6.5	2.0	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
61	石鏃	28.0	16.2	8.0	3.2	チャート		刃部つぶれ 床面出土
62	石鏃	28.0	13.8	6.7	2.4	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
63	石鏃	31.4	18.4	8.8	5.4	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
64	石鏃	20.8	15.8	7.6	3.3	チャート		有柄, 刃部わずかにつぶれ 床面出土
65	石鏃	24.0	19.2	6.8	2.7	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
66	石鏃	29.4	17.0	6.2	3.8	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
67	石鏃	39.0	16.4	7.0	3.7	チャート		有柄 床面出土
68	石鏃	28.6	17.6	12.4	5.4	チャート		有柄 床面出土
69	石鏃	21.8	16.6	6.8	2.5	チャート		有柄, 刃部つぶれ 床面出土
70	石鏃	29.0	10.2	4.4	1.2	頁岩		棒状, 刃部つぶれ 床面出土
71	石鏃	25.0	19.6	7.8	3.2	チャート		床面出土

表Ⅱ-12 H-4 出土石器一覧表(3)

No	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
73	石 錐	34.4	17.9	8.2	3.8	チャート		有柄,先端部欠損	床面出土
74	石 錐	25.1	21.6	7.1	2.8	チャート		有柄,刃部つぶれ	床面出土
75	石 錐	34.6	18.6	8.0	5.2	チャート		有柄,刃部つぶれ	床面出土
76	石 錐	22.7	11.8	9.6	1.7	チャート		有柄,刃部つぶれ	床面出土
77	石 錐	18.8	15.2	5.6	1.3	チャート		有柄,先端部欠損	床面出土
78	石 錐	23.8	14.2	9.0	2.4	チャート		有柄,刃部わずかにつぶれ	床面出土
79	石 錐	24.0	14.4	6.8	1.9	チャート		有柄,刃部つぶれ	
80	石 錐	28.8	15.4	5.2	2.2	チャート		有柄,刃部つぶれ	床面出土
81	つまみ棒ナイフ	62.8	31.0	6.1	10.0	頁 岩		一側縁両面加工,一側縁背面加工	床面出土
82	搔 器	66.3	47.0	16.4	43.0	頁 岩		両側縁背面加工	床面出土
83	搔 器	30.1	23.5	11.1	8.0	チャート		鱗皮片使用,一側縁背面加工	床面出土
84	搔 器	56.1	37.6	7.9	17.3	頁 岩		両側縁両面加工	床面出土
85	快入石器	91.8	41.2	15.4	36.7	頁 岩	16		
86	削 器	29.6	21.0	4.0	2.5	頁 岩		一側縁両面加工,一側縁背面加工	床面出土
87	削 器	30.9	19.2	4.4	2.9	頁 岩		縦長,一側縁両面加工,一側縁背面加工	床面出土
88	削 器	46.0	32.5	10.2	13.7	チャート		縦長,一側縁両面加工	床面出土
89	削 器	52.0	15.9	6.0	4.0	頁 岩		両側縁両面加工	床面出土
90	削 器	47.6	20.6	7.9	7.7	頁 岩		縦長,両側縁両面加工,一部背面加工	床面出土
91	削 器	62.6	37.8	12.4	25.3	頁 岩	17		床面出土
92	R・F	9.6	34.6	13.6	22.1	頁 岩			
93	R・F	50.9	38.7	9.5	13.0	頁 岩		両側縁背面加工	
94	R・F	28.6	19.3	4.5	2.3	頁 岩		一側縁背面加工	
95	R・F	40.4	18.0	5.8	3.9	頁 岩		一側縁背面加工	
96	R・F	57.5	38.0	15.2	26.7	頁 岩		両面に粗い加工	
97	R・F	21.0	11.7	5.7	1.4	チャート		先端部両面加工	石錐未製品?
98	R・F	33.8	16.2	5.5	2.7	頁 岩		一側縁両面加工	
99	R・F	39.4	30.0	6.6	7.4	頁 岩		両側縁背面加工,先端部欠損	
100	R・F	38.2	23.3	6.9	6.2	頁 岩		一側縁背面加工	
101	R・F	24.0	11.4	4.8	1.3	頁 岩		一側縁背面加工	
102	R・F	23.2	12.1	5.0	1.5	チャート		両側縁背面加工	石錐未製品?
103	R・F	28.1	15.5	6.3	4.4	チャート		一側縁背面加工	
104	R・F	45.3	32.4	10.5	16.1	頁 岩		一側縁両面加工	床面出土
105	R・F	53.2	39.3	11.5	22.5	頁 岩		一側縁背面加工	床面出土
106	R・F	40.2	19.1	10.7	7.1	チャート		一側縁背面加工	石錐未製品?床面出土
107	R・F	29.8	17.6	5.6	2.5	頁 岩		一側縁両面加工	
108	R・F	70.1	30.1	16.1	35.2	頁 岩		一側縁両面加工	
109	R・F	29.1	22.4	9.9	8.6	頁 岩		一側縁背面加工	床面出土
110	U・F	53.0	52.0	12.0	29.3	頁 岩			
111	U・F	28.3	26.3	14.6	7.2	黒曜石		一側縁刃こぼれ状,焼け	
112	U・F	42.5	33.0	7.4	6.3	頁 岩		一側縁刃こぼれ状	床面出土
113	石 核	79.9	55.7	51.2	24.0	チャート		一面に原石面残す	
114	石製品	92.4	66.8	8.9	55.5	泥 岩	18		
115	石製品	59.0	34.6	13.6	22.1	泥 岩	19		
116	石 錐	105.8	77.9	23.3	210	砂 岩			
117	すり石	109.8	60.7	25.4	210	安山岩		断面楕円形	床面出土
118	すり石	191.0	130.0	34.7	920	安山岩		板状礫使用	
119	すり石	166.0	93.7	35.2	880	凝灰岩		断面楕円形	床面出土
120	すり石	121.5	68.4	36.2	400	砂 岩		断面楕円形,一面に欠損有り	床面出土
121	すり石	156.0	115.6	47.3	1,060	砂 岩	20		
122	すり石	127.7	78.1	28.6	410	花崗岩	21		
123	すり石	125.9	60.5	52.0	550	凝灰岩			床面出土
124	たたき石	94.5	66.6	33.6	340	花崗岩		一側縁に敲打痕	床面出土
125	たたき石	98.6	91.5	39.4	550	花崗岩		一側縁に敲打痕	床面出土
126	たたき石	102.7	80.6	59.1	730	花崗岩	22		床面出土

表Ⅱ-13 H-4 出土石器一覧表(4)

No.	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
127	たたき石	67.7	50.2	22.5	140	花崗岩		一端に敲打痕 床面出土	
128	たたき石	64.7	47.9	18.1	89.1	花崗岩		一側面に敲打痕 床面出土	
129	砥石	84.1	31.8	14.5	41.5	砂岩		一側面に使用痕	
130	台石	210.0	100.0	94.5	1,820	花崗岩		端部片, 焼け 床面出土	
131	台石	380.0	337.0	73.5	9,000	安山岩	23	床面出土	
132	台石	180.0	113.4	54.4	1,810	花崗岩	24		
133	台石	393.0	299.0	81.0	7,800	安山岩		偏平槽円礫を使用, 焼け	
134	石棒	215.0	82.7	68.0	1,160	花崗岩	25	床面出土	

2節. 土 城

P-1

遺構

発掘区の南側, D-3区のIV層を調査中, すり石とその周辺の黒褐色土の落ち込みを確認, P-1とした。長径1.00m, 短径0.54m, 確認面から墳底までの深さは0.06mであり, 墳底はほぼ水平な浅い皿状を呈する土壌である。覆土は2層からなり, 自然堆積である。確認が遅れたため浅い皿状となったが掘り込み面は確認面より上面にあり, 土壌の深さは更にあったものと思われる。

遺物は検出面のすり石の他, 覆土1層よりフレイクチップ1点, 墳底よりフレイクチップ2点が出土している。構築時期は遺物より縄文時代早期末葉と思われる。

遺物

1は墳底より出土のすり石である。断面三角形を呈する花崗閃緑岩の自然礫を使用している。すり面幅は約1.5cmとやや広めである。敲打調整などの加工は行われていない。(安西 雅希)

P-2

遺構

発掘区の南西側, F-18区を調査中, V層上面で礫2点を近位置で検出し, 礫の周辺に黒色土の落ち込みを確認, P-2とした。墳底はほぼ水平で西側の壁は傾斜のある斜面を切り崩すかたちでしっかり立ち上がる。長軸は南北方向を向き, 長径0.50m, 短径0.45m, 確認面からの深さ0.15mである。覆土の主体層である1層は締まりがあり, IV層に近い土質である。

遺物は検出面出土の礫2点のみである。

(木村 哲朗)

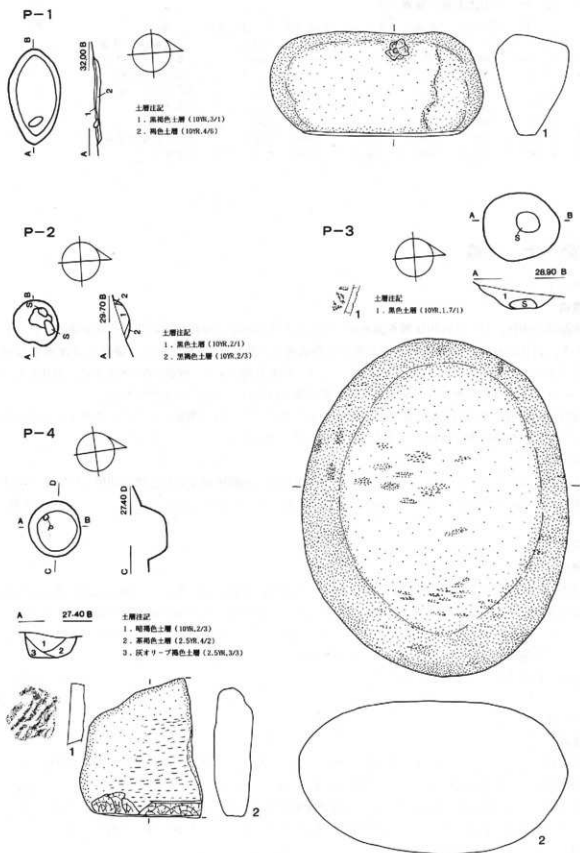
P-3

遺構

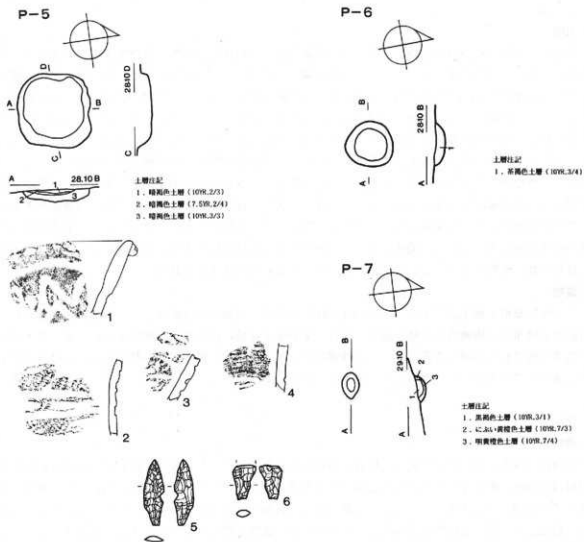
発掘区の南西側, E-18区を調査中, IV層下面にて落ち込みを確認, P-3とした。長径0.80m, 短径0.70m, 確認面からの深さ0.21mである。V層を掘り込んでいる。墳底はほぼ水平である。西壁の立ち上がりは斜面に合わせるように浅く, 東壁は比較的深く掘り込まれている。墳底には台石が置かれ, その脇より土器片1点が出土した。覆土は黒色土の1層のみで人為堆積の可能性がある。

遺物

1は口縁部破片で沈線文が施され, III群c類と考えられる。2は墳底より出土の台石である。



図II-14 P-1~4図



図II-15 P-5～7図

花崗閃緑岩が使用されている。はっきりとした使用痕は認められなかったが出土状況より台石と判断した。
(安西 雅希)

P-4

遺構

発掘区の中央部北寄り、D-17区をV層まで掘り下げたところで発見した。形状は楕円形で、長径は0.59m、短径は0.53m、確認面からの深さ0.20mである。土壌からはⅢ群土器1点、すり石1点、フレイク15点が出土している。

遺物

1は墳底面出土の土器でⅢ群である。2は覆土より出土したすり石で、板状礫を加工している。すり面の幅は約1cm。
(木村 哲朗)

P-5

遺構

発掘区の東側の緩斜面に立地し、H-2の床面及び、壁の精査中に焼土及び炭化物を多量に含む黒褐色土の落ち込みを確認した。H-2とは本土壌の北のコーナーに僅かに重複している。形状は隅丸方形で、長径が0.77m、短径0.75m、確認面からの深さは約0.14mである。覆土はすべて人為堆積であるが、その堆積状況から3層に分けることができる。下層よりローム質土を主体とするほぼ均質な3層、焼土や炭化物を多量に含む2層、汚れたローム質土を主体とする1層である。なお、1層は締まりがかなり強く、焼土形成後、“蓋”をするかのように踏み固められた層である可能性がある。このような堆積過程がどのような意味を持つかは明らかではないが、中期後半の本町長浜2遺跡、南茅部町白尻B遺跡などの報告例のように、土壌と“火”の存在から何等の儀礼に伴う可能性がある。

遺物は各層にわたって多量に出土している。特に、1・3層上位からの出土が多く、堆積状況や遺物の出土状況などから長浜2遺跡のH-2、HP-24との類似性もある。構築時期については埋土よりⅢ群C類の土器が出土していることから、H-2より古いと考えられる。

遺物

1～4はⅢ群C類土器である。1は口縁部破片である。口唇には丸棒状工具による刺突が施され、口縁部文様帯には鋸歯状の文様が巡る。2は2条の横走沈線にはさまれた刺突文がめぐる。3・4は沈線文の施された小破片である。5・6は墳底面より出土した石鏃で黒曜石製である。5は丹念に調整が施されているが、6は調整が粗く未製品と思われる。(木村 哲朗)

P-6

遺構

発掘区の南東、D-19区においてIV層を調査中に発見された。形状はほぼ円形で、長径は約0.51m、短径は0.49m、深さは0.10mである。覆土は自然堆積であり、色調、土質などがH-2の覆土と共通している他、この土壌がH-2内の2基の焼土の長軸の延長線上にあることなどから、何らかの規制が想定され、H-2に伴う付属施設と考えられる。遺物は覆土からフレイク2点が出土したのみである。(木村 哲朗)

P-7

遺構

D-19区のV層上面を調査中、黒褐色土の落ち込みを確認、P-7とした。長径0.30m、短径0.20m、確認面からの深さ0.08mであり墳底はボウル状を呈する。覆土は4層からなり自然堆積と思われる。遺物は検出されなかった。(安西 雅希)

表Ⅱ-14 土壌出土石器一覧表

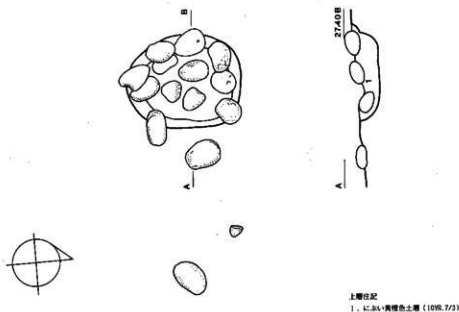
No.	遺構名	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	P-1	すり石	165.0	82.5	60.3	1,300	花崗岩	1	断面三角形
2	P-3	台石	268.0	210.0	120.0	10,000	安山岩	2	墳底面出土
3	P-4	すり石	93.0	112.6	35.3	470	花崗岩	2	
4	P-5	石鏃	16.6	10.4	4.2	0.6	黒曜石	5	先端部のみ
5	P-5	石鏃	20.2	10.0	4.2	0.7	黒曜石	6	破損されて検出、接合

3節. 石組遺構

S-1

遺構

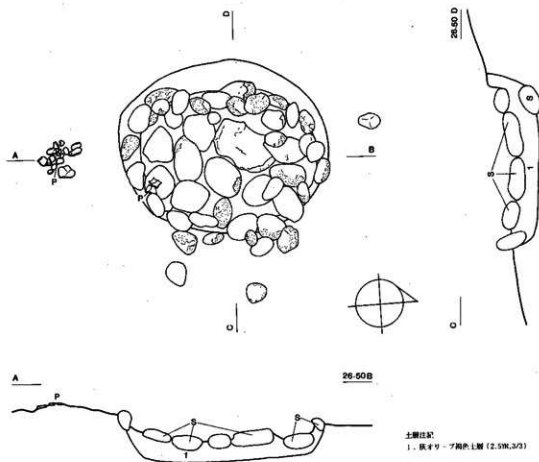
発掘区の東寄りのD-12区、沢状地形の枝沢と考えられる溝状の沢跡の北に隣接して位置する。IV層下位面を調査中に発見された。検出層位がIV層下であること、周辺の同じ層位からI群a類土器が出土したことから、縄文時代早期中葉の遺構と考えられる。範囲は直径約70cmぐらいに広がるが、一部の石は範囲外に流れ出ている。また、長径0.61m、短径0.49m、確認面からの深さ0.13mの土壌が検出され、石組遺構を構築するための掘り込み面と考えられる。石はすべて花崗岩を利用しており、一部は熱を受け、表面が剥落している。その他の遺物は出土せず、炭化物や焼土も検出されなかった。(木村 哲朗)



図II-16 S-1図

遺構

発掘区の東側のD-13~14区にまたがり、IV層下位を調査中に発見された。石組の範囲は南北に長軸を向け、長径1.00m、短径0.90mに及ぶ。石組は土壌を掘り込み、その中に石を敷きつめ築かれている。石は土壌の壁面には直径13cm前後の比較的小さめの石を用い、墳底面上には直径20cm前後の比較的平たく、大きめの石を用いている。なお、石の多くは花崗岩であるが、その中で一つ、大型の板状の安山岩が用いられており、何らかの意味があったものと考えられる。石の殆どは熱を受けており、焼けて表面が剥落しているものも半数に及ぶ。とくに、大型の安山岩は脆くなっており、取り上げの時点でボロボロに砕けた。石組を埋設した土壌の規模は長径1.12m、短径0.91m、確認面からの深さ0.15mである。覆土から若干の炭化物が検出されたものの、焼土は認められなかった。時期は石組の石の直上からI群a類土器(図II-19, 1)が発見された他、石組の北側、石組検出面と同一レ



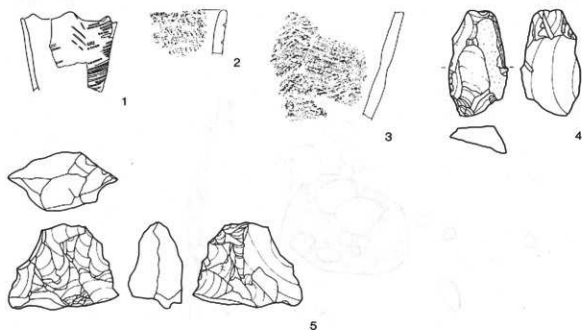
図II-17 S-2図

ベルでI群a類土器がまとまって出土していることなどから、S-1同様、縄文時代早期中葉と考えられる。

遺物は石組直上や覆土からI群a類土器が、覆土からはRフレイク、石核各1点の他、フレイクチップが若干出土している。なお、石組の下からは遺物は発見されなかった。

遺物

1は石組直上より出土したI群a類土器である。器形はすんなりと立ち上がる小型の深鉢型土器で、口縁には推定6個の山形突起があるものと思われる。文様は地文に斜め方向の貝殻条痕文が施されているほか、山形突起下に斜め右下がり方向の4本の沈線文が施されている。器面は内外面ともに煤が付着して黒褐色を呈する。出土状態、煤の付着状況から本遺構で利用された土器と考えられる。2は口縁部破片で地文である貝殻腹縁圧痕文の上から波状の平行沈線が施される。3は貝殻腹縁文の施された胴部破片である。4はRフレイク、5は石核である。(木村 哲朗)



図Ⅱ-18 S-2出土遺物

表Ⅱ-15 S-2出土復元土器一覧表

No	分類	器高(cm)	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	図番	備考
1	I a		10.0			0.5	1	石組直上出土

表Ⅱ-16 S-2出土石器一覧表

No	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	R・F	56.2	31.2	21.4	23.8	頁岩	4	
2	石核	57.0	49.0	32.0	63.7	頁岩	5	

S-3

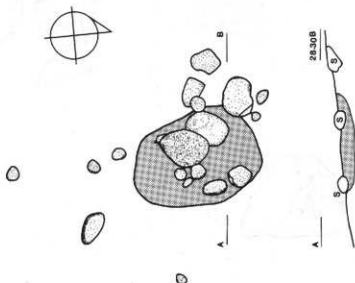
遺構

E-23区のV層を調査中、複数の礫の集中を確認し、また礫群の中央より炭化物を多く含む褐色の焼土が確認されたためS-3とした。焼土の範囲は長径0.58m、短径0.42m、厚さ0.06mである。S-3を構成すると考えられる礫は最終的には20を数えたが、石組と判断する以前に確認面のやや上面からも礫が出土しており、これもS-3を構成するものと考えられる。また焼土を中心に分布する礫群から若干離れた地点から検出された礫も受熱していることから元位置から移動したものと考え、石組の一部とした。掘り込み等は確認されなかった。焼土の北側からは礫が確認されなかったが、それが使用時からの状態か後世の礫の移動によるものかは明らかではない。

S-3は礫群と同一レベルからI群a類が出土しており、S-1、2同様、縄文時代早期中葉と考

えられる。

(安西 雅希)



図II-19 S-3図

表II-17 遺構一覧表(1)

遺構名	遺構内施設名	確認面	平面形	規模	備考
H-1		裏面	楕円形	4.60×3.20/0.46	風倒木により一部破壊される
H-1	HP-1	床面	隅丸長方形	0.85×0.55/0.10	覆土より魚骨検出
H-1	HP-2	床面	円形	0.14×0.14/0.12	
H-1	HP-3	床面	円形	0.16×0.12/0.14	
H-1	HP-4	床面	楕円形	0.17×0.14/0.17	
H-1	HP-5	床面	円形	0.15×0.13/0.20	
H-1	HP-6	床面	円形	0.19×0.18/0.22	
H-1	HP-7	床面	円形	0.16×0.15/0.26	
H-1	HP-8	床面	円形	0.15×0.15/0.27	
H-1	HP-9	床面	円形	0.18×0.18/0.22	
H-1	HF-1	床面	楕円形	0.50×0.29/0.04	
H-2		裏上面	円形	—×3.54/—	P-5と一部切り合う
H-2	HP-1	床面	楕円形	0.40×0.33/0.25	
H-2	HP-2	床面	円形	0.13×0.13/0.11	
H-2	HP-3	床面	円形	0.14×0.15/0.09	
H-2	HP-4	床面	楕円形	0.17×0.19/0.09	
H-2	HP-5	床面	楕円形	0.14×0.13/0.10	
H-2	HF-1	床面	楕円形	0.45×0.30/0.06	
H-2	HF-2	床面	楕円形	0.39×0.32/0.07	
H-3		裏下面	楕円形?	—×2.54/—	南東側の壁の立ち上がりが明確に追えず
H-3	HP-1	床面	楕円形	0.45×0.35/0.10	

表 II - 18 遺構一覽表 (2)

遺構名	遺構内施設名	確認面	平面形、	規模	備	考
H-3	HP-2	床面	円形	0.14×0.14/0.17		
H-3	HF-1	床面	楕円形	0.54×0.36/0.07		
H-3	HF-2	床面	楕円形	0.29×0.20/0.06		
H-3	HF-3	床面	円形	0.12×0.12/0.04		
H-4		Ⅲ下面	楕円形?	—×3.25/—		南西側の壁の立ち上がりが明確に途えず
H-4	HP-1	床面	楕円形	0.56×0.50/0.25		
H-4	HP-2	床面	円形	0.13×0.12/0.27		
H-4	HP-3	床面	円形	0.12×0.12/0.13		
H-4	HP-4	床面	円形	0.13×0.13/0.15		
H-4	HP-5	床面	円形	0.12×0.12/0.10		
P-1		Ⅳ上面	楕円形	1.00×0.54/0.06		
P-2		V上面	不正円形	0.50×0.45/0.15		
P-3		V上面	楕円形	0.80×0.70/0.21		
P-4		V上面	楕円形	0.59×0.53/0.20		
P-5		H-2床面	隅丸方形	0.77×0.75/0.14		H-2と一部切り合う
P-6		Ⅳ上面	円形	0.51×0.49/0.10		H-2の付属施設か
P-7		Ⅳ上面	楕円形	0.30×0.20/0.08		
S-1		Ⅳ下面	楕円形	0.61×0.49/0.13		数値は石組下の土壌の範囲
S-2		Ⅳ下面	楕円形	1.12×0.91/0.15		数値は石組下の土壌の範囲
S-3		Ⅳ下面	楕円形	0.58×0.42/0.06		数値は石組下の土壌の範囲、炭化物検出

第三章 遺物

1節 土器

包含層出土の土器は縄文時代早期中葉（I群a類）から縄文時代後期中葉（IV群c類）にわたる土器群を発見した。以下この概略を述べる。

I群土器

縄文時代早期に相当するものをまとめた。

a類

縄文時代早期中葉の貝殻文土器を一括した。

1種：貝殻腹縁文の施されたもの。底部形状は尖底と平底がある。

1は平縁の深鉢型土器で、胴下部から底部にかけて欠損している。口縁部文様帯はなく器面には貝殻腹縁文が横方向に連続して施されている。色調は外面は褐色、内面は茶褐色で貝殻により横方向の調整が施されている。2～11は縦位の貝殻腹縁文が施されているものである。4・5・8・9は横方向の列点文がめぐる。12～15は斜位の貝殻腹縁文が施されており、12・15にも横方向の列点文が施される。16は縦及び横方向、17は縦及び斜め方向、18～23は横方向の貝殻腹縁文が施されている。18には縦位の列点文、20～23は沈線文が施されている。24は先端の尖らした工具により横方向の列点文が施される。27は横方向の貝殻腹縁文がジグザグに施されているものである。28～31は底部の資料である。28～30は尖底、31は平底である。

2種：貝殻条痕文の施されているもの。底部は平底である。

32は平縁の深鉢型土器で、胴下部から底部にかけて欠損している。胴部はすんなりと立ち上がり、口縁部は外反、口唇部は若干肥厚する。胴部には横方向の貝殻条痕文が施されている。色調は外面が黄褐色、内面は褐色である。33は口縁に山形の小突起を持つ深鉢形土器で、底部は欠損し、また、口縁部・同上部と胴下部は接合しないため、推定復元した。器面には横方向、斜め方向の貝殻条痕文が施されている。色調は器面は暗褐色、内面は褐色である。34は口縁部が外反し、口唇が肥厚する平底の深鉢型土器である。口縁は平縁である。文様は口縁部は横方向、胴部は若干斜めに貝殻条痕文を施している。底部付近は無文である。色調は外面が黄褐色～灰褐色、内面は茶褐色で一部に煤が付着している。35～45は貝殻条痕文の施されているものの破片で、35は口唇に刺突が、36は口縁に刻みがめぐる。40は横方向の沈線文が施されている。42は貝殻条痕文が縦方向と横方向に施されているものである。

b類

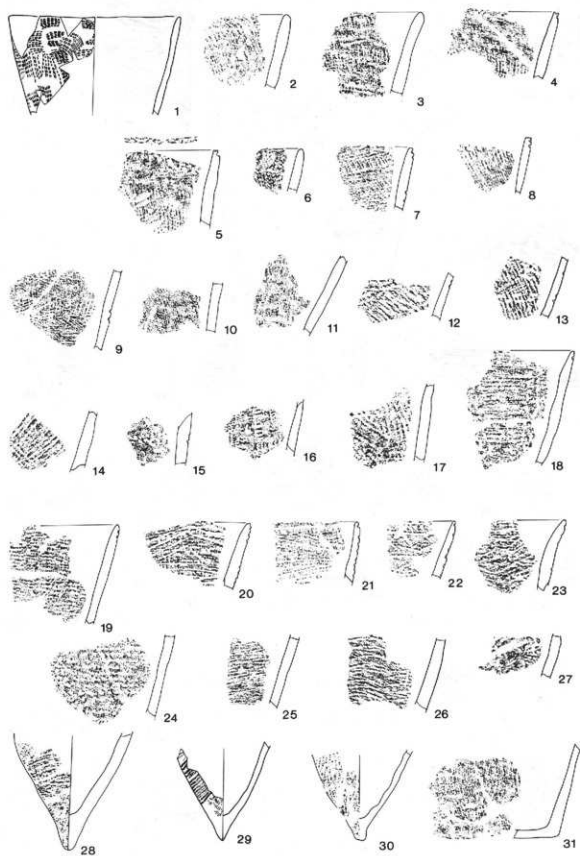
縄文時代早期末葉の土器をまとめた。

1種：中茶路式に相当するもの

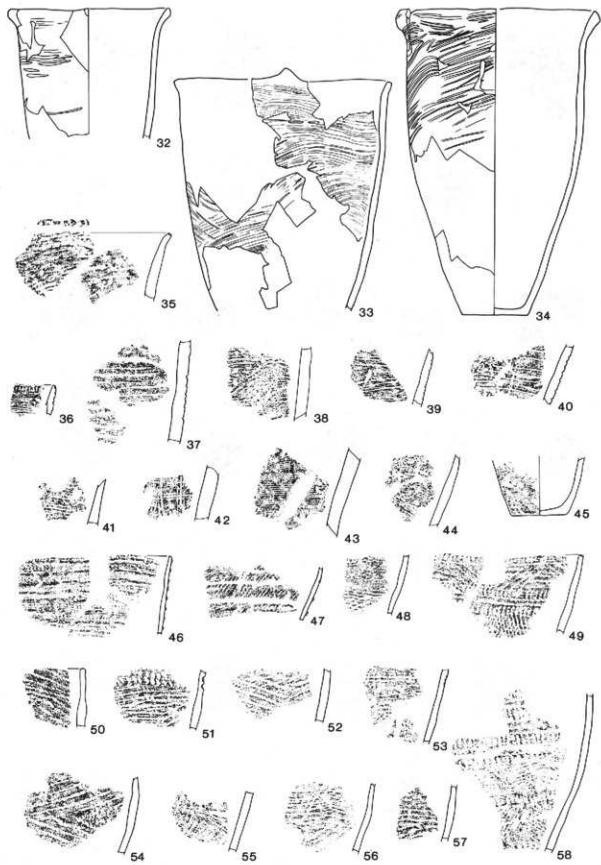
46は口縁部破片であり、微隆起線文が数段施され、その間に短縄文が連続して押捺されている。47は微隆起線文の上から縄文を施している。

2種：東銅路IV式に相当するもの

48は綾絡文の施されたものである。49～63は撚糸文もしくは自縄自巻の縄文の施されたもので、49・51・53・58には短縄文、64・65には縄端疋痕文が施されている。66・67は絡条体疋痕文、68は粗紐疋痕文の施されたものである。69は地文の縄文のみのものである。70は縄線文の施された底部の破片である。



图三-1 包含层出土器(1)



圖三-2 包含層出土土器(2)

II 群土器

縄文時代前期，円筒下層式に相当。

71～74がこれにあたる。71・72は口縁部の破片であり，71は絡条体丘痕文の施されたもの，72は羽状縄文の施されたものである。73・74は胴部の破片で，73は自縄自巻の縄文，74は多軸絡条体による燃糸文が施されている。

III 群土器

縄文時代中期に相当するもので，当地区出土土器の大半を占める。

a 類

縄文時代中期初頭のもの。円筒上層式に相当。

75，76ともに口縁部の破片で，75は縄線文，76は角棒状工具による刺突文のほどこされるもの。

b 類

縄文時代中期前半のもの。サイベ沢Ⅷ式に相当。

77は胴部がすんなりと立ち上がり，4つの山形突起を持つ深鉢型土器である。口唇には刻みが施される。口縁部の山形突起は穿孔されており，それを囲むように刻みや刺突文のある貼付帯が巡る。胴部には斜行縄文及び綾格文が施されている。色調は外面が褐色～茶褐色，内面は茶褐色である。

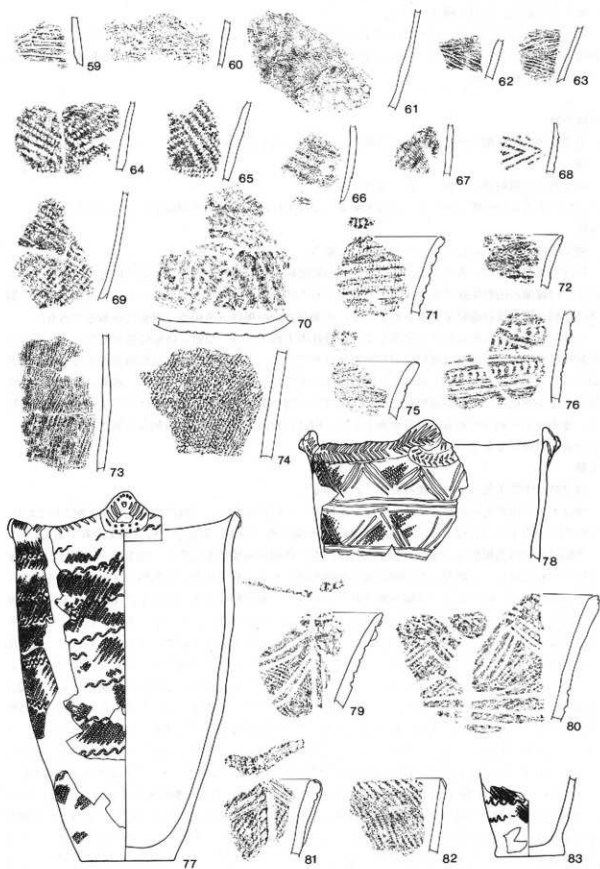
78は胴下部から底部にかけて欠損している深鉢型土器である。口唇には貼付帯が巡り，4ヶ所の小突起を形作る。貼付帯には綾杉状の刻みが施されている。その下位には平行沈線文を平行もしくは鋸歯状に施している。貼付帯上の刻みと沈線は同一工具によるものと考えられる。地文は斜行縄文。色調は外面が茶褐色，内面が黄褐色である。80は78と同一個体である。81は波状を呈する口縁部の破片で，波頂部から刻みのある貼付帯が垂下する。82は口唇直下に斜め方向の刻みの施されているもの。83は底部の破片である。

c 類

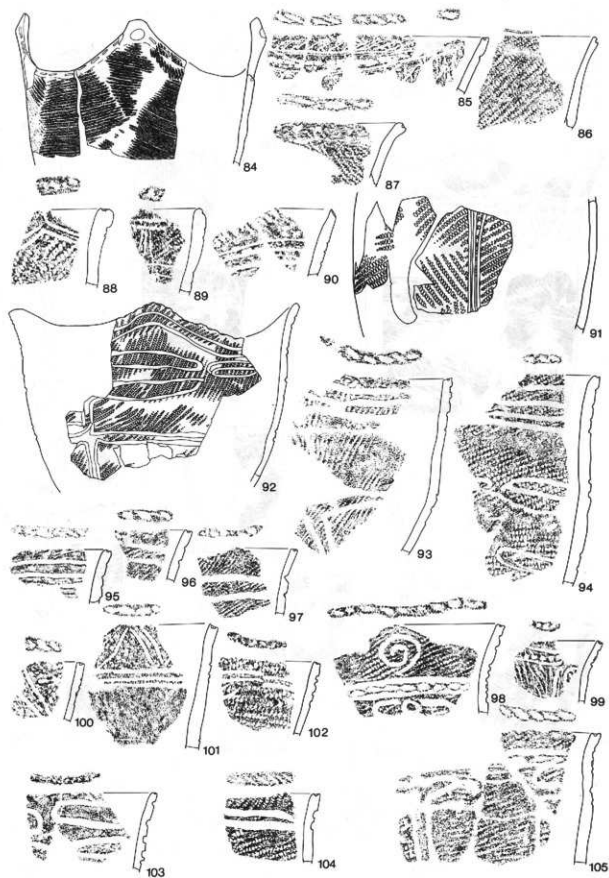
縄文時代中期中葉のもの。榎林式がこれに当る。

84は大きな山形突起を持つ深鉢型土器で，口唇には口唇に平行して破線状に沈線文が施されており，突起頂部の直下には直径1cmほどの円形刺突文が施されている。器面の文様は縄文のみである。

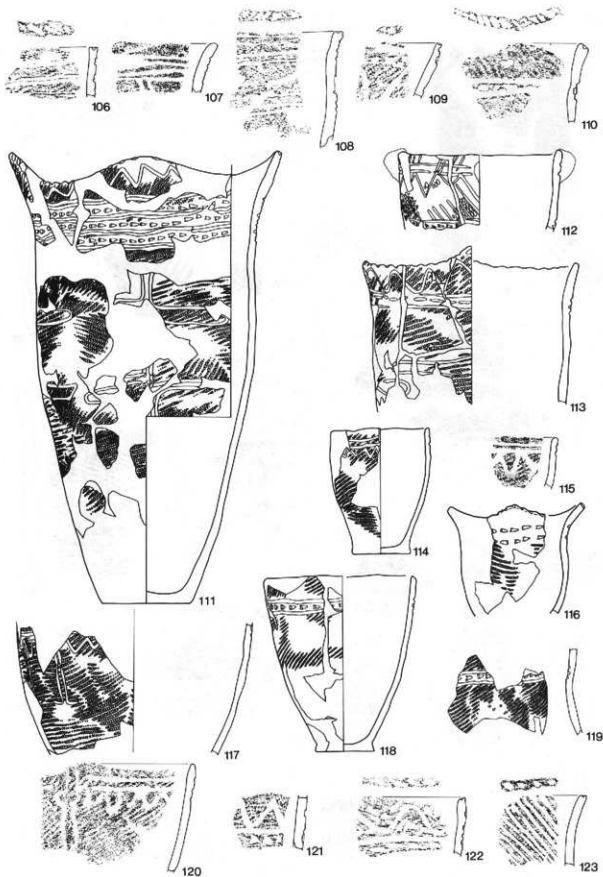
色調は外面は茶褐色で一部炭化物が付着，内面は黄褐色～褐色を呈する。図版26-〇印は山形突起を持つ口縁部破片で，肥厚した口唇に太い沈線が施され，山形突起上では簡略化された渦巻き状の文様となる。86は，口唇に太い沈線が施されているもの。88・89は2本一組の平行沈線による文様が施されている。91は胴部の資料であり，垂下する沈線は区画文を構成していると考えられる。色調は外面が黄褐色から茶褐色，内面は黄褐色である。92は波状口縁をなす深鉢型土器と考えられる。口縁部から胴部の一部にかけての遺存であり，胴部の大半と底部にかけて欠損している。文様は口縁直下に2本の平行沈線が巡り，口縁部にはS字上の沈線文，胴部には沈線による区画文が施される。色調は外面は黒褐色，内面は黄褐色である。93・94は口縁部に4本の沈線文の施されているもので，93は胴部に区画文，94はS字状の文様が施されている。95～97は口縁部に平行沈線のほどこされたもの，98は口縁の山形突起部に渦巻文が施されている。頸部には，2本の沈線に挟まれた刺突が巡る。105はこの同一個体の可能性がある。100～102は2本の平行沈線によるモチーフ，103は区画文が施されている。106～109は半裁竹管状の工具による沈線文が施される。111は胴部がすんなりと立ち上がり，口縁部が開く大型の深鉢形土器である。口縁は山形で口唇に斜め方向の刻みが巡る。文様は，口縁部には鋸歯状文，頸部には平行沈線にはさまれた刺突列が3段巡る。胴部には平行沈線を主体とした区画文が施される。色調は外面が黄褐色～褐色，内面は褐色である。112は胴下部以下の欠損した深鉢型土器である。口縁は平縁で刻みはない。器面に耳状の突起をもつ。口唇直下には斜め方向の沈線文



图III-3 包含层出土土器(3)



图三-4 包含层出土器(4)



圖III-5 包含層出土土器(5)

が回り、その下部には横走あるいは、斜め方向の平行沈線が施される。横走する平行沈線のさらに下部には、鋸歯状の沈線文が巡る。色調は、外面が淡い明黄褐色、内面は黄褐色である。113 は胴下部と底部の欠損した深鉢形土器で、口縁は波状を呈し、口唇には斜め方向の刻みが巡る。突起は正面のみが大きく、そこには楕円形の刺突が施される。文様は口縁部には鋸歯状の沈線文、頸部には2本の平行沈線に挟まれた破線状の沈線が回り、胴部にも沈線文が施される。地文は斜行縄文である。色調は外面は明黄褐色、内面は赤褐色である。114 は小型の深鉢形土器で口縁は平縁で口唇に刻みはない。文様は、口縁部に2条の平行沈線、その下部に鋸歯状の沈線文が施される。地文は斜行縄文である。色調は外面は褐色～茶褐色、内面は黒褐色である。115 は114 と同一の可能性がある。116 は口縁部の外反する深鉢形土器で口縁は波状を呈し、口唇には斜め方向の刻みが巡る。文様は頸部に2段の刺突列が施される。地文は縄文である。117 は口縁部と底部の欠損した深鉢型土器と考えられる。頸部には平行沈線に挟まれた刺突が巡るものと考えられ、胴部には鋸歯状の沈線や垂下する沈線が施されている。色調は外面は茶褐色、内面は褐色である。118 は中型の深鉢型土器である。口縁は平縁で刻みはない。頸部には平行沈線に挟まれた刺突列が巡る。地文は斜行縄文で無節である。色調は外面は茶褐色～灰褐色、内面は茶褐色で一部黄褐色である。119 も2本の平行沈線にはさまれて刺突が巡るものである。地文は縄文である。120～122は鋸歯状文の施された破片である。121 は111の破片である可能性がある。123 は縄文はなく、太い棒状工具による斜め方向の沈線文が施されている。124～134は胴部の破片であり沈線による幾何学的な文様が施されている。133・134は半杖竹管による刺突が施されているもので同一個体と考えられる。135 は地文がなく、沈線により大きくU字状の文様を描いている。136 は碗型を呈する小型の深鉢型土器である。口唇には刻みが巡り、口縁部には3本の太い平行沈線が巡る。地文はない。色調は外面が茶褐色、内面は黒褐色である。137は無文のものである。図版27-〇印は口縁部に耳状の突起を有するもので、口縁部には沈線により鋸歯状文や円弧文、刺突文が回り、その下部には刺突の施された貼付帯が巡る。

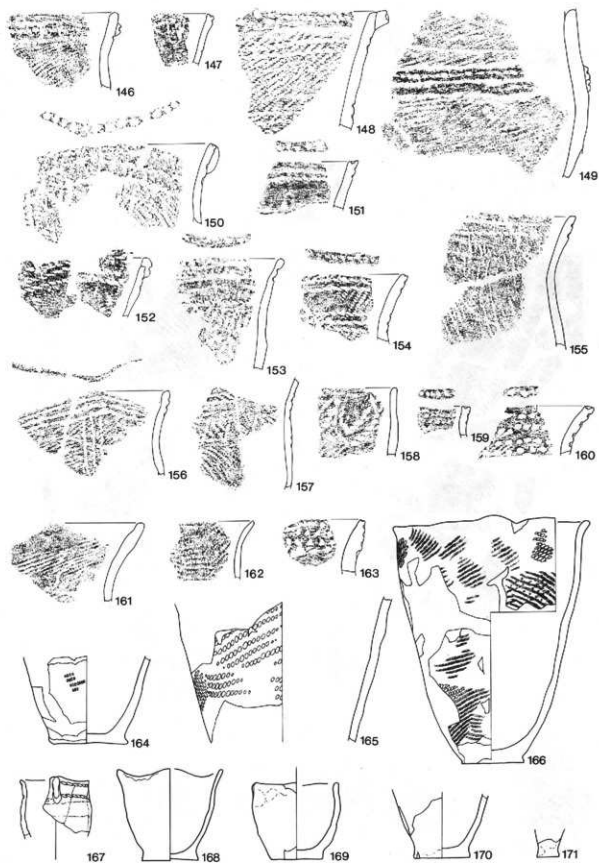
d類

縄文時代中期後葉のもの。大安にB式に相当する。

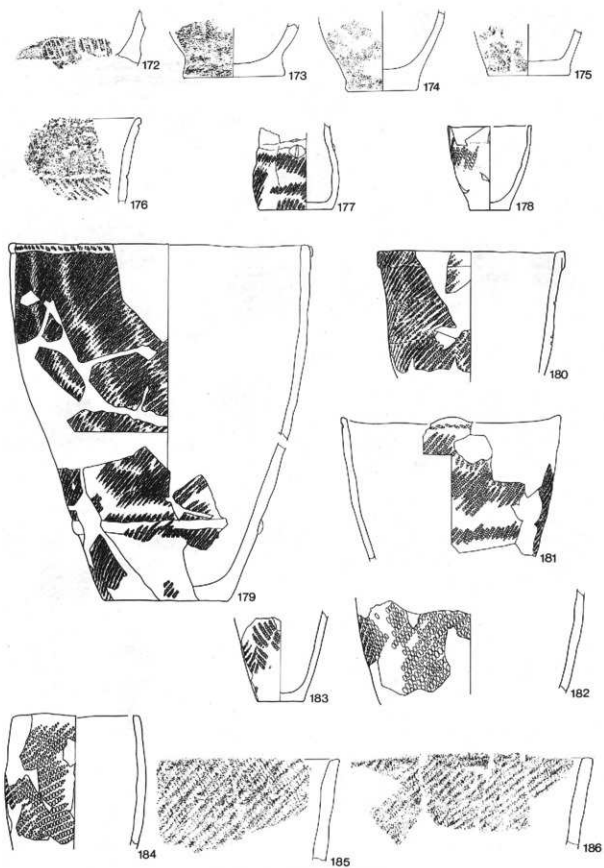
138 は頸部がすぼみ、口縁部の外反する小型の壺型土器である。胴下部から底部にかけて欠損している。口縁は僅かに山形を呈し、頸部には隆起帯が回り、その上には平行沈線に挟まれた刺突列が2段巡る。139 は貼付帯や刺突列の巡るものである。140 は胴部が僅かに膨らみ、口縁部がまっすぐ立ち上がる深鉢型土器で胴下部以下が欠損する。口縁には山形の小さな突起があり、突起部には隆起帯が垂下する。口縁部は隆起帯が1条、隆起帯上やその下部には数条の縄線文が巡る。胴部には縄線文による幾何学状の文様が施されている。地文は縄文である。色調は外面は黄褐色～灰褐色、内面は黄褐色である。141 は肩部が大きく張り出し、頸部がすぼんで口縁部の外反する深鉢型土器である。底部が欠損する。口縁には山形の小さな突起が僅かに見られ、口縁部から頸部にかけて4条の縄線文が巡る。色調は内外面ともに黄褐色である。142 は口縁部の立ち上がる深鉢型土器で、胴下部以下が欠損する。口縁は緩やかな波状を呈する。口縁部には3条の縄線文、胴部には斜行縄文が施される。色調は外面は茶褐色で一部黄褐色、内面は褐色を呈する。143～146・148・149は縄線文の施された貼付帯の巡るものである。150、152は縄線文と縦方向の貼付文が施されたもの、151・153～158 は縄線文の施されたもので、157 は鋸歯状、158 は2本の平行する縄線によりループ状の文様を施している。159・160・163 は棒状工具による刺突文の施されたもので、159・160には口唇に刺突が巡る。161・162は地文のみの口縁部破片である。164～166は地文のみのものもしくは地文の部分のみ残るものである。165 は胴部のみのもので深鉢型土器と考えられる。地文は斜行縄文。色調は外面は褐色、黒褐色である。166 は胴部から口縁部にむけ真直に開く深鉢型土器である。口縁は僅かに小突起があるが意図的に作られたかは不明である。器面には無節の原体による縄文が施されている。器面の調整はあまり良くない。



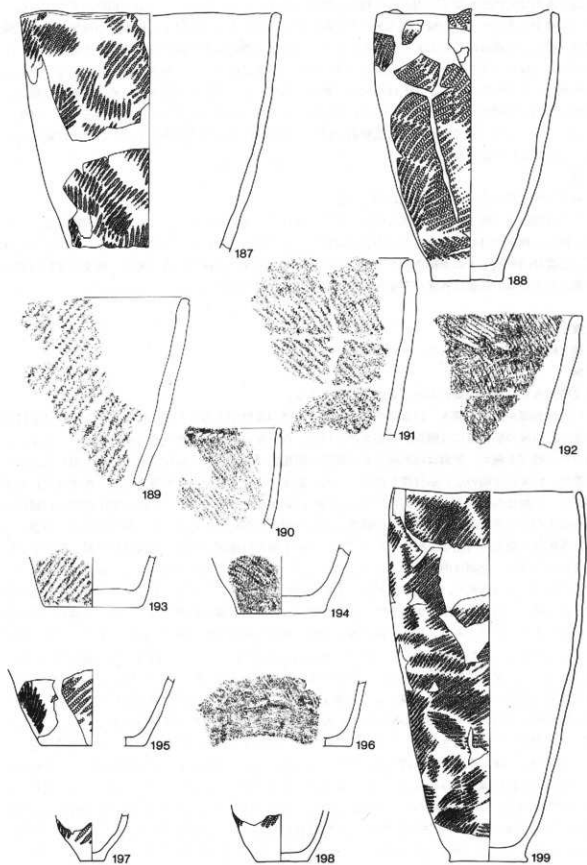
圖三-6 包含層出土土器(6)



圖三-7 包含層出土土器(7)



圖三-8 包含層出土土器(8)



图III-9 包含层出土土器(9)

色調は外面は灰褐色～褐色、内面は茶褐色～褐色である。167 は胴部が張り出し頸部がややすぼむ小型の深鉢型土器である。口縁には山形の小突起があり、突起下には貼付文が垂下、口縁部に2本の縄線文が巡る。色調は内外面ともに黒褐色である。168 は4個の山形突起を持つ浅鉢型土器である。山形突起は口縁の凹部を押し出すことにより作り出す。底部は張り出し、僅かに揚げ底である。色調は内外面ともに茶褐色である。169 は平縁の浅鉢型土器である。器面には調整のための指頭痕が残る。色調は外面は黄褐色～褐色であり、内面は黄褐色である。170～175は底部にものである。171 は手すくねのミニチュア土器で指頭による調整痕が残る。色調は内外面共に褐色である。172 は沈線により幾何学的な文様が描かれている。

●類

縄文時代末葉のもの。煉瓦台式に相当する。

176 は縄線文の施された口縁部の破片。177・178はミニチュア土器で、177 は底部の幅の広い平底の土器で、頸部には貼付帯が巡り、中央に耳状の突起が付いていたものと考えられる。地文は斜行縄文、色調は内外面ともに黒褐色である。178 はすんなりと開く深鉢型土器である。地文には斜行縄文が施されている。色調は外面が茶褐色～褐色、内面が明褐色である。

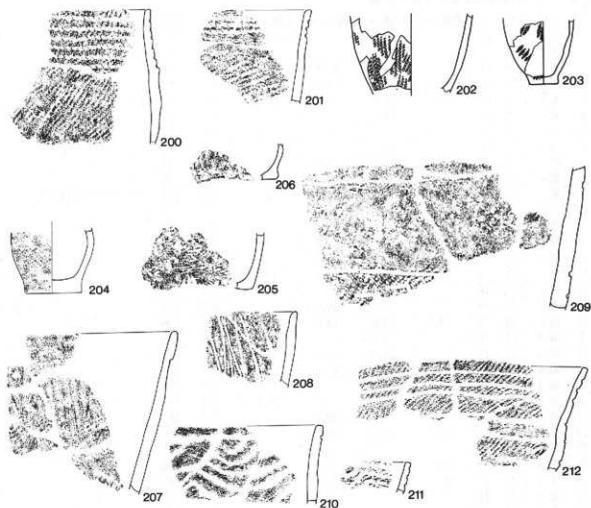
IV群土器

縄文時代後期のものである。

●類

縄文時代後期初頭～前葉のもの。余市系に相当する。

179 は胴部が大きく開き、口縁部の立ち上がる大型の深鉢型土器である。口縁と胴下部には貼付帯が巡り、口縁の貼付帯には縄線文が施されている。胴下部の貼付帯は地文施文後に施され、さらにその上から縄文を施す。色調は内外面ともに褐色～明褐色である。180 は胴下部以下の欠損した深鉢型土器で、口縁には幅の広い貼付帯が巡る。また、胴部には3条の押引文が施される。地文は斜行縄文である。色調は内外面ともに茶褐色である。181 は胴下部と底部の欠損した深鉢型土器で、口縁には僅かに山形の小突起がある。文様は口縁部に1条の縄線文が巡る。地文は斜行縄文である。色調は外面は茶褐色～褐色、内面は黒褐色である。182 は胴上部と口縁部の欠損した深鉢型土器と考えられる。地文は斜行縄文。色調は内外面ともに黒褐色である。183 は胴下部のみのもので、斜行縄文が施される。色調は外面は赤褐色、内面は黒褐色である。184 は胴部から口縁部が若干内傾し立ち上がる深鉢型土器と考えられる。底部は欠損している。地文には粗い目の縄文が施されている。色調は、内外面ともに明褐色～褐色である。185・186は地文に斜行縄文の施された口縁部の破片である。187 は胴部がすんなりと立ち上がる深鉢型土器と考えられる。底部は欠損しており、口縁部及び胴上部と、胴下部は接合せず、図上で推定復元した。口縁は平縁であるが、口唇を押しつけて平らに調整した跡がはっきり残る。器面の調整はあまり良くない。地文は斜行縄文である。色調は外面は褐色～暗褐色、内面は灰褐色～暗褐色である。188 は胴部から口縁部が真っすぐ立ち上がる深鉢型土器である。口縁には、推定で3個の小突起が施されているものと思われる。突起部を含め口縁には幅の広い貼付帯が巡り、その貼付帯にも縄文を施す。色調は外面は明褐色～褐色、内面は明褐色から茶褐色である。189・191・192 は地文の斜行縄文のみのもので、192 は無節の縄文が施されている。193～198は底部の資料である。199 は胴部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる深鉢型土器である。口縁は真っ直立ち上がる器面には成形時の輪積みのあとが残る。地文は斜行縄文である。色調は外面は黄褐色から灰褐色、内面は明褐色である。200、201は縄線文の巡る口縁部の破片、202は胴下部のものである。203～206は底部の資料である。



図III-10 包含層出土土器⑩

b 類

縄文時代後期前葉のもの。入江式に相当する。

207, 208は口縁部の破片で207には胴部に僅かに縄文が認められる。208は縦方向の沈線文が施されている。209は胴部の破片で幅の太い無文帯が巡る。

c 類

縄文時代後期中葉のもの。手稲式の手古手、もしくはウサクマイC式に相当する。

210～212がこれにあたり、210は連続した円弧文、211は横走沈線とすり消し縄文による無文帯が巡る。

(木村 哲朗)

表Ⅲ-1 包含層出土復元土器一覽表

No	分類	グリット	器高(cm)	口径(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	器厚(cm)	図番	備 考
1	I a	F-19		18.0			0.7	1	
2	I a	D-5				0.3	0.6	32	
3	I a	D-13		17.0	14.0		0.8	33	
4	I a	D-14	32.5	21.6	18.0	7.0	0.6	34	
5	Ⅲ b	D-13	39.2	16.0	22.0	10.0	0.8	77	
6	Ⅲ b	D-15		28.0			0.7	78、	
7	Ⅲ b	G-11			9.5	7.3	0.8	83	
8	Ⅲ c	D-15		26.7			0.8	84	
9	Ⅲ c	D-16			25.0		0.7	91	
10	Ⅲ c	D-16		30.0			0.8	92	
11	Ⅲ c	D-16	47.5	29.0	23.0	9.5	0.8	111	121と同一個体か？
12	Ⅲ c	D-16		20.0			0.8	112	
13	Ⅲ c	D-16			22.8		0.7	113	
14	Ⅲ c	D-16	13.4	10.0	10.0	6.0	0.5	114	
15	Ⅲ c	D-13			23.0		0.7	116	
16	Ⅲ c	D-15	18.5	16.0	13.7	6.0	0.5	117	
17	Ⅲ c	F-16		30.0			0.8	118	
18	Ⅲ c	D-16			10.6		0.7	119	
19	Ⅲ c	D-19	10.5	12.0	11.0	5.2	0.5	136	
20	Ⅲ d	G-15		11.0			0.6	138	
21	Ⅲ d	D-15		21.8	21.0		0.7	140	
22	Ⅲ d	E-15		18.0	19.0		0.6	141	
23	Ⅲ d	D-16		17.0			0.6	142	
24	Ⅲ d	D-16				8.3	0.8	164	
25	Ⅲ d	D-16			22.0		1.0	165	
26	Ⅲ d	D-15	26.0	20.8	16.0		0.7	166	
27	Ⅲ d	D-15		7.3			0.5	167	
28	Ⅲ d	C-18	9.8	11.0	9.0	6.0	0.5	168	
29	Ⅲ d	D-15	8.0	9.0	9.0	5.5	0.6	169	
30	Ⅲ d	D-15			9.0	6.0	0.6	170	
31	Ⅲ d	D-15			23.0		0.7	171	
32	Ⅲ e	E-17		7.0	9.0	8.0	0.7	177	
33	Ⅲ e	D-13	9.0	9.0	7.7	4.2	0.5	178	
34	Ⅳ a	G-15	45.0	32.8		13.0	1.0	179	
35	Ⅳ a	D-18		20.0			0.8	180	
36	Ⅳ a	D-16		23.0			0.7	181	
37	Ⅳ a	D-17			8.0		0.7	182	
38	Ⅳ a	E-17			23.0	4.8	0.9	183	
39	Ⅳ a	D-18		13.7	15.0		0.8	184	
40	Ⅳ a	D-18		28.0			0.8	187	
41	Ⅳ a	D-16	28.8	19.5	17.7	7.5	1.0	188	
42	Ⅳ a	D-18				11.3	0.8	195	
43	Ⅳ a	D-18		7.0		2.5	0.7	197	
44	Ⅳ a	D-16				6.2	0.7	198	
45	Ⅳ a	D-14	39.5	20.2	19.5	8.3	0.5	199	
46	Ⅳ a	E-20			12.1		0.6	202	
47	Ⅳ a	D-16				3.0	0.5	203	

表Ⅲ-2 包含層出土拓本土器一覽表(1)

No	分類	グリット	部位	図番	文 様	備 考
1	I a	D-13	口縁部	2	貝殻複線文	
2	I a	E-15	口縁部	3	貝殻複線文	
3	I a	E-16	口縁部	4	列点文 貝殻複線文	

表Ⅲ-3 包含層出土土器一覽表(2)

No.	分類	グリット	部位	図番	文 様	備 考
4	I a	E-15	口縁部	5	列点文,貝殻腹線文	
5	I a	D-13	口縁部	6	貝殻腹線文	
6	I a	D-13	口縁部	7	貝殻腹線文	
7	I a	F-12	口縁部	8	列点文,貝殻腹線文	
8	I a	D-13	胴部	9	列点文,貝殻腹線文	
9	I a	D-15	胴部	10	貝殻腹線文	
10	I a	D-13	胴部	11	貝殻腹線文	
11	I a	D-14	胴部	12	列点文,貝殻腹線文	
12	I a	D-14	胴部	13	沈線文,貝殻腹線文	
13	I a	D-13	胴部	14	貝殻文	
14	I a	G-15	胴部	15	列点文,貝殻腹線文	
15	I a	G-13	胴部	16	貝殻腹線文	
16	I a	D-13	胴部	17		
17	I a	D-13	口縁部	18	列点文,貝殻腹線文	
18	I a	F-10	口縁部	19	貝殻腹線文	
19	I a	D-14	口縁部	20	沈線文,貝殻腹線文	
20	I a	D-14	口縁部	21	沈線文,貝殻腹線文	
21	I a	G-11	口縁部	22	沈線文	
22	I a	D-13	口縁部	23	沈線文,列点文	24,27と同一個体
23	I a	D-15	胴部	24	列点文	23,27と同一個体
24	I a	F-15	胴部	25	貝殻腹線文	
25	I a	E-10	胴部	26	貝殻腹線文	
26	I a	G-11	胴部	27	貝殻文	
27	I a	D-13	底部	28	列点文,貝殻腹線文	23,24と同一個体
28	I a	D-5	底部	29	貝殻腹線文	1と同一個体か?
29	I a	D-15	底部	30	貝殻文	
30	I a	F-16	底部	31	貝殻腹線文	
31	I a	D-16	口縁部	35	刺突文,貝殻条痕文	
32	I a	D-15	口縁部	36	沈線文,貝殻条痕文	
33	I a	G-11	胴部	37	沈線文,貝殻条痕文	
34	I a	G-12	胴部	38	沈線文,貝殻条痕文	
35	I a	D-13	胴部	39	沈線文	
36	I a	F-15	胴部	40	沈線文	
37	I a	F-15	胴部	41	貝殻条痕文	
38	I a	G-15	胴部	42	貝殻条痕文	
39	I a	D-14	胴部	43	貝殻条痕文	
40	I a	G-11	胴部	44	貝殻条痕文	
41	I a	F-16	底部	45	無文	
42	I b	D-16	口縁部	46	微隆起線文,短縄文	
43	I b	D-16	胴部	47	微隆起線文,縄文	
44	I b	D-14	胴部	48	摺糸文,絞絡文	
45	I b	C-6	胴部	49	縄編文,短縄文,摺糸文	
46	I b	D-14	口縁部	50	摺糸文もしくは縄文	
47	I b	D-16	胴部	51	摺糸文もしくは縄文,短縄文	
48	I b	E-16	胴部	52	摺糸文もしくは縄文	
49	I b	C-3	胴部	53	短縄文,摺糸文もしくは縄文	
50	I b	B調	胴部	54	摺糸文もしくは縄文	
51	I b	D-14	胴部	55	摺糸文もしくは縄文	
52	I b	D-15	胴部	56	摺糸文もしくは縄文	
53	I b		胴部	57	摺糸文もしくは縄文	
54	I b	E-4	胴部	58	摺糸文もしくは縄文,短縄文	
55	I b	E-15	胴部	59	摺糸文	
56	I b	I-10	胴部	60	摺糸文もしくは縄文	
57	I b	E-3	胴部	61	摺糸文もしくは縄文	

表Ⅲ-4 包含層出土拓本土器一覽表(3)

No	分類	グリット	部位	図番	文 様	備 考
58	I b	E-12	胴部	62	摺糸文もしくは縄文	
59	I b	D-13	胴部	63	摺糸文もしくは縄文	
60	I b	D-14	胴部	64	縄端圧痕文	
61	I b	D-14	胴部	65	縄端圧痕文	
62	I b	C-3	胴部	66	絡条体圧痕文	
63	I b	C-3	胴部	67	絡条体圧痕文	
64	I b	D-5	胴部	68	組紐圧痕文	
65	I b	B-3	胴部	69	縄文	
66	I b	D-17	底部	70	摺糸文	
67	II b	F-12	口縁部	71	絡条体圧痕文	
68	II b	D-15	口縁部	72	綾格文 縄文	
69	II b	D-16	胴部	73	縄文	
70	II b	D-19	胴部	74	摺糸文	
71	III a	D-13	口縁部	75	縄線文 摺糸文	
72	III a	E-11	口縁部	76	沈線文	
73	III b	F-12	口縁部	79	貼付文, 沈線文, 縄文	
74	III b	E-17	口縁部	80	貼付文, 沈線文, 縄文	78と同一個体
75	III b	D-16	口縁部	81	貼付文, 沈線文, 縄文	
76	III b	D-15	口縁部	82	沈線文, 縄文	
77	III c	D-16	口縁部	85	沈線文, 縄文	
78	III c	D-14	口縁部	86	沈線文, 縄文	
79	III c	D-16	口縁部	87	沈線文, 縄文	
80	III c	E-15	口縁部	88	沈線文, 縄文	
81	III c	E-19	口縁部	89	沈線文, 縄文	
82	III c	D-13	口縁部	90	沈線文, 縄文	
83	III c	D-16	口縁部	93	沈線文, 縄文	
84	III c	D-19	口縁部	94	沈線文, 縄文	
85	III c	D-16	口縁部	95	沈線文, 縄文	
86	III c	D-16	口縁部	96	沈線文, 縄文	
87	III c	D-14	口縁部	97	沈線文, 縄文	
88	III c	F-18	口縁部	98	列点文	105と同一個体
89	III c	D-15	口縁部	99	列点文	
90	III c	D-16	口縁部	100	沈線文, 縄文	
91	III c	D-16	口縁部	101	沈線文, 縄文	
92	III c	D-15	口縁部	102	沈線文, 縄文	
93	III c	D-15	口縁部	103	沈線文, 縄文	
94	III c	F-16	口縁部	104	沈線文, 縄文	
95	III c	F-18	口縁部	105	沈線文, 縄文	98と同一個体
96	III c	D-16	口縁部	106	沈線文, 縄文	
97	III c	D-16	口縁部	107	沈線文, 縄文	
98	III c	D-16	口縁部	108	沈線文, 縄文	
99	III c	D-16	口縁部	109	沈線文, 押引文, 縄文	
100	III c	D-15	口縁部	110	沈線文, 列点文, 縄文	
101	III c	D-14	口縁部	115	沈線文, 縄文	114と同一個体か?
102	III c	D-16	口縁部	120	沈線文, 縄文	
103	III c	D-15	口縁部	121	列点文, 沈線文, 縄文	111と同一個体か?
104	III c	D-15	口縁部	122	列点文, 沈線文	
105	III c	E-15	口縁部	123	沈線文, 縄文	
106	III c	D-16	胴部	124	沈線文, 縄文	
107	III c	G-18	胴部	125	沈線文, 縄文	
108	III c	F-15	胴部	126	沈線文, 縄文	
109	III c	D-14	胴部	127	沈線文, 縄文	
110	III c	D-16	胴部	128	沈線文, 縄文	
111	III c	D-16	胴部	129	沈線文, 縄文	

表Ⅲ-5 包含層出土拓本土器一覽表(4)

№	分類	グリット	部位	図番	文 様	備 考
112	Ⅲc	D-15	胴部	130	沈線文, 縄文	
113	Ⅲc	D-16	胴部	131	沈線文, 縄文	
114	Ⅲc	E-18	胴部	132	沈線文, 縄文	
115	Ⅲc	G-17	胴部	133	沈線文, 刺突文, 縄文	
116	Ⅲc	D-17	胴部	134	沈線文, 刺突文, 縄文	
117	Ⅲc	D-16	口縁部	135	沈線文,	
118	Ⅲc	D-15	口縁部	137	無文	
119	Ⅲd		口縁部	139	貼付文, 刺突文	
120	Ⅲd	D-18	口縁部	143	貼付文, 縄線文, 刺突文, 縄文	
121	Ⅲd	D-18	口縁部	144	貼付文, 縄線文, 縄文	
122	Ⅲd	D-18	口縁部	145	貼付文, 縄線文, 縄文	
123	Ⅲd		口縁部	146	貼付文, 縄線文, 縄文,	
124	Ⅲd	F-11	口縁部	147	貼付文, 縄線文, 縄文,	
125	Ⅲd	D-14	口縁部	148	貼付文, 縄線文, 縄文,	
126	Ⅲd	D-16	口縁部	149	貼付文, 縄線文, 縄文,	
127	Ⅲd	D-14	口縁部	150	貼付文, 縄線文, 縄文	
128	Ⅲd	D-18	口縁部	151	縄線文, 縄文	
129	Ⅲd	D-18	口縁部	152	貼付文, 縄線文, 縄文	
130	Ⅲd	E-17	口縁部	153	縄線文, 縄文	
131	Ⅲd	D-13	口縁部	154	縄線文, 縄文	
132	Ⅲd	D-16	口縁部	155	縄線文, 縄文	
133	Ⅲd	D-18	口縁部	156	縄線文, 縄文	
134	Ⅲd	D-22	口縁部	157	縄線文, 縄文	
135	Ⅲd	F-16	口縁部	158	縄線文, 縄文	
136	Ⅲd	D-17	口縁部	159	列点文	
137	Ⅲd	D-14	口縁部	160	列点文	
138	Ⅲd		口縁部	161	縄文	
139	Ⅲd	F-11	口縁部	162	縄文	
140	Ⅲd	F-16	口縁部	163	列点文	
141	Ⅲd	D-16	底部	172	沈線文	
142	Ⅲd	D-13	底部	173	無文	
143	Ⅲd	D-15	底部	174	無文	
144	Ⅲd	G-20	底部	175	無文	
145	Ⅲe	E-19	口縁部	176	縄線文, 縄文	
146	Ⅳa	D-16	口縁部	185	縄文	
147	Ⅳa	D-17	口縁部	186	縄文	
148	Ⅳa	D-18	口縁部	189	縄文	
149	Ⅳa	D-14	口縁部	190	縄線文, 縄文	
150	Ⅳa	G-18	口縁部	191	縄文	
151	Ⅳa	D-17	口縁部	192	縄文	
152	Ⅳa	D-14	底部	193	縄文	
153	Ⅳa	D-16	底部	194	縄文	
154	Ⅳa	D-15	底部	196	縄文	
155	Ⅳa	D-15	口縁部	200	縄線文, 縄文	
156	Ⅳa	D-14	口縁部	201	縄線文, 縄文	
157	Ⅳb	D-16	底部	204	縄文	
158	Ⅳb	D-16	底部	205	縄文	
159	Ⅳb	D-16	底部	206	無文	
160	Ⅳb	D-16	口縁部	207	縄文	
161	Ⅳb	D-16	胴部	208	沈線文,	
162	Ⅳb	D-5	口縁部	209	沈線文, 縄文	
163	Ⅳc	B-2	口縁部	210	沈線文, 縄文	
164	Ⅳc	F-16	口縁部	211	沈線文, 縄文	
165	Ⅳc		口縁部	212	沈線文, 縄文	

第2節 石 器

F地区では今回の発掘により剥片石器 454点、礫石器 477点、総計 931点の石器が出土している。遺物の主体は縄文時代中期後葉と考えられる。出土傾向としてはD-15、D-16、D-18からの出土が多く住居跡の位置と重複するものである。

(1) 剥片石器 (図Ⅲ-11~19) (表Ⅲ-6~22)

剥片石器は狩猟具としての石鏃、石槍、工具としての石錐、抉入石器、楔形石器、生活用具としてのつまみ付きナイフ、削器、搔器、Rフレイク、Uフレイク、石核に分類した。

剥片石器は頁岩が圧倒的に多く使用されている。器種としては小型の石錐の出土が多いことが特徴的である。

石鏃 (図Ⅲ-11) (表Ⅲ-6、7)

95点が出土している。石質は頁岩68点、黒曜石23点、チャート3点、安山岩1点である。形態的には9・11などのいずれも押圧剥離が施された薄みの柳葉形が6点出土している。木葉形は930など、菱形は32など各2点が出土している。1・5~8・10・12~25・27・28・31・33などは有柄凸基であり54点出土している。2・29などは有柄平基であり5点出土している。4・26などは有柄凹基であり7点出土している。この他に欠損によって形態の不明なものは11点である。

有柄凸基に分類したもののなかで逆刺が不明瞭で菱形に近いものが多く含まれている。また10・22・24などは一側縁の逆刺しが不明瞭なものである。厚みがあり、欠損した側縁部を再調整した可能性がある。

石槍 (図Ⅲ-11) (表Ⅲ-8)

10点が出土している。石質は頁岩8点、安山岩・黒曜石が各1点ずつである。形態としては有柄凸基5点、有柄平基2点、柳葉形1点である。

石錐 (図Ⅲ-12) (表Ⅲ-9、10)

86点が出土している。石質はチャート60点、頁岩20点、玄武岩3点、メノウ・メノウ質頁岩・珪化木各1点であり、チャートが大半となっている。剥片石器に於いて頁岩以外の石質が大半を占める唯一の器種であり石材の意識的な選択がうかがえる。

剥片の一端を加工して刃部を作出したもので素材そのものには大きく手を加えないものが多いが41は柱状の剥片を両面加工している。また49・65は両面が全面加工されている。42~44・53・58は背面を全面加工し腹面に主刺離面を残すものである。

抉入石器 (図Ⅲ-13) (表Ⅲ-11)

4点出土している。石質は頁岩3点、チャート1点である。いずれも剥片の側縁に抉りを作成しているのもので、72・73は切り出し状の端部をもつものであり、抉り部分はつぶれている。74は一側縁に抉りが2カ所作出されている。

表Ⅲ-6 石鑑一覧表(1)

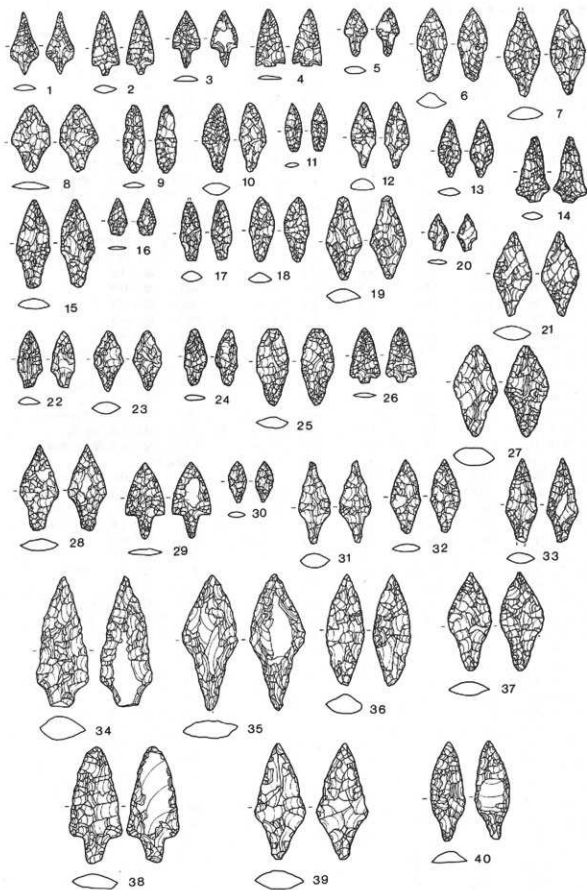
No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	B-3-3	33.0	14.5	3.8	0.9	頁岩	1	有柄凸基、側縁内湾
2	D-13-8	25.0	13.0	3.0	0.9	頁岩		有柄凹基、先端・腹面欠損
3	D-13-35①	29.2	13.6	3.0	1.1	チャート		菱形、側縁欠損、腹面に主刺離面
4	D-13-35②	23.6	12.0	2.6	0.7	黒曜石		柳葉形、先端・基部欠損
5	D-13-37	33.0	14.0	4.6	1.8	頁岩	2	有柄平基
6	D-13-53	19.0	14.2	7.0	1.4	黒曜石		基部欠損、未製品
7	D-13-218	27.0	10.6	5.0	1.2	頁岩		有柄凸基、先端欠損
8	D-13-229	29.6	13.8	3.0	0.9	頁岩	3	有柄凹基、腹面に主刺離面
9	D-14-16	34.4	11.0	3.0	1.3	頁岩		有柄凸基、先端・基部欠損、両面に主刺離面
10	D-14-68	30.8	16.0	3.2	1.1	頁岩		有柄平基、両面に主刺離面
11	D-14-76①	39.2	17.0	7.0	3.1	頁岩		有柄凸基、先端・基部欠損
12	D-14-76②	22.4	12.2	4.0	0.9	頁岩		有柄凹基、先端・基部欠損
13	D-14-96	32.4	13.6	3.0	1.5	頁岩		木葉形、側縁欠損、腹面に主刺離面
14	D-14-103①	30.0	16.2	7.2	2.4	頁岩		基部欠損
15	D-14-103②	30.4	16.6	5.6	1.7	頁岩		有柄平基、側縁外湾
16	D-14-149	30.0	15.4	2.8	1.0	頁岩	4	有柄凹基、基部欠損
17	D-15-19	39.4	15.4	5.4	2.1	頁岩		有柄凸基
18	D-15-33①	31.0	13.0	4.4	1.6	頁岩		柳葉形、両面に主刺離面
19	D-15-33②	29.2	10.4	4.4	1.0	頁岩		有柄凸基
20	D-15-35	22.8	11.6	2.8	0.9	頁岩		有柄凹基、先端・基部欠損
21	D-15-38	41.0	18.4	9.0	4.4	頁岩		有柄凸基、腹面に主刺離面
22	D-15-54	39.2	9.4	3.8	0.9	頁岩		有柄凸基、両面に主刺離面
23	D-15-97	25.0	12.0	4.4	0.8	黒曜石	5	有柄凸基
24	D-15-121	39.0	12.6	6.4	2.4	黒曜石		有柄凸基、流紋岩球顆多い
25	D-15-156①	33.4	13.2	4.8	2.1	黒曜石		柳葉形、先端欠損
26	D-15-156②	33.2	18.0	5.4	2.4	頁岩		基部欠損
27	D-15-172①	38.6	16.0	8.6	2.7	頁岩	6	有柄凸基
28	D-15-172②	32.2	13.4	6.4	2.1	頁岩		有柄平基、一端・基部欠損
29	D-15-172③	28.0	19.0	4.0	1.3	頁岩		有柄凸基
30	D-15-181①	31.8	20.4	8.0	4.4	頁岩		有柄凸基、基部欠損
31	D-15-181②	21.0	9.0	6.0	0.9	黒曜石		基部欠損
32	D-15-191	40.4	19.0	7.0	4.6	頁岩	7	有柄凸基、先端わずかに欠損
33	D-15-224	21.2	11.6	3.0	0.6	黒曜石		有柄凸基、基部欠損
34	D-15-230	30.4	15.2	4.8	1.7	頁岩		五角形、基部内湾、両面に主刺離面
35	D-15-237	47.0	15.8	6.2	3.6	黒曜石		有柄凸基
36	D-16-16	27.6	13.7	4.3	1.0	頁岩		未製品
37	D-16-34	32.0	14.0	4.7	1.7	黒曜石		有柄凸基、先端つぶれ
38	D-16-39	35.4	20.0	4.6	2.6	黒曜石	8	有柄凸基
39	D-16-44	35.4	11.0	2.6	1.1	頁岩	9	柳葉形
40	D-16-73	36.4	14.0	6.0	2.5	黒曜石	10	有柄凸基、流紋岩球顆多い
41	D-16-83	25.6	8.0	2.8	0.5	黒曜石	11	柳葉形
42	D-16-85	22.8	16.0	5.2	1.3	チャート		有柄凸基、両面に主刺離面
43	D-16-86	34.4	15.0	7.0	3.4	頁岩		基部欠損
44	D-16-107	34.8	12.8	6.0	2.1	頁岩	12	有柄凸基、背面に主刺離面
45	D-16-117	23.0	14.4	4.3	1.5	頁岩		有柄凸基、先端欠損、腹面に主刺離面
46	D-16-153	30.0	12.0	4.3	1.2	頁岩	13	有柄凸基
47	D-16-174	39.0	18.0	7.5	3.4	頁岩		有柄凸基、先端欠損
48	D-16-192①	34.4	17.6	5.0	2.0	頁岩	14	有柄凸基
49	D-16-192②	30.8	12.2	6.6	1.9	頁岩		有柄凸基、先端つぶれ
50	D-16-192③	23.0	15.0	3.4	0.7	黒曜石		有柄平基、一端・基部欠損、側縁内湾
51	D-16-206	46.6	18.0	6.0	4.5	頁岩	15	有柄凸基
52	D-16-219	19.0	9.4	1.8	0.3	黒曜石	16	有柄凸基
53	D-16-239①	31.0	15.0	6.6	3.1	頁岩		有柄凸基、ねじれ、先端つぶれ
54	D-16-239②	28.0	12.0	3.4	1.0	頁岩		有柄凸基、先端わずかに欠損、腹面に主刺離面
55	D-17-17	33.0	18.0	7.0	3.0	黒曜石		基部欠損

表Ⅲ-7 石楯一覧表(2)

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
56	D-17-37	29.0	12.4	5.4	1.7	頁岩		有柄凸基、先端つぶれ、両面に主刺離面
57	D-17-68	31.0	11.0	5.5	1.6	黒曜石	17	有柄凸基、先端わずかに欠損
58	D-18-24	19.0	11.8	3.6	0.8	頁岩		基部欠損
59	D-18-64	36.4	14.3	5.0	1.1	頁岩		有柄凸基、先端わずかに欠損
60	D-18-72	34.0	12.6	5.0	1.8	黒曜石	18	有柄凸基
61	D-18-111	44.0	18.0	6.6	3.5	頁岩	19	有柄凸基
62	D-18-117	40.5	16.0	7.0	2.4	頁岩		基部欠損
63	D-18-124	19.0	10.0	2.0	0.3	頁岩	20	有柄凸基、両面に主刺離面
64	D-18-134	32.2	13.0	6.0	2.5	頁岩		柳葉形
65	D-18-179	44.6	20.0	6.8	2.6	頁岩	21	有柄凸基
66	D-18-214	30.0	12.0	4.0	1.4	頁岩	22	有柄凸基、両面に主刺離面
67	D-19-26	31.6	15.4	6.0	2.3	頁岩	23	有柄凸基
68	D-19-37	29.0	11.4	4.0	1.2	頁岩	24	有柄凸基、腹面に主刺離面、反る
69	D-22-4	40.0	17.0	6.2	3.6	頁岩	25	有柄凸基
70	E-12-32	18.0	2.8	3.6	0.5	黒曜石		有柄凹基、先端一端欠損、流紋岩球類多い
71	E-13-35	28.6	16.0	3.0	1.1	頁岩	26	有柄凹基、基部欠損
72	E-14-25	24.2	14.0	4.0	0.8	頁岩		有柄凸基、基部欠損
73	E-14-27	33.0	14.8	5.0	1.4	頁岩		有柄凸基、先端欠損、腹面に主刺離面
74	E-14-32	47.5	21.5	8.9	5.8	頁岩	27	有柄凸基
75	E-14-46	45.6	20.0	6.0	4.1	頁岩	28	有柄凸基、腹面に主刺離面
76	E-14-50	29.0	13.0	4.0	1.0	頁岩		柳葉形、基部わずかに欠損
77	E-15-60	34.0	13.6	2.4	1.1	頁岩		柳葉形、両面に主刺離面
78	E-17-30	38.6	18.0	6.8	3.7	安山岩		木葉形、一端欠損、腹面に主刺離面
79	E-17-51	49.0	20.4	9.2	6.2	黒曜石		有柄凸基、反る
80	E-18-1	39.6	20.0	3.0	2.1	頁岩	29	有柄平基、側縁外周、腹面に主刺離面
81	E-18-2	21.4	9.0	3.0	0.5	黒曜石	30	木葉形、流紋岩球類多い
82	E-18-93	44.0	16.4	7.0	3.7	頁岩	31	有柄凸基
83	E-19-1	30.6	15.0	4.3	1.5	頁岩		有柄凸基、先端わずかに欠損
84	E-19-15	34.0	16.6	5.0	1.9	頁岩		有柄凸基
85	E-21-2	38.6	15.2	5.4	2.3	頁岩	32	菱形
86	F-12-36	29.0	16.7	3.2	0.8	黒曜石		有柄凹基、先端一端欠損
87	F-14-3	24.4	12.0	4.4	0.8	頁岩		柳葉形?、基部欠損
88	F-16-39	37.8	15.8	6.7	3.0	チャート		有柄凸基
89	F-16-42	23.5	11.7	4.3	1.0	頁岩		有柄凸基、先端わずかに欠損、腹面に主刺離面
90	F-18-25	28.0	20.0	7.0	3.6	黒曜石		先端・基部欠損、流紋岩球類多い
91	F-19-7	33.0	11.0	5.0	1.7	頁岩		柳葉形
92	G-11-28	21.0	11.0	3.3	0.8	黒曜石		柳葉形、先端一端欠損
93	G-14-17	44.0	16.0	6.2	4.2	頁岩	33	有柄凸基
94	G-18-10	33.0	16.2	4.0	1.6	頁岩		有柄凸基、先端欠損
95	I-15-5	36.6	21.6	6.0	2.9	頁岩		有柄凸基、先端・基部欠損、腹面に主刺離面

表Ⅲ-8 石楯一覧表

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	D-15-157	54.1	26.0	10.8	12.4	頁岩		基部欠損、腹面に主刺離面
2	D-15-167	68.6	27.0	12.0	17.5	頁岩	34	有柄凸基、腹面に主刺離面
3	D-15-191①	72.0	30.0	10.0	16.3	安山岩	35	有柄凸基
4	D-15-191②	52.4	18.4	6.2	5.7	頁岩	36	有柄凸基、腹面に主刺離面
5	D-15-213	52.0	23.0	7.0	6.4	頁岩	37	有柄凸基
6	D-15-217	61.4	27.2	7.4	7.6	頁岩	38	有柄平基、腹面に主刺離面
7	D-16-187	30.0	23.4	6.0	3.7	黒曜石		有柄平基、先端欠損
8	D-16-235	61.0	26.8	11.0	10.2	頁岩	39	有柄凸基
9	D-18-25	58.6	2.0	10.0	8.2	頁岩	40	柳葉形
10	F-16-5	41.1	19.6	9.5	4.8	頁岩		基部欠損



图III-11 包含层出土石器(1)

表Ⅲ-9 石錐一覽表(1)

№	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	表採-6	27.4	20.0	7.4	3.2	チャート		剥片の一端に刃部	
2	表採-7	25.5	15.3	6.3	3.0	チャート		剥片の一端に刃部	
3	表採-8	22.4	14.8	5.2	1.8	珪化木		剥片の一端に刃部	
4	D-14-118	58.0	20.0	14.0	17.8	頁岩	41	柱状の剥片の一端に刃部	
5	D-15-99①	26.0	19.0	9.6	3.9	チャート		剥片の一端に刃部、一側縁背面加工	
6	D-15-99②	28.6	20.0	5.0	3.1	チャート		剥片の一端に刃部、一側縁背面加工	
7	D-15-195	27.8	16.2	10.0	4.6	頁岩		剥片の一端に刃部、背面全面加工	
8	D-15-227	21.6	14.4	3.6	1.6	頁岩		剥片の一端に刃部、一側縁背面加工、背面に原石面	
9	D-16-4	24.8	24.2	7.4	2.6	頁岩		剥片の一端に刃部、一側縁背面加工	
10	D-16-31	26.9	10.9	10.3	2.9	チャート		柱状の剥片の一端に刃部、刃部のみ加工	
11	D-16-48①	29.0	20.0	11.6	5.2	チャート	42	剥片の一端に刃部、背面全面加工	
12	D-16-48②	21.6	10.0	5.4	1.3	チャート		柱状の剥片の一端に刃部、刃部のみ加工	
13	D-16-52①	43.8	21.0	6.4	5.8	頁岩	43	剥片の一端に刃部、背面全面加工、両側縁背面加工	
14	D-16-52②	33.4	20.4	10.6	6.4	メノウ	44	剥片の一端に刃部、背面全面加工、両側縁背面加工	
15	D-16-52③	28.8	16.0	9.0	3.3	チャート	45	剥片の一端に刃部	
16	D-16-54	23.3	10.6	6.3	1.4	チャート		剥片の一端に刃部	
17	D-16-60	18.5	14.5	4.8	1.2	チャート		剥片の一端に刃部	
18	D-16-100①	21.0	15.6	5.0	1.4	チャート	46	剥片の一端に刃部	
19	D-16-100②	27.0	19.0	8.0	3.9	チャート		剥片の一端に刃部	
20	D-16-188	46.4	25.0	10.0	9.4	安山岩	47	剥片の一端に刃部、両側縁背面加工	
21	D-16-191	34.4	14.4	7.0	3.5	チャート	48	剥片の一端に刃部	
22	D-16-242	24.8	12.1	7.9	22.1	チャート		柱状の剥片の一端に刃部	
23	D-16-243①	27.0	19.0	7.0	3.5	チャート		剥片の一端に刃部	
24	D-16-243②	21.4	16.0	4.0	1.3	チャート		剥片の一端に刃部、両側縁背面加工	
25	D-17-10	38.0	17.0	6.4	2.6	頁岩	49	剥片の一端に刃部、両面加工	
26	D-17-11	40.8	19.4	11.0	8.1	チャート		柱状の一端に刃部、後面両側縁加工	
27	D-17-38	25.2	13.4	9.4	2.3	チャート		一側縁欠損	
28	D-17-39①	30.0	13.6	12.0	4.6	チャート		剥片の一端に刃部、先端欠損	
29	D-17-39②	27.0	16.6	6.4	2.7	玄武岩	50	剥片の一端に刃部	
30	D-17-44	29.0	17.0	5.0	2.2	頁岩		剥片の一端に刃部、基部欠損、後面一側縁加工	
31	D-17-58	29.6	15.0	9.4	3.1	チャート	51	剥片の一端に刃部、背面全面加工	
32	D-17-117①	29.0	15.0	6.0	2.4	チャート		剥片の一端に刃部	
33	D-17-117②	22.0	23.6	7.8	2.0	チャート		剥片の一端に刃部	
34	D-17-117③	24.6	16.0	5.0	2.0	チャート		剥片の一端に刃部、基部に原石面	
35	D-17-117④	27.8	18.6	7.0	3.0	チャート	52	剥片の一端に刃部	
36	D-17-117⑤	29.4	17.4	7.6	4.0	チャート	53	剥片の一端に刃部、背面全面加工	
37	D-18-5	37.4	19.2	9.0	6.2	チャート	54	剥片の一端に刃部、両面加工、後面に原石面	
38	D-18-13	40.0	11.4	5.0	2.6	頁岩		柱状の剥片の一端に刃部、一側縁背面加工	
39	D-18-21	24.0	17.0	3.6	1.8	チャート	55	剥片の一端に刃部	
40	D-18-26	33.0	17.4	10.0	5.2	チャート		柱状の剥片の一端に刃部、先端欠損、一側縁背面加工	
41	D-18-28①	22.0	15.0	6.0	1.6	メノウ類		剥片の一端に刃部	
42	D-18-28②	20.4	16.0	6.0	2.0	チャート		剥片の一端に刃部	
43	D-18-28③	22.0	8.0	7.6	1.1	チャート		剥片の一端に刃部	
44	D-18-28④	31.0	20.4	12.0	7.4	チャート		剥片の一端に刃部	
45	D-18-30①	20.0	16.4	5.0	1.8	チャート		剥片の一端に刃部	
46	D-18-30②	22.0	14.6	6.6	2.5	チャート		剥片の一端に刃部	
47	D-18-30③	26.0	15.0	8.6	3.1	チャート	56	剥片の一端に刃部	
48	D-18-37	26.0	16.6	4.4	2.0	チャート		剥片の一端に刃部、両側縁両面加工	
49	D-18-47	31.0	20.6	9.2	5.3	チャート	57	剥片の一端に刃部、基部、背面に原石面	
50	D-18-56	29.0	15.0	7.6	3.3	チャート		剥片の一端に刃部、両側縁背面加工、背面に原石面	
51	D-18-101	27.6	20.0	6.0	3.1	チャート		剥片の一端に刃部	
52	D-18-112	21.6	13.0	4.4	1.2	チャート		剥片の一端に刃部	
53	D-18-115	20.3	17.9	4.9	1.5	チャート		剥片の一端に刃部	
54	D-18-122	29.6	17.0	9.0	5.0	チャート	58	剥片の一端に刃部、背面全面加工	

表Ⅲ-10 石錐一覧表(2)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
55	D-18-133	36.0	20.4	7.0	4.2	安山岩	59	剥片の一端に刃部、背面両側縁加工	
56	D-18-176	38.0	19.0	8.0	5.7	チャート		剥片の一端に刃部	
57	D-18-195	29.0	16.6	5.6	2.6	チャート		剥片の一端に刃部、一側縁背面加工	
58	D-19-9	35.0	19.0	7.4	4.4	頁岩	60	剥片の一端に刃部、両面加工、未使用	
59	D-19-20	41.6	16.6	7.0	6.0	頁岩	61	剥片の一端に刃部、両側縁両面加工、基部に原石面	
60	D-19-45	27.6	27.0	7.5	5.6	頁岩	62	剥片の一端に刃部、両側縁両面加工	
61	D-19-55	23.4	13.6	5.0	1.6	チャート		剥片の一端に刃部、一側縁両面加工	
62	D-19-62	42.0	16.0	8.0	5.4	チャート	63	剥片の一端に刃部、一側縁欠損、両側縁両面加工	
63	D-19-64	34.0	18.4	6.0	3.8	チャート		剥片の一端に刃部、一側縁背面一側縁両面加工	
64	D-19-86	24.0	13.0	12.0	3.0	チャート	64	剥片の一端に刃部、両面加工	
65	E-3-2	40.0	16.6	6.0	3.6	頁岩	65	剥片の一端に刃部、両面加工	
66	E-8-7	40.0	27.4	10.0	10.7	頁岩	66	剥片の一端に刃部	
67	E-13-29	37.0	29.6	4.0	3.0	頁岩	67	剥片の一端に刃部	
68	E-15-57①	22.7	18.8	10.8	4.2	チャート		剥片の一端に刃部	
69	E-15-57②	24.7	14.3	7.8	1.8	チャート		剥片の一端に刃部、背面欠損	
70	E-15-58	35.6	12.6	5.8	2.5	チャート	68	剥片の一端に刃部、両側縁背面加工	
71	E-15-81	42.0	13.6	6.2	2.8	頁岩		剥片の一端に刃部、一側縁背面一側縁両面加工	
72	E-16-1	17.5	10.5	5.4	1.0	チャート		剥片の一端に刃部、基部の一端に原石面	
73	E-16-5	54.0	24.0	17.4	20.1	チャート	69	柱状の剥片の一端に刃部、一側縁背面加工	
74	E-16-40	28.6	18.0	5.0	2.4	頁岩		剥片の一端に刃部	
75	E-17-31	31.0	12.0	10.0	2.6	チャート		柱状の剥片の一端に刃部	
76	E-17-33	41.6	15.5	13.3	6.7	チャート		柱状の剥片の一端に刃部	
77	E-17-35	29.7	14.8	10.3	3.7	チャート		剥片の一端に刃部	
78	E-17-60	36.4	25.0	8.6	7.4	頁岩		剥片の一端に刃部、両側縁両面加工、背面に原石面	
79	E-17-190	27.0	18.0	8.6	2.4	チャート	70	剥片の一端に刃部	
80	E-17-197	19.6	13.0	4.4	0.9	チャート		剥片の一端に刃部	
81	E-18-94	26.4	21.4	7.8	3.6	頁岩		基部欠損	
82	E-18-96	25.0	13.6	7.0	2.5	チャート		剥片の一端に刃部	
83	E-20-10	23.2	15.5	3.4	1.5	チャート		剥片の一端に刃部	
84	F-16-43	25.6	16.7	6.9	2.5	チャート		剥片の一端に刃部	
85	G-8-4	62.6	33.4	16.0	26.4	頁岩	71	剥片の一端に刃部	
86	H-13-13	51.0	29.0	16.2	19.1	頁岩		剥片の一端に刃部、背面全面加工	

表Ⅲ-11 抉入石器一覧表

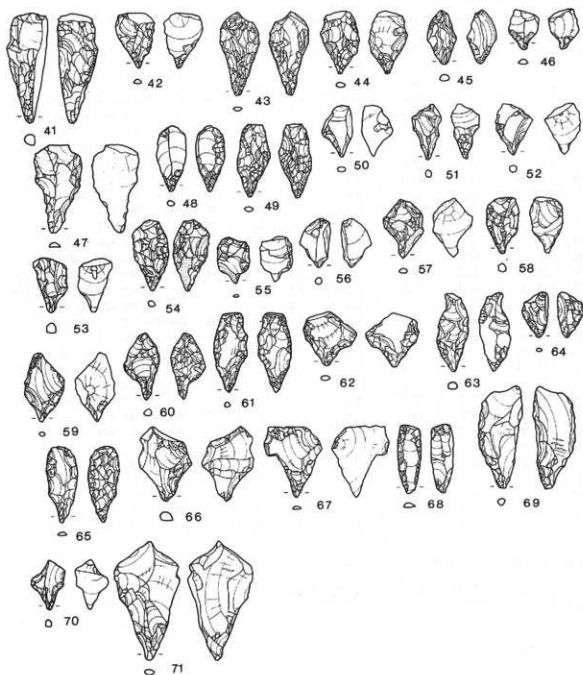
No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	D-20-4	91.8	52.4	14.0	51.1	頁岩	72	側縁に一カ所ずつ抉り、つぶれ	
2	E-17-207	32.0	21.4	13.4	8.3	チャート	73	側縁に一カ所抉り、背面に原石面	
3	E-19-28	65.0	49.0	12.4	44.8	頁岩	74	側縁に一カ所抉り	
4	F-12-3	60.0	43.6	15.0	36.9	頁岩	75	側縁に二カ所抉り、つぶれ	

楔形石器 (図Ⅲ-13) (表Ⅲ-12)

2点出土している。石質は頁岩である。いずれも基部に階段状の剥離がみられ先端が欠損しているものである。

表Ⅲ-12 楔形石器一覧表

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	E-19-34	37.0	24.0	10.6	12.3	頁岩	76	基部つぶれ、先端欠損、一側縁に原石面	
2	F-12-17	49.0	40.0	14.0	22.7	頁岩	77	基部つぶれ、先端欠損	

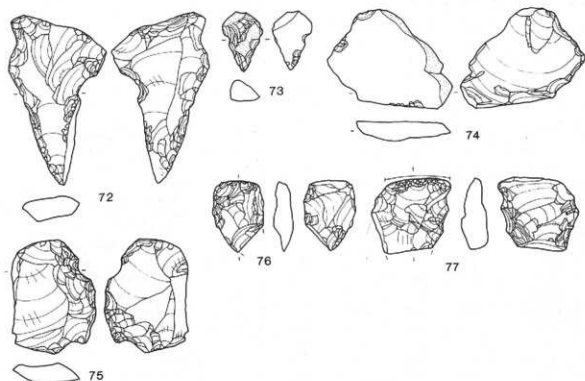


図III-12 包食層出土石器(2)

つまみ付きナイフ (図III-14, 15) (表III-13, 14)

68点出土している。石質は頁岩60点、チャート7点、メノウ質頁岩1点となっている。この内、80などは未製品であり全部で6点、84などは素材であり全部で3点出土している。

78・79・81・86・88・92・93・95は背面が全面加工され腹面の右側縁が加工されるものである。83は横長のものであり両面が加工されている。85・89・91・97は側縁部のみが加工されている。87は背面のみが加工されており、先端は急峻な加工がなされスクレイパー状を呈している。90・94は両面が加工されている。



図III-13 包含層出土石器(3)

表III-13 つまみ付ナイフ一覧表(1)

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	A- 3-5	62.4	26.2	6.0	10.6	頁岩		両側縁内面加工	
2	A- 3-6	46.4	32.0	6.0	9.0	チャート	78	一側縁面加工・一側縁背面加工、背面に厚石面	
3	A- 3-7	50.0	24.4	6.4	8.6	頁岩		先端欠損、一側縁面・一側縁背面加工	
4	A- 3- 10	61.0	31.0	6.4	11.2	頁岩		一側縁内面・一側縁背面加工	
5	B- 2-3	69.2	31.0	5.4	13.1	頁岩		一側縁・先端面加工、一側縁背面加工	
6	B- 4-3	58.0	22.4	5.6	7.3	チャート	79	一側縁内面・一側縁背面加工、先端切り出し状、反り	
7	B- 4- 10	36.2	18.0	6.6	3.9	頁岩		先端欠損、一側縁面・一側縁背面加工、おじれ	
8	B- 5-4	80.0	48.6	14.0	56.3	頁岩	80	未製品	
9	C- 1- 33	54.5	31.8	3.8	7.4	頁岩		一側縁内面・一側縁背面加工、先端切り出し状	
10	C- 2-2	35.0	34.0	7.0	10.4	頁岩		中央厚片、一側縁内面・一側縁背面加工	
11	C- 3-1	45.0	27.0	4.0	6.1	頁岩		両側縁背面加工、打面背面に形成、反り	
12	C- 5- 18	51.0	19.4	5.4	5.3	頁岩	81	一側縁内面・一側縁背面加工、先端切り出し状、反り	
13	C- 5- 36	51.6	26.6	5.4	8.6	頁岩		つまみ欠損、一側縁内面・一側縁背面加工、反り、おじれ	
14	D- 5- 32	56.0	23.2	7.0	8.6	頁岩		一側縁内面・一側縁背面加工	
15	D- 6-4	66.0	34.0	7.0	18.3	頁岩	82	一側縁内面・一側縁背面加工、反り	
16	D- 6-9	55.0	27.4	5.4	9.5	頁岩		つまみ欠損、一側縁内面・一側縁背面加工	
17	D-12-9	60.0	23.6	7.0	10.6	頁岩		両側縁背面加工、先端切り出し状	
18	D-12- 14	33.8	24.0	4.4	4.3	チャート		先端部、一側縁先端加工、断面加工、背面に注眼痕あり	
19	D-13- 23	51.0	21.6	4.8	5.2	頁岩		一側縁内面・一側縁背面加工	
20	D-13- 81	40.0	20.0	6.6	5.4	頁岩		つまみ・先端欠損、一側縁内面・一側縁背面加工	
21	D-13-223	74.0	20.0	8.2	13.6	頁岩		一側縁内面・一側縁背面加工、決り不明瞭	
22	D-14- 40	33.2	25.9	6.2	5.0	ノゾ貫結		先端厚片、一側縁欠損・一側縁背面加工	
23	D-14- 45	70.0	28.0	8.6	13.5	頁岩		未製品	
24	D-14- 57	46.4	44.4	6.2	8.4	頁岩	83	横長、両側縁両面加工	
25	D-14-121	21.7	23.3	7.5	3.8	頁岩		未製品片?	
26	D-15-130	96.0	46.6	13.0	68.3	頁岩	84	素材	

表Ⅲ-14つまみ付ナイフ一覧表(2)

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
27	D-15-177	28.0	45.6	10.2	10.5	頁岩		未製品片
28	D-15-183	67.0	37.4	10.0	23.2	頁岩	85	一側縁背面・一側縁背面加工、先端切り出し状
29	D-15-192	50.6	20.6	6.0	6.0	頁岩	86	一側縁背面・一側縁背面加工
30	D-15-215	55.0	44.2	12.0	40.3	頁岩		素材
31	D-15-234	69.0	24.6	8.6	9.6	頁岩		一側縁背面加工、反り
32	D-16-37	28.0	27.4	6.0	3.7	頁岩		基部片
33	D-16-53	55.6	20.0	4.0	5.4	頁岩		一側縁両面・一側縁背面加工
34	D-16-101	40.4	29.6	4.0	3.8	頁岩		一側縁背面加工、反り
35	D-16-155	37.8	25.0	10.0	7.2	頁岩		基部片、つまみ欠損、一側縁両面・一側縁背面加工
36	D-18-2	35.0	29.0	8.0	11.2	チャート		未製品片
37	D-18-20	53.0	13.6	5.4	4.0	頁岩		一側縁背面加工、背面に原石面
38	D-18-74	60.0	27.0	7.0	11.3	チャート	87	両側縁背面加工、先端スクレ(バ)ー状
39	D-18-215	77.0	24.0	6.4	15.6	頁岩		一側縁背面加工、挟り浅い、反り
40	E-5-3	44.0	16.0	4.0	3.0	頁岩	88	一側縁両面・一側縁背面加工
41	E-7-1	11.5	32.0	13.0	44.3	頁岩	89	一側縁両面・一側縁下半背面加工、挟り浅い
42	E-9-11	51.0	30.0	4.0	8.2	頁岩		先端欠損、両側縁背面加工
43	E-10-2	24.6	20.0	3.0	1.8	頁岩		先端欠損、両側縁背面加工
44	E-12-27	74.0	27.0	7.0	15.3	頁岩	90	両側縁両面加工
45	E-14-2	37.4	31.0	5.0	4.0	頁岩	91	両側縁背面加工
46	E-14-4	52.0	24.0	9.0	10.7	頁岩		未製品
47	E-14-43	31.0	32.0	7.0	6.1	頁岩		基部片
48	E-15-65	59.0	29.6	7.0	10.1	頁岩	92	一側縁上半背面加工、一側縁背面加工、先端切り出し、反り
49	E-16-15	41.0	11.6	9.0	6.7	頁岩		先端欠損、両側縁背面加工
50	E-16-56	59.0	29.6	6.2	20.3	頁岩	93	つまみ欠損、一側縁両面・一側縁背面加工
51	E-17-46	28.4	19.0	6.0	3.5	チャート		未製品片
52	E-18-5	97.6	38.0	12.0	47.4	頁岩	94	両側縁両面加工
53	E-22-13	58.0	28.4	5.0	8.4	頁岩		一側縁両面・一側縁背面加工
54	E-22-36	68.0	30.0	8.0	17.6	頁岩		一側縁両面・一側縁背面加工、反り
55	E-24-6	90.4	23.0	7.0	19.8	頁岩		つまみ欠損、一側縁両面・一側縁背面加工
56	F-4-4①	45.4	21.4	7.0	7.8	チャート		基部欠損、両側縁背面加工、先端切り出し状、反り
57	F-4-4②	52.0	21.0	6.2	5.4	頁岩	95	一側縁両面・一側縁背面加工
58	F-12-12	78.0	37.6	5.0	5.2	頁岩		基部欠損、一側縁両面・一側縁背面加工、反り
59	F-15-10	49.0	19.0	6.6	25.6	頁岩		基部欠損、一側縁両面・一側縁背面加工、先端切り出し状
60	F-16-16	81.0	27.0	6.0	15.0	頁岩	96	一側縁両面・一側縁上半背面加工
61	F-21-6	36.0	30.0	4.2	6.1	頁岩		先端部片、一側縁両面・一側縁背面加工、反り
62	F-24-1	54.6	27.0	6.4	10.9	頁岩		つまみ欠損、一側縁背面加工、反り
63	F-25-3	64.4	18.6	5.0	5.6	頁岩	97	一側縁・一側縁上半背面加工、一側縁下半背面加工
64	G-9-1	50.8	23.0	4.0	5.9	頁岩		先端欠損、両側縁背面加工
65	G-14-11	49.0	29.0	10.8	11.8	頁岩		先端欠損、両側縁背面加工、挟り浅い
66	G-22-2	39.0	20.0	5.0	4.5	頁岩		一側縁両面・一側縁背面加工
67	H-13-29	11.4	34.0	7.0	39.6	頁岩		先端欠損、両側縁背面加工、挟り一側縁のみ作出
68	I-15-4	68.0	39.0	16.0	41.2	頁岩		素材

削器 (図Ⅲ-16, 17) (表Ⅲ-15, 16)

42点が出土している。石質は頁岩38点、チャート2点、メノウ質頁岩・黒曜石各1点である。

定型的なものは木葉形を呈する4点(99・100・104・105)である。99・100・105は両面を加工しているものであり、99・105は先端がやや幅広であるが100は比較的鋭利に作出されている。104は横長の剥片が使用され側縁のみを加工したものである。

98は基部が欠損しているものであり、その形態からつまみ付きナイフの破損品とも考えられる。

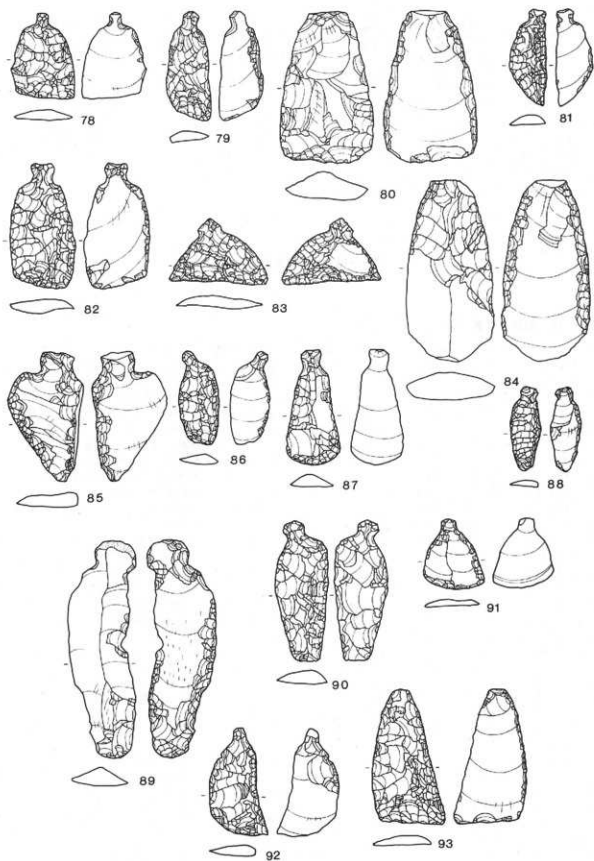
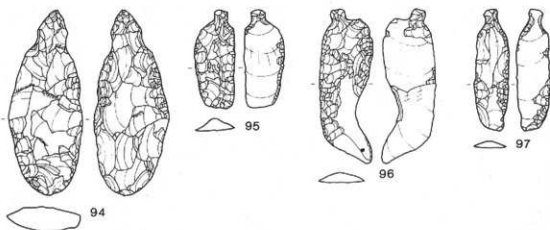


图 III-14 包含层出土石器(4)



図III-15 包含層出土石器(5)

表III-15 削器一覽表(1)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	C-3-5	51.4	25.0	13.4	14.1	頁岩		一側縁欠損、一側縁両面加工
2	C-5-30	106.0	55.6	20.6	112	頁岩		一側縁両面・一側縁腹面加工、背面に腹石面
3	D-5-22	73.0	35.0	8.0	26.3	頁岩	98	基部欠損、両側縁両面加工、先端部切り出し状
4	D-12-11	72.0	25.4	10.0	15.2	頁岩	99	両側縁両面加工、先端部切り出し状
5	D-13-17	38.0	43.0	10.0	17.2	頁岩		両側縁両面加工
6	D-13-91	15.6	33.4	11.0	49.0	頁岩	100	両側縁両面加工、先端部切り出し状
7	D-13-223	49.6	28.0	10.0	11.8	頁岩		基部欠損、両側縁両面加工
8	D-14-80	51.0	34.0	7.6	15.1	頁岩		両側縁両面加工、先端部切り出し状
9	D-15-29	64.6	50.0	15.6	58.5	チャート		一側縁背面・先端腹面加工
10	D-15-40	59.4	15.0	9.0	7.5	黒曜石		両側縁両面加工
11	D-15-73	51.0	28.0	7.0	14.5	頁岩		一側縁背面加工
12	D-15-135	81.0	43.3	14.0	49.1	頁岩		一側縁背面・一側縁腹面加工、反り
13	D-15-157	65.4	41.6	13.0	21.8	頁岩	101	一側縁両面加工、一側縁背面加工、先端部切り出し状
14	D-15-161①	37.0	24.4	4.8	4.0	頁岩		基部欠損、一側縁両面・一側縁背面加工、先端部切り出し状
15	D-15-161②	27.0	24.4	3.4	3.7	頁岩		先端欠損、両側縁腹面加工
16	D-15-222	34.2	23.0	9.0	7.4	頁岩	102	両側縁両面加工
17	D-15-226	79.0	50.0	18.0	73.7	頁岩	103	木葉形、両側縁両面加工
18	D-16-152	53.0	22.0	7.4	6.0	頁岩		両側縁両面加工
19	D-16-167	27.0	16.0	4.0	2.1	頁岩		先端欠損、一側縁両面・一側縁背面加工
20	D-16-173	64.0	40.0	11.0	33.7	頁岩		基部欠損、両側縁両面加工、先端部切り出し状
21	D-17-60	23.0	33.4	9.4	8.6	頁岩		先端部片、両側縁両面加工
22	D-17-69	36.4	31.0	8.4	9.4	頁岩		先端部片、一側縁背面加工
23	D-17-82	44.0	42.4	15.0	20.4	頁岩		両側縁背面加工
24	D-17-88	50.0	85.0	18.0	65.2	頁岩		一側縁腹面加工
25	D-18-29	78.6	37.0	13.6	26.3	頁岩		両側縁両面加工、先端部切り出し状
26	D-18-31	46.0	27.0	9.0	9.8	頁岩		一側縁両面加工
27	D-18-67	84.0	46.2	17.0	57.8	頁岩		一側縁背面加工
28	D-19-93	47.8	27.4	7.4	11.8	頁岩		一側縁両面加工
29	D-24-6	60.0	23.0	5.0	7.1	頁岩	104	両側縁両面加工、先端部切り出し状
30	E-11-8	70.0	37.4	12.0	37.4	頁岩		一側縁背面加工、背面・側縁に原石面
31	E-11-44	79.4	35.0	8.4	21.4	頁岩		先端わずかに欠損、両側縁・先端背面加工
32	E-15-75	44.0	27.6	6.0	5.2	頁岩		先端欠損、一側縁両面・一側縁背面加工
33	E-16-6	72.4	41.0	10.0	36.0	頁岩		一側縁腹面加工
34	E-16-14	43.0	22.4	9.0	6.7	頁岩		基部欠損、両側縁・先端両面加工

表Ⅲ-16 削器一覧表(2)

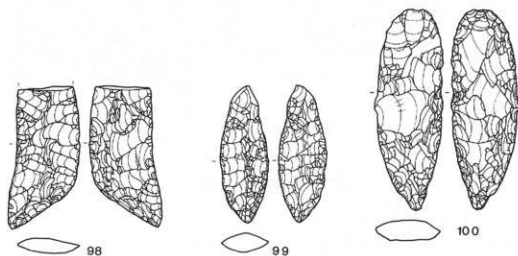
No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
35	E-17-3	61.0	26.0	10.0	13.0	頁岩		両側縁両面加工	
36	E-17- 50	46.0	37.0	15.0	54.7	頁岩	106	両側縁両面加工、先端切り出し状	
37	F- 4-1	48.0	28.0	42.0	13.8	頁岩		一側縁両面加工、一側縁裏面加工	
38	F-11- 28	113.0	29.0	17.0	44.9	頁岩		両側縁両面加工、先端切り出し状、反り	
39	F-16- 21	33.0	29.0	8.6	8.7	頁岩		基部欠損、一側縁背面加工	
40	F-16- 30	54.4	33.2	14.0	21.0	チャート		両側縁両面加工	
41	F-19- 16	35.0	14.0	8.4	4.0	頁岩		両側縁両面加工	
42	G-17- 24	86.0	35.0	15.0	37.5	頁岩		両側縁背面加工、先端切り出し状	

搔器 (図Ⅲ-17) (表Ⅲ-17)

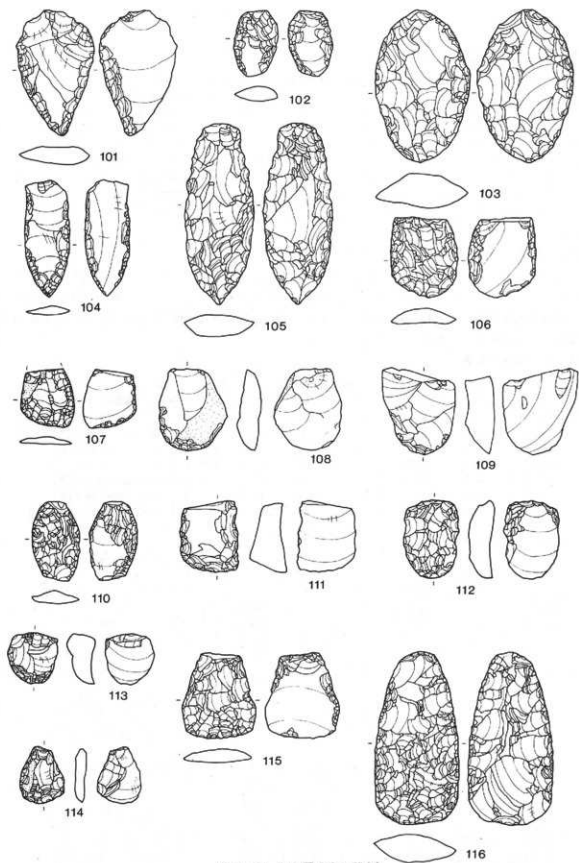
18点が出土している。石質は頁岩12点、チャート4点、黒曜石2点である。刃部形態はラウンドスクレイパー4点、エンドスクレイパー2点、サイドスクレイパー4点である。106・107・110・115・116は背面全面を加工し爪形を呈するものである。106は横長剥片を使用したものであり、116は両面を加工しているものである。

表Ⅲ-17 搔器一覧表

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	D- 3-1	41.0	35.0	8.6	15.3	頁岩	106	一側縁両面一側縁裏面加工、先端背面加工、爪形	
2	D-14-100	55.0	43.2	13.0	42.1	頁岩		サイドスクレイパー、先端欠損、一側縁背面一側縁裏面加工	
3	D-15-235	30.6	28.6	6.4	5.6	頁岩	107	基部欠損、一側縁両面加工、一側縁背面加工、背面に礫石面	
4	D-16- 33	35.0	43.6	14.0	24.1	チャート	108	ラウンドスクレイパー、背面に礫石面	
5	D-16-172	49.0	38.0	16.0	27.3	頁岩	109	ラウンドスクレイパー	
6	D-17-109	42.0	25.0	8.4	9.0	頁岩	110	両側縁・先端両面加工、爪形	
7	D-18-9	40.6	38.2	10.0	17.1	頁岩		基部一側縁欠損、先端一側縁背面加工	
8	D-18-137	54.6	42.5	14.2	30.0	頁岩		先端・基部欠損、一側縁裏面加工、背面に礫石面	
9	D-19- 83	61.9	36.0	12.7	25.6	チャート		サイドスクレイパー、先端一側縁背面加工	
10	D-24-4	36.0	30.4	18.0	23.2	頁岩	111	エンドスクレイパー	
11	E-11- 17	52.0	24.4	15.0	17.3	頁岩		サイドスクレイパー、一側縁背面加工	
12	E-12-4	41.4	30.0	12.0	17.6	チャート	112	ラウンドスクレイパー	
13	E-12-5	63.0	40.0	14.0	27.6	チャート		先端わずかに欠損、ラウンドスクレイパー	
14	F-16- 11	23.0	25.6	14.0	8.1	黒曜石	113	ラウンドスクレイパー	
15	E-16- 12	23.0	30.0	7.0	5.0	黒曜石	114	エンドスクレイパー、背面に礫石面	
16	F- 3-2	43.6	39.0	8.0	17.2	頁岩	115	両側縁・先端背面加工、爪形	
17	F-14- 24	63.6	42.0	11.0	41.4	頁岩		サイドスクレイパー、先端一側縁背面加工	
18	F-18- 43	91.0	44.6	14.0	59.9	頁岩	116	両側縁両面・先端背面加工、爪形、反り	



図Ⅲ-16 包含層出土石器(6)



図III-17 包含層出土石器(7)

Rフレイク (表III-18、19)

88点が出土している。石質は頁岩69点、チャート10点、黒曜石4点、安山岩3点、メノウ・メノウ質頁岩各1点である。

表III-18 Rフレイクー覧表(1)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	B-3-1	83.0	58.0	23.0	77.1	頁岩		一側縁背面加工	
2	D-12-25	32.4	12.0	5.0	2.7	頁岩		中央部片、一側縁両面・側縁背面加工	
3	D-13-32	45.4	23.4	7.0	7.7	頁岩		両側縁背面加工、先端切り出し状、背面に原石面	
4	D-13-49	55.8	38.0	9.0	17.5	頁岩		両側縁背面加工	
5	D-13-109	39.0	20.4	6.0	6.0	黒曜石		基部欠損、両側縁両面加工	
6	D-13-112	91.0	55.0	19.0	76.0	頁岩		一側縁背面加工、背面加工、背面に原石面	
7	D-13-200	134.0	42.6	23.0	136	安山岩		一側縁両面加工	
8	D-13-209	46.6	35.4	15.0	24.0	頁岩		一側縁背面加工	
9	D-14-12	39.0	50.0	12.0	23.6	頁岩		基部片、一側縁両面加工	
10	D-14-71	34.0	31.4	11.0	11.5	頁岩		一端欠損、一端切り出し状、両側縁両面加工、石雜?	
11	D-14-80	41.0	20.0	7.6	7.5	頁岩		一側縁欠損、一側縁背面・基部両面加工	
12	D-14-81	27.0	30.6	6.2	6.6	チャート		基部片、一側縁背面加工	
13	D-14-120	81.6	62.6	9.0	92.0	頁岩		一側縁背面加工、リモノイト付着	
14	D-14-121	22.0	23.3	7.3	3.7	頁岩		基部片、一側縁背面加工	
15	D-14-126	37.0	26.0	8.6	7.1	頁岩		基部欠損、一側縁背面・側縁背面加工、先端切り出し状	
16	D-14-130	29.0	19.4	6.6	4.3	頁岩		先端欠損、両側縁両面加工	
17	D-15-2	45.4	25.0	9.0	8.0	頁岩		一端欠損、両側縁両面加工、石雜未製品?	
18	D-15-21	29.0	24.0	2.6	2.2	頁岩		側縁部片、背面加工	
19	D-15-43	68.0	25.0	12.8	23.9	頁岩		先端部片、一端縁欠損、一側縁背面加工、背面に原石面	
20	D-15-62	86.2	70.0	21.0	107	頁岩		一側縁背面加工、背面・側縁に原石面	
21	D-15-92	33.0	41.6	12.8	14.7	頁岩		先端欠損、一側縁背面加工、基部に原石面	
22	D-15-131	71.0	30.0	12.0	26.0	頁岩		一側縁背面加工	
23	D-15-156	32.6	24.0	9.0	7.0	黒曜石		一端欠損、両側縁両面加工、切り出し状	
24	D-15-168	49.4	46.0	9.0	24.0	頁岩		一側縁・先端背面加工	
25	D-15-197	77.6	41.0	15.0	49.0	頁岩		両側縁両面加工、背面に原石面	
26	D-15-216	41.0	20.0	4.4	3.5	頁岩		両側縁背面加工、先端切り出し状	
27	D-15-219①	28.0	21.4	8.0	5.4	頁岩		端部片、一側縁背面加工	
28	D-15-219②	33.6	29.4	9.0	10.7	チャート		基部片、両側縁背面加工	
29	D-15-219③	38.0	18.6	9.0	5.6	頁岩		一端欠損、両側縁両面加工、石雜?	
30	D-15-227	45.0	26.4	11.6	10.5	頁岩		先端・一側縁欠損、一側縁背面加工	
31	D-15-236	33.0	20.0	5.6	2.7	頁岩		一側縁背面加工、一側縁上半部面・下半部面加工	
32	D-16-10	45.0	30.0	9.0	8.0	頁岩		基部欠損、一側縁背面加工、先端切り出し状	
33	D-16-41	68.5	21.5	10.7	12.3	頁岩		一側縁背面加工	
34	D-16-45	51.4	38.4	13.6	27.1	チャート		両側縁背面加工	
35	D-16-55	54.6	34.0	10.0	16.9	頁岩		両側縁背面加工	
36	D-16-84	46.4	51.0	14.6	37.5	頁岩		先端欠損、一側縁背面加工	
37	D-16-88	42.4	38.6	14.0	15.3	頁岩		基部欠損、両側縁背面加工	
38	D-16-124	78.0	58.0	25.9	60.7	頁岩		一側縁欠損、一側縁背面加工	
39	D-16-125	34.0	39.0	11.6	16.8	頁岩		先端部片、両側縁両面加工	
40	D-16-136	56.4	32.4	9.0	19.2	頁岩		一端欠損、両側縁両面加工	
41	D-16-143	49.0	19.0	8.0	9.2	安山岩		先端欠損、両側縁両面加工、石雜?	
42	D-16-158	73.0	37.0	17.0	27.0	頁岩		両側縁両面加工、背面に原石面、先端切り出し状	
43	D-16-236	40.0	30.4	9.6	9.4	頁岩		基部片、一側縁背面加工	
44	D-16-245	29.0	18.0	5.6	2.3	頁岩		先端欠損、両側縁両面加工	
45	D-17-22	60.0	28.0	14.0	13.0	頁岩		一側縁背面加工、基部に原石面	
46	D-17-38	61.8	41.4	17.2	33.2	頁岩		基部欠損、一側縁背面加工、背面に原石面	
47	D-17-56	39.0	38.0	15.6	21.7	頁岩		先端欠損、一側縁背面加工	
48	D-17-86	87.8	43.0	16.4	59.1	頁岩		一側縁背面加工、一側縁に原石面、先端切り出し状	
49	D-17-104	45.4	30.0	10.0	13.3	頁岩		一側縁両面加工	
50	D-18-3	19.0	19.0	4.2	1.7	頁岩		先端欠損、一側縁両面・一側縁背面加工	
51	D-18-4①	24.0	27.8	9.0	4.3	チャート		先端欠損、一側縁背面加工、背面に原石面	
52	D-18-4②	18.0	20.0	6.6	1.4	チャート		両側縁背面加工、石雜?	
53	D-18-23	17.6	16.0	4.0	0.6	頁岩		先端部片、両側縁両面加工、石雜片?	
54	D-18-28③	26.2	20.0	4.2	1.8	頁岩		先端・両側縁背面加工、石雜?	
55	D-18-147	41.6	17.0	4.0	3.0	頁岩		一側縁背面加工、先端切り出し状	

表Ⅲ-19 Rフレイク一覧表(2)

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
56	D-19-10	63.0	22.4	8.6	13.3	黒曜石		両側縁両面加工、背面に原石面
57	D-19-27	46.9	34.7	12.8	16.3	チャート		一側縁背面・一側縁腹面加工
58	D-19-81	16.2	24.6	7.8	4.8	頁岩		基部欠損、両側縁背面加工
59	D-23-10	39.0	29.0	10.0	12.7	頁岩		基部欠損、一側縁背面加工
60	E-4-5	46.2	16.4	12.0	7.1	頁岩		両側縁両面加工、先端切り出し状
61	E-12-13	67.6	32.4	12.0	26.7	頁岩		先端欠損、一側縁背面加工
62	E-12-16	71.4	33.0	15.6	25.7	頁岩		一側縁背面加工、背面に原石面
63	E-13-9	49.0	35.0	10.6	18.5	頁岩		先端欠損、基部背面加工、背面に原石面
64	E-14-33	57.4	47.6	23.4	51.0	頁岩		両側縁両面加工
65	E-15-10	37.0	23.0	6.8	5.2	頁岩		一側縁腹面加工
66	E-15-45	26.6	15.5	7.6	3.0	メノウ		先端欠損、両側縁腹面加工
67	E-15-51	29.4	22.0	5.0	3.0	頁岩		端部片、両側縁両面加工
68	E-16-13	66.0	49.0	14.0	31.7	頁岩		一側縁背面加工
69	E-16-46	74.0	38.0	11.0	32.3	頁岩		両側縁両面加工
70	E-17-39	43.2	35.0	17.6	21.8	頁岩		基部欠損、先端・両側縁背面加工
71	E-17-47	46.6	35.0	13.2	20.6	頁岩		先端欠損、基部背面・一側縁腹面加工
72	E-17-61	28.0	20.4	7.0	4.0	チャート		一側縁背面加工、先端切り出し状、石鏝?
73	E-17-62	26.0	23.0	6.6	3.0	チャート		両側縁背面加工、石鏝?
74	E-17-196	41.0	17.0	11.0	7.0	チャート		基部欠損、両側縁両面加工、先端切り出し状
75	E-17-198	28.8	10.0	4.8	1.5	チャート		側縁部片、背面加工
76	E-18-77	64.0	37.4	12.0	35.4	頁岩		一側縁背面加工
77	E-19-9	40.0	23.0	7.0	7.3	頁岩		一側縁背面加工、基部一側縁に原石面
78	E-19-10	30.6	21.2	7.4	5.3	頁岩		両側縁背面加工
79	E-19-29	17.0	12.0	3.0	0.6	黒曜石		端部片、両面加工
80	E-19-32	40.0	22.0	5.0	5.3	頁岩		一側縁上半腹面・下半背面加工
81	F-14-11	60.0	45.6	12.0	74.6	頁岩		基部欠損、一側縁・先端両面加工、一側縁背面加工
82	F-22-4	70.0	53.0	19.0	53.1	頁岩		一側縁両面加工、背面一側縁に原石面
83	F-25-16	46.0	24.0	4.0	5.0	頁岩		先端欠損、両側縁背面加工
84	G-11-23	97.0	54.4	13.0	82.5	安山岩		一側縁・腹面背面加工
85	G-17-10	28.0	55.0	11.0	13.7	頁岩		先端・両側縁背面加工
86	G-17-29	28.0	32.0	8.0	9.3	頁岩		基部片、両側縁背面加工
87	H-13-19	64.0	37.0	12.6	31.4	頁岩		一端欠損、両側縁両面加工、先端切り出し状
88	H-14-4	23.4	22.0	3.4	2.3	頁岩		先端部片、一側縁両面・一側縁背面加工、切り出し状

Uフレイク (表Ⅲ-20、21)

14点出土している。石質は頁岩13点、チャート1点である。いずれも剥片の側縁に刃こぼれ状の使用痕をもつものである。

石核 (図Ⅲ-18) (表Ⅲ-22)

27点が出土している。石質は頁岩20点、チャート6点、メノウ質頁岩1点である。118は上下両方向からの剥離がみられる。

表Ⅲ-20 Uフレイク一覧表(1)

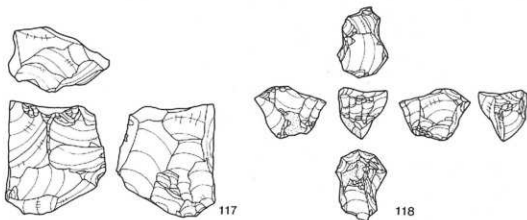
No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	A-3-2	43.0	39.4	7.0	13.7	頁岩		先端欠損、一側縁刃こぼれ状
2	D-12-26	42.8	16.0	4.4	3.1	頁岩		一側縁刃こぼれ状
3	D-13-224	47.6	29.0	13.6	22.6	頁岩		一側縁刃こぼれ状
4	D-14-96	54.8	30.8	13.1	22.4	チャート		両側縁刃こぼれ状、背面に原石面
5	D-15-39	110.6	42.0	15.0	51.4	頁岩		一側縁刃こぼれ状、背面に原石面
6	D-15-95	67.4	35.4	11.2	27.7	頁岩		先端欠損、一側縁刃こぼれ状

表Ⅲ-21 Uフレイク一覧表(2)

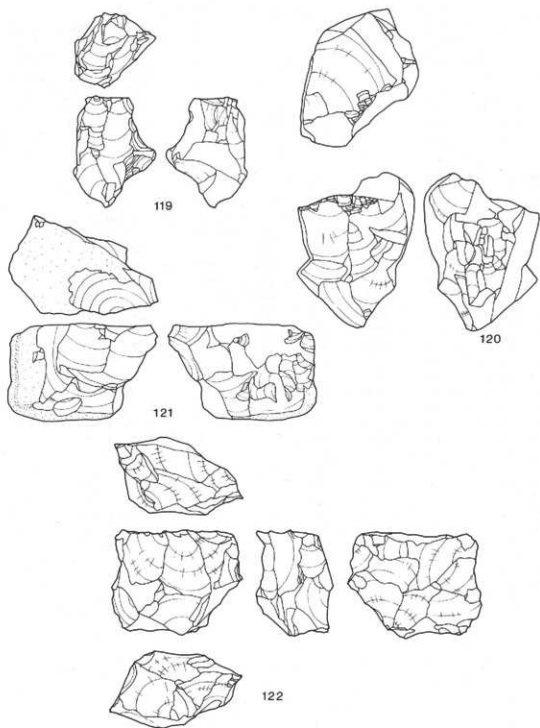
No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
7	D-15-220	41.2	30.0	10.0	16.3	頁岩		先端欠損、一側縁刃こぼれ状	
8	D-15-228	42.0	42.2	12.0	23.0	頁岩		先端欠損、両側縁刃こぼれ状	
9	D-15-229	30.4	33.0	10.0	7.6	頁岩		先端一側縁欠損、一側縁刃こぼれ状	
10	E-12-45	41.4	29.4	9.4	11.3	頁岩		先端欠損、両側縁刃こぼれ状	
11	E-15-45	68.7	26.9	13.5	19.1	頁岩		一側縁刃こぼれ状、背面に原石面	
12	E-17-138	69.0	49.1	12.7	37.7	頁岩		先端欠損、両側縁刃こぼれ状、背面に原石面	
13	F-16-7	50.6	27.2	7.6	10.3	頁岩		両側縁刃こぼれ状	
14	G-12-25	44.4	33.0	10.0	16.0	頁岩		基部欠損、一側縁刃こぼれ状、先端切り出し状	

表Ⅲ-22 石核一覧表

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	D-5-23	46.1	49.6	33.3	101	頁岩	117	一面に原石面	
2	D-6-17	19.5	24.0	25.7	21.7	頁岩	118	三面に原石面	
3	D-14-72	39.8	30.0	12.1	19.0	チャート		一面に原石面	
4	D-15-48	54.4	44.7	27.3	77.4	頁岩	119	一面に原石面	
5	D-15-212	42.7	48.6	19.4	45.8	ノリ岩		一面に原石面	
6	D-15-232	42.2	51.3	27.0	60.9	頁岩		二面に原石面	
7	D-16-30	56.9	65.6	41.2	170	チャート		一面に原石面	
8	D-17-41	52.7	80.4	50.3	310	頁岩	120	一面に原石面	
9	D-17-73	33.1	31.0	26.8	40.3	頁岩		一面に原石面	
10	D-18-48	25.2	67.6	29.0	105	チャート		一面に原石面	
11	D-18-193	38.6	44.7	34.7	52.0	頁岩		一面に原石面	
12	D-21-11	34.1	47.6	40.5	93.3	頁岩		三面に原石面	
13	E-14-1	43.9	38.4	40.7	122	頁岩		二面に原石面	
14	E-15-39	62.6	105.1	39.8	213	頁岩		一面に原石面	
15	E-16-3	37.5	63.9	17.3	47.3	頁岩		一面に原石面	
16	E-16-55	47.4	59.3	22.1	64.0	頁岩		一面に原石面	
17	E-17-52	48.0	71.0	48.3	242	頁岩	121	四面に原石面	
18	E-17-53	42.2	55.2	30.1	127	頁岩		四面に原石面	
19	E-17-54	54.4	54.0	32.6	93.2	チャート		一面に原石面	
20	E-17-164	44.7	64.3	46.5	153	頁岩		四面に原石面	
21	F-17-215	128.6	146.6	66.2	1,550	泥岩		四面に原石面	
22	E-18-14	31.8	38.9	35.0	67.7	頁岩		一面に原石面	
23	E-18-18	35.6	31.4	30.0	51.7	頁岩		一面に原石面	
24	E-18-19	31.5	28.4	29.6	32.5	チャート		三面に原石面	
25	E-19-40	40.2	54.8	22.8	75.5	頁岩		二面に原石面	
26	F-15-29	45.1	108.4	32.6	211	頁岩		三面に原石面	
27	G-17-30	67.5	63.2	38.0	180	チャート	122	原石面残らず	



図Ⅲ-18 包含層出土石器(8)



図Ⅲ-19 包含層出土石器(9)

石製品 (図Ⅲ-20) (表Ⅲ-23)

垂飾が4点出土している。石質は安山岩2点、カンラン岩・泥岩各1点である。123 は円形を呈するものであり中央には片面からの穿孔がみられる。124 は不整四角形を呈すると思われるものの欠損品である。両面ともに面部が平坦に加工されている。

表Ⅲ-23 石製品

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	D-13-27	26.7	27.0	10.9	14.5	珉ツラン岩	123	垂飾	
2	D-15-8	41.6	28.0	11.6	7.4	泥岩		垂飾、欠損	
3	D-16-163	64.7	62.7	65.9	176.2	安山岩		垂飾	
4	E-16-72	47.7	33.6	18.3	28.0	安山岩	124	垂飾、欠損	



図Ⅲ-20 包含層出土石器(0)

(2) 礫石器 (図Ⅲ-19~29) (表Ⅲ22~36)

礫石器は 481点出土している。石質は花崗閃緑岩が多く使用されている。

工具としての石斧、すり石、砥石、狩猟具としての石錘、生活用具としてのたたき石、石皿、台石に分類される。出土器種はすり石が最も多く、次いで石錘が多い。

石斧 (図Ⅲ-21) (表Ⅲ-24)

43点出土している。石質は緑色泥岩21点、泥岩9点、蛇紋岩9点、片岩4点である。

刃部の形態が明瞭なものは21点である。両刃のものが14点、片刃のものが7点である。125・131・132・134・137 はすり切り痕をもつものである。126～130・133・135・136 は全面が磨かれており、126・136・137 は刃部に使用によると思われるつぶれがみられる。126 には側縁に敲打調整痕がみられる。No.11は基端部に最大直径7mm、最小直径1mmの穴を穿孔しており石製品の可能性がある。

すり石 (図Ⅲ-22~24) (表Ⅲ-25~28)

216点出土している。石質は花崗閃緑岩 136点、安山岩58点、凝灰質砂岩13点、砂岩7点、緑色凝灰岩2点である。形態としては138～144・147・149・151～153・162～165などは断面三角形礫を使用したものであり98点出土している。138・144・152・162 はすり面の幅を敲打剥離によって調整している。145・146・156・160などは扁平礫が敲打剥離によって大きく形状を変えているものであり60点出土している。145・156は半円状に調整されたものであり、146は扁平礫れたものの片面が敲打剥離によって大きく打ち欠かれているものである。148・150・154・155・157～159・166・167などは扁平礫を素材としているもので、敲打剥離調整が行われないものや下辺あるいは端部にとどまるものであり44点出土している。148・150・154・159・167は礫の両端に石錘状の袢りが作出されているものである。161は北海道式石冠と称されるもので5点が出土している。

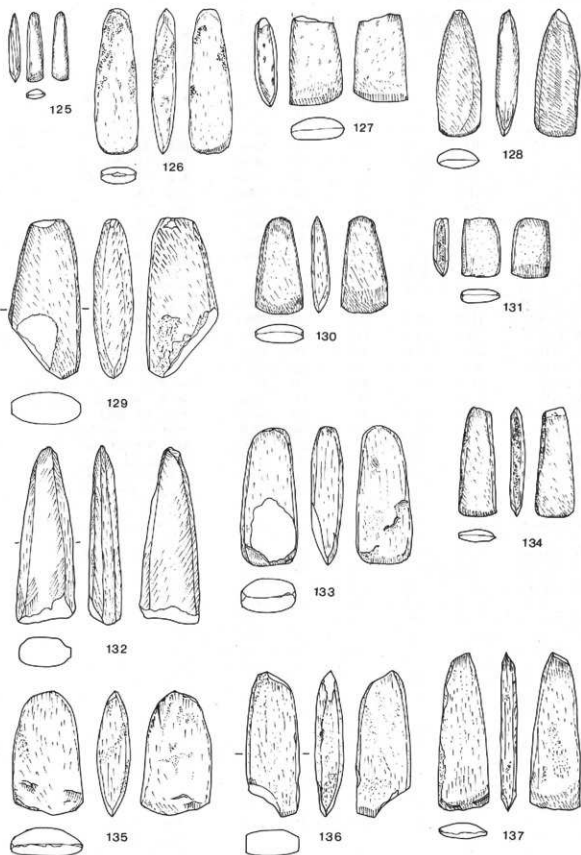
砥石 (図Ⅲ-25) (表Ⅲ-29)

6点出土している。石質は砂岩3点、泥岩2点、安山岩1点である。168は使用面が平坦であり、169は使用面がすりくぼんでいる。170は両面に幅約15~5mm程の細い溝状の使用痕がみられる。168

・169は細粒砂岩を使用している。

表Ⅲ-24 石斧一覽表

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	D-5-28	34.9	23.3	11.9	10.5	泥岩		刃部片、両刃	
2	D-7-3	54.8	14.2	8.4	10.7	蛇紋岩	125	すり切り痕残る	
3	D-13-29	32.2	21.8	9.9	7.6	緑色泥岩		背部片	
4	D-13-73	64.8	29.8	10.1	24.8	緑色泥岩		背部片	
5	D-13-234	27.1	31.6	4.4	4.0	緑色泥岩		刃部片	
6	D-14-13	114.3	33.6	17.9	120	緑色泥岩	126	両刃	
7	D-14-25	78.0	54.1	25.7	160	泥岩		中央部片	
8	D-14-194	68.1	44.9	25.1	140	緑色泥岩		基部欠損、両刃、著しい片減り	
9	D-15-12	47.1	73.5	23.1	110	泥岩		刃部片、両刃	
10	D-15-184	67.9	40.2	16.8	80.0	蛇紋岩	127	基部欠損、両刃	
11	D-15-194	31.0	42.5	12.4	24.3	蛇紋岩		基部片、端部に穿孔	
12	D-15-218	98.9	33.5	16.0	90.0	緑色泥岩	128	片刃	
13	D-16-67	65.9	46.7	18.4	80.3	泥岩		基部片	
14	D-16-95	126.7	55.9	29.6	310	緑色泥岩	129	先端欠損	
15	D-16-164	84.5	57.3	25.2	200	泥岩		基部欠損、両刃	
16	D-16-217	75.1	36.1	12.5	60.0	緑色泥岩	130	片刃	
17	D-17-67	28.9	27.7	4.0	4.2	泥岩		背部片	
18	D-19-30	46.2	30.5	11.3	30.0	蛇紋岩	131	片刃、すり切り痕を残す	
19	D-19-36	80.3	29.8	13.5	60.0	片岩		基部欠損、片刃	
20	D-25-5	39.0	42.8	17.7	47.7	緑色泥岩		基部片	
21	E-10-28	32.1	19.2	4.7	3.7	緑色泥岩		刃部片	
22	E-14-20	96.5	66.5	32.5	350	緑色泥岩		先端欠損	
23	E-15-6	49.9	35.9	6.3	12.7	緑色泥岩		背部片	
24	E-16-42	93.1	16.8	12.7	40.0	片岩		石のみ	
25	E-16-67	31.8	28.6	9.6	8.1	泥岩		基部片	
26	E-17-180	101.9	34.3	23.0	120	蛇紋岩		一個縁欠損	
27	E-17-211	137.5	47.8	25.8	250	緑色泥岩	132	先端欠損、すり切り痕残る	
28	E-19-43	22.1	18.5	3.7	2.0	緑色泥岩		刃部片	
29	E-22-25	49.3	37.3	2.7	6.4	緑色泥岩		背部片	
30	E-24-7	56.8	40.8	31.7	90.0	泥岩		基部片	
31	E-25-6	73.3	36.6	5.9	21.8	片岩		背部片	
32	F-11-1	32.8	21.5	8.5	5.2	緑色泥岩		背部片	
33	F-11-14	35.0	21.3	6.7	5.7	緑色泥岩		刃部片	
34	F-17-6	58.1	44.8	15.9	60.0	蛇紋岩		刃部片、両刃	
35	F-19-12	55.6	23.4	12.1	16.0	緑色泥岩		刃部片、片刃	
36	F-25-13	108.3	43.2	25.5	210	緑色泥岩	133	両刃	
37	G-11-13	48.4	49.8	15.5	50.0	泥岩		刃部片、両刃、半円形	
38	G-13-12	84.0	29.7	11.0	50.0	蛇紋岩	134	両刃、すり切り痕残る	
39	G-14-1	96.2	52.4	24.3	220	蛇紋岩	135	両刃、片減り	
40	G-14-7	114.0	41.2	21.4	170	蛇紋岩	136	刃部欠損、両刃	
41	G-17-16	43.8	29.4	7.3	13.2	緑色泥岩		刃部片、片刃	
42	H-13-25	124.4	38.6	12.1	110	片岩	137	両刃、すり切り痕残る	
43	H-13-26	63.8	31.5	9.2	40.0	緑色泥岩		片刃、鈍明瞭	



图III-21 包含层出土石器(1)

表Ⅲ-25 すり石一覧表(1)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	表採-3	165.0	80.8	79.0	1,700	花崗閃緑岩		断面三角形	
2	B- 3-4	124.8	61.0	47.6	470	花崗閃緑岩		断面三角形	
3	B- 3-6	133.6	58.9	51.7	590	花崗閃緑岩		断面三角形	
4	B- 4- 11	125.5	65.3	52.9	650	花崗閃緑岩		断面三角形、両端欠損	
5	B- 5-3	147.0	84.7	49.8	820	花崗閃緑岩	138	断面三角形、敲打剥離	
6	B- 5- 12	134.0	74.7	61.2	900	花崗閃緑岩	139	断面三角形	
7	B- 5- 13	148.0	75.7	64.7	870	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損、焼けてから割れ	
8	C- 4-3	70.5	87.8	72.9	500	花崗閃緑岩		端部片、断面三角形	
9	C- 4-9	135.9	96.4	57.4	1,140	花崗閃緑岩		断面三角形、焼け	
10	C- 4- 19	164.0	75.9	62.2	1,160	花崗閃緑岩		断面三角形、敲打剥離	
11	C- 5- 1	130.2	66.0	48.1	590	花崗閃緑岩	140	断面三角形	
12	C- 5-9	98.9	100.6	61.4	1,300	花崗閃緑岩		断面三角形	
13	C- 5- 13	117.4	71.7	47.1	580	花崗閃緑岩		断面三角形	
14	C- 5- 14	170.0	79.7	77.7	1,350	花崗閃緑岩	141	断面三角形	
15	C- 5- 17	94.3	64.2	49.9	490	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損	
16	C- 5- 35	86.7	66.8	36.7	330	安山岩		扁平礫、一端欠損	
17	C- 5- 39	150.0	81.6	66.7	1,010	安山岩		断面三角形	
18	C- 5- 41	150.0	95.7	65.9	1,240	安山岩		断面三角形、焼け	
19	D- 6-7	113.9	81.4	51.8	690	花崗閃緑岩	142	断面三角形	
20	D- 7-7	144.0	64.1	48.5	690	安山岩	143	断面三角形、一端欠損	
21	D-11-6	75.3	61.8	50.1	290	安山岩		断面三角形、端部片、一辺欠損	
22	D-12-3	92.7	123.6	64.3	820	凝灰質砂岩		北海道式石冠、一端欠損	
23	D-12-7	112.7	87.8	38.9	490	砂岩		扁平礫、敲打剥離、上辺に敲打痕	
24	D-13-5	97.4	71.6	39.2	400	安山岩		扁平礫、一端欠損、敲打剥離、端部に挟り	
25	D-13-9	60.6	52.1	38.2	140	安山岩		断面三角形、端部片	
26	D-13- 19	82.2	52.4	50.5	360	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損、割れてから焼け	
27	D-13- 26	118.2	52.3	38.5	320	花崗閃緑岩	144	断面三角形、敲打剥離、二辺使用	
28	D-13- 38	110.7	71.0	28.0	280	花崗閃緑岩		扁平打製石器	
29	D-13- 48	163.0	115.1	45.5	1,070	花崗閃緑岩		扁平打製石器、一端欠損	
30	D-13- 63	104.7	59.9	25.0	170	花崗閃緑岩		下辺部片、割れてから焼け	
31	D-13- 76	176.0	89.4	33.1	1,020	安山岩		扁平打製石器	
32	D-13- 86	138.3	85.1	24.5	450	花崗閃緑岩		扁平礫、一端欠損、割れてから焼け	
33	D-13-103	154.0	67.5	55.4	860	花崗閃緑岩		断面三角形	
34	D-13-104	162.0	64.6	27.9	420	安山岩		扁平垂直礫、敲打剥離	
35	D-13-202	160.0	67.4	52.5	750	花崗閃緑岩		断面三角形	
36	D-13-203	80.8	73.7	61.4	500	凝灰質砂岩		断面三角形、端部片	
37	D-13-231	157.0	18.1	55.3	800	安山岩		断面三角形、一端一側面欠損、割れてから焼け	
38	D-14- 14	170.0	110.0	36.0	1,060	花崗閃緑岩	145	扁平打製石器	
39	D-14- 17	155.0	95.7	48.2	900	花崗閃緑岩		扁平打製石器	
40	D-14- 19	150.0	94.6	28.9	600	花崗閃緑岩		扁平礫	
41	D-14- 21①	131.8	70.4	53.9	700	花崗閃緑岩		断面三角形、敲打剥離	
42	D-14- 21②	178.0	76.6	55.9	1,020	花崗閃緑岩		断面三角形	
43	D-14- 30	138.0	65.0	47.2	550	花崗閃緑岩		断面三角形、敲打剥離	
44	D-14- 35	88.1	67.1	48.9	420	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損	
45	D-14- 58	160.0	106.4	29.4	790	花崗閃緑岩		扁平打製石器	
46	D-14- 66	85.7	74.0	18.0	180	安山岩		扁平打製石器、一端欠損	
47	D-14- 84	131.8	84.8	51.0	790	花崗閃緑岩		断面三角形	
48	D-14- 91	99.6	64.1	53.9	420	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損	
49	D-14- 98	165.0	89.5	47.4	950	花崗閃緑岩	146	扁平打製石器	
50	D-14-107	162.0	77.0	55.1	1,060	花崗閃緑岩	147	断面三角形	
51	D-14-144	107.1	60.4	48.2	440	花崗閃緑岩		断面三角形、焼け	
52	D-15-4	38.2	38.4	32.1	50.0	凝灰質砂岩		断面三角形、下辺部片	
53	D-15-7	104.6	102.8	18.0	300	安山岩		扁平打製石器	
54	D-15- 14	176.0	104.9	50.2	1,320	安山岩		扁平打製石器	
55	D-15- 26	155.1	113.5	41.2	1,000	安山岩		扁平打製石器、一端欠損、焼け	

表Ⅲ-26 すり石一覽表 (2)

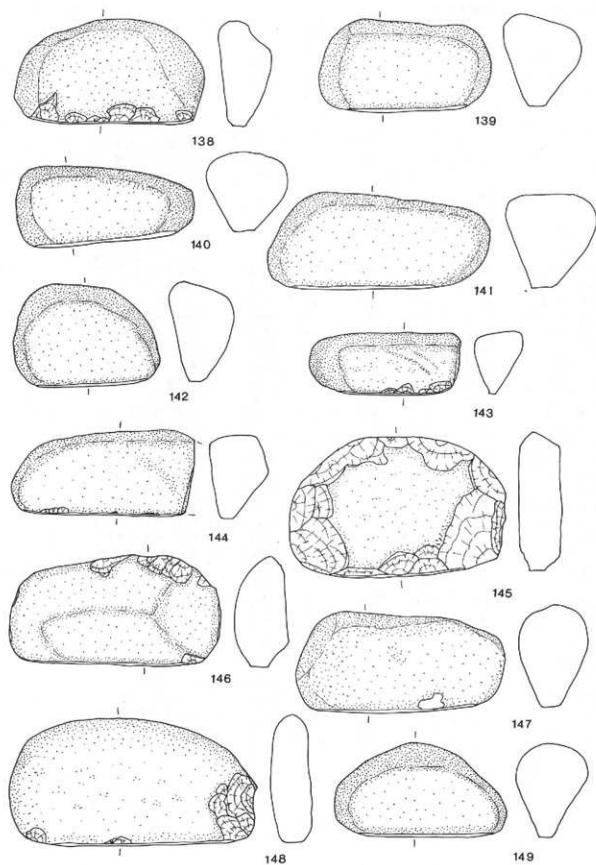
No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
56	D-15-52	85.3	87.4	27.9	260	花崗閃緑		扁平打製石器、端部片	
57	D-15-58①	172.0	70.0	32.4	530	凝灰砂岩		扁平打製石器	
58	D-15-58②	139.1	94.5	35.9	700	花崗閃緑		扁平打製石器、一端欠損、焼け	
59	D-15-61	121.2	62.1	26.9	230	安山岩		扁平礫、敲打剝離	
60	D-15-67①	109.3	78.0	36.8	440	花崗閃緑		扁平打製石器、一端欠損	
61	D-15-67②	193.0	100.3	33.9	990	安山岩	148	扁平礫、一端に挟り	
62	D-15-75	135.0	79.3	28.8	450	花崗閃緑		扁平礫、両端欠損、敲打剝離	
63	D-15-78①	79.4	80.9	30.7	260	花崗閃緑		扁平打製石器、端部片	
64	D-15-78②	130.0	87.4	46.6	700	安山岩		断面三角形、風化著しい	
65	D-15-80	180.0	96.7	40.0	800	安山岩		扁平打製石器、上辺欠損	
66	D-15-81	139.0	80.6	44.1	750	花崗閃緑		扁平打製石器、両端に挟り	
67	D-15-83	106.4	80.7	61.7	760	花崗閃緑		楕円礫の一面使用	
68	D-15-84	187.0	104.7	47.8	1,090	安山岩		扁平打製石器	
69	D-15-100	163.0	82.7	43.4	700	安山岩		断面扁平礫、敲打剝離、一端に挟り	
70	D-15-108	74.3	61.9	47.3	300	砂岩		断面三角形、一端欠損	
71	D-15-118	137.6	75.4	56.7	720	花崗閃緑	149	断面三角形	
72	D-15-119	200.0	119.2	32.2	1,020	安山岩		扁平打製石器	
73	D-15-123	168.0	113.8	41.5	1,240	花崗閃緑		扁平礫、敲打剝離	
74	D-15-126	170.0	104.1	40.2	880	花崗閃緑		扁平打製石器、焼け	
75	D-15-129	141.0	73.3	57.8	730	花崗閃緑		断面三角形、焼け	
76	D-15-143	140.0	107.8	35.5	700	花崗閃緑		扁平打製石器	
77	D-15-149	140.0	113.9	43.1	920	花崗閃緑		扁平打製石器	
78	D-15-152	151.7	90.3	38.4	720	花崗閃緑		扁平打製石器	
79	D-15-173	149.6	97.0	24.8	520	安山岩		扁平打製石器	
80	D-15-187	164.0	89.5	54.5	1,080	安山岩		断面三角形、一端欠損、敲打剝離	
81	D-15-202	133.3	101.8	27.5	600	安山岩		扁平帯角礫、一端欠損、敲打剝離	
82	D-15-210	164.0	100.1	34.8	690	花崗閃緑		扁平打製石器	
83	D-16-14	162.0	78.0	34.1	620	安山岩		扁平礫、敲打剝離	
84	D-16-23	155.0	112.9	39.9	1,040	花崗閃緑		扁平打製石器、焼け	
85	D-16-24	163.0	84.2	39.2	770	花崗閃緑		扁平礫、敲打剝離	
86	D-16-40	156.0	86.2	41.5	710	安山岩		扁平礫、敲打剝離	
87	D-16-66	104.9	46.0	23.9	140	砂岩		扁平礫、上辺欠損	
88	D-16-76	198.0	77.6	30.2	590	凝灰砂岩		扁平礫、D-16-77と接合	
89	D-16-79	163.0	83.6	43.9	800	緑色凝灰岩	150	扁平礫、両端に挟り	
90	D-16-93	95.0	79.5	53.8	570	花崗閃緑		断面三角形、一端欠損	
91	D-16-98	160.0	97.3	36.8	620	安山岩		扁平礫、一面欠損	
92	D-16-109	150.0	78.2	57.8	1,080	花崗閃緑	151	断面三角形	
93	D-16-113	165.0	102.5	33.7	800	花崗閃緑		扁平打製石器	
94	D-16-115	116.2	71.5	21.5	300	凝灰砂岩		扁平礫、両端に挟り	
95	D-16-118①	180.0	105.3	45.7	1,200	花崗閃緑		扁平打製石器	
96	D-16-118②	170.0	66.0	54.7	900	花崗閃緑		断面三角形	
97	D-16-127①	149.0	103.8	49.0	950	花崗閃緑		扁平打製石器、両端に挟り	
98	D-16-127②	158.0	78.7	37.4	680	凝灰砂岩		扁平礫、敲打剝離、両端に挟り	
99	D-16-131	76.2	75.1	51.0	450	花崗閃緑		断面三角形、端部片	
100	D-16-138①	109.0	100.2	17.3	240	安山岩		扁平打製石器、一端欠損	
101	D-16-138②	75.6	77.7	21.8	190	安山岩		扁平礫、敲打剝離、端部片	
102	D-16-162	121.4	66.3	28.6	340	安山岩		扁平打製石器	
103	D-16-169	72.2	65.9	47.5	300	花崗閃緑		断面三角形、端部片	
104	D-16-197	116.9	56.4	20.4	180	安山岩		扁平礫	
105	D-16-199	105.1	66.8	52.5	500	花崗閃緑		断面三角形、一端欠損	
106	D-16-212	123.9	48.3	31.0	270	花崗閃緑		断面三角形	
107	D-16-231	205.0	96.6	77.4	1,540	安山岩	152	断面三角形、敲打剝離	
108	D-17-15	155.0	80.1	41.2	680	花崗閃緑	153	断面三角形	
109	D-17-16	88.0	101.0	34.7	470	花崗閃緑		扁平打製石器、端部片	
110	D-17-30	41.5	58.3	19.4	50.0	凝灰砂岩		扁平礫、端部片、端部に挟り	

表Ⅲ-27 すり石一覧表(3)

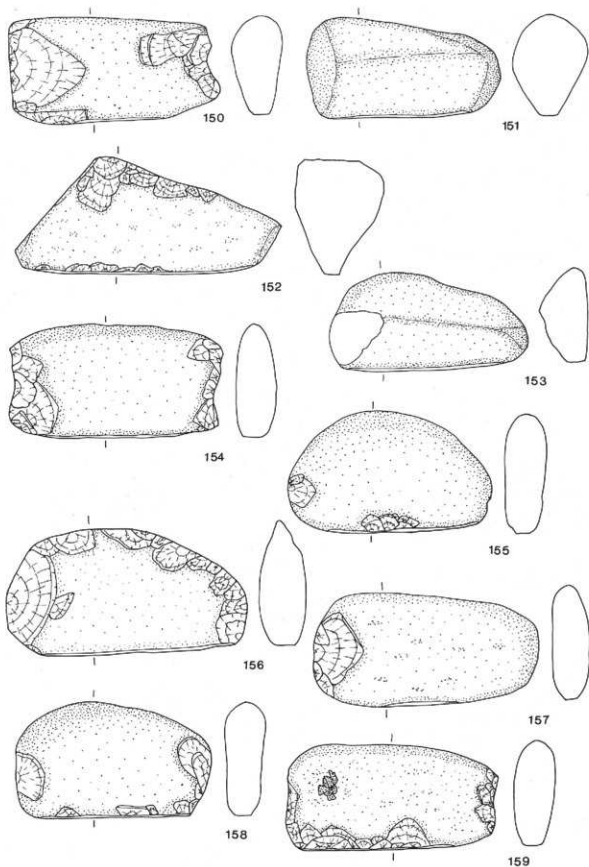
No	グレット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
111	D-17-66	140.0	96.3	57.6	810	花崗閃緑岩		扁平打製石器、一端欠損
112	D-17-71	129.5	84.5	44.3	700	花崗閃緑岩		扁平打製石器、一端欠損
113	D-17-79①	154.0	74.0	47.3	550	安山岩		断面三角形
114	D-17-79②	147.1	85.7	44.8	750	花崗閃緑岩		扁平打製石器
115	D-17-102	170.0	94.6	45.2	970	花崗閃緑岩		扁平礫、敲打剥離
116	D-17-107	122.6	92.4	33.8	600	花崗閃緑岩		扁平打製石器
117	D-18-7	216.0	86.6	62.8	1,740	花崗閃緑岩		断面三角形
118	D-18-12①	165.0	95.3	51.6	1,020	花崗閃緑岩		扁平打製石器
119	D-18-12②	136.3	83.5	37.2	500	砂岩		扁平礫、両端に挟り
120	D-18-14	162.0	91.2	37.0	1,000	安山岩	154	扁平礫、両端に挟り
121	D-18-33	109.4	56.0	43.5	380	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損
122	D-18-49	94.8	58.6	15.3	100	安山岩		扁平礫、敲打剥離、焼け
123	D-18-55	178.0	93.8	40.0	850	花崗閃緑岩		扁平打製石器 円形
124	D-18-70	79.1	78.7	37.3	300	花崗閃緑岩		扁平打製石器、端部片
125	D-18-108	164.0	109.7	32.0	850	安山岩		扁平礫、両端に挟り
126	D-18-114	187.0	88.1	40.9	950	花崗閃緑岩		扁平打製石器、焼け
127	D-18-129	165.0	109.0	45.6	1,070	花崗閃緑岩		扁平礫
128	D-18-173	126.5	66.6	37.5	500	花崗閃緑岩		断面三角形
129	D-18-174	131.8	77.6	68.1	940	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損
130	D-19-19	67.7	72.1	33.6	260	凝灰質砂岩		扁平礫、端部片、端部に挟り
131	D-19-80	160.0	95.2	35.9	880	花崗閃緑岩	155	扁平礫
132	D-22-7	102.8	78.1	29.4	360	安山岩		扁平礫、一端欠損、敲打剥離
133	E-4-13	62.5	75.5	41.6	250	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片、割れてから焼け
134	E-4-15	110.4	92.7	58.6	840	砂岩		断面三角形、一端欠損
135	E-5-12	68.3	65.2	55.7	290	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片、端部に敲打痕
136	E-7-5	165.0	75.3	44.3	890	安山岩		断面三角形
137	E-7-6	148.0	70.8	61.2	840	花崗閃緑岩		断面三角形
138	E-7-7	160.0	87.6	49.8	960	花崗閃緑岩		断面三角形
139	E-7-9	84.9	69.4	58.0	400	凝灰質砂岩		断面三角形、端部片
140	E-10-23	136.0	66.3	47.5	630	花崗閃緑岩		断面三角形、二辺使用
141	E-11-25	101.5	83.2	53.6	740	凝灰質砂岩		断面三角形、一端欠損、敲打剥離
142	E-11-45	101.0	60.6	73.2	620	凝灰質砂岩		北海道式石冠
143	E-12-14	79.5	67.9	58.4	430	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片
144	E-12-23	160.0	98.2	60.9	1,170	花崗閃緑岩		断面三角形、焼け
145	E-12-42	73.5	77.4	57.6	390	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片
146	E-13-13	184.0	103.8	40.2	1,100	花崗閃緑岩		扁平打製石器
147	E-13-15	55.5	46.2	45.3	160	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片、割れてから焼け
148	E-13-17	99.1	89.3	72.7	830	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片、割れてから焼け
149	E-13-41	67.0	77.7	57.4	380	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片、焼け
150	E-13-44	98.9	75.8	63.4	540	凝灰質砂岩		北海道式石冠
151	E-13-46	60.4	62.2	55.5	300	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片、二辺使用
152	E-14-29	170.0	91.5	29.3	740	花崗閃緑岩		扁平打製石器、焼け
153	E-14-30	170.0	72.5	69.0	1,240	花崗閃緑岩		断面三角形、焼け
154	E-15-7	93.1	71.5	32.6	320	花崗閃緑岩		扁平打製石器、端部片
155	E-15-14	134.2	67.2	25.1	290	砂岩		扁平打製石器
156	E-15-17	150.0	85.9	33.4	610	安山岩		扁平打製石器
157	E-15-24	187.0	100.6	39.9	1,040	花崗閃緑岩	156	扁平打製石器
158	E-15-27	82.7	102.0	42.4	600	花崗閃緑岩		扁平打製石器、端部片
159	E-15-34	165.0	100.1	60.7	1,280	花崗閃緑岩		断面三角形
160	E-15-44	160.0	130.0	32.8	990	花崗閃緑岩		扁平打製石器
161	E-15-80	111.7	61.8	30.3	310	花崗閃緑岩		扁平打製石器、両端に挟り、焼け
162	E-16-44	79.0	100.7	41.8	440	花崗閃緑岩		扁平打製石器、端部片
163	E-16-47	124.0	105.2	34.2	540	花崗閃緑岩		扁平打製石器、一端欠損
164	E-17-192	152.0	86.9	38.5	510	花崗閃緑岩		一端・上辺・一側面欠損、断面三角形?

表Ⅲ-28 すり石一覧表(4)

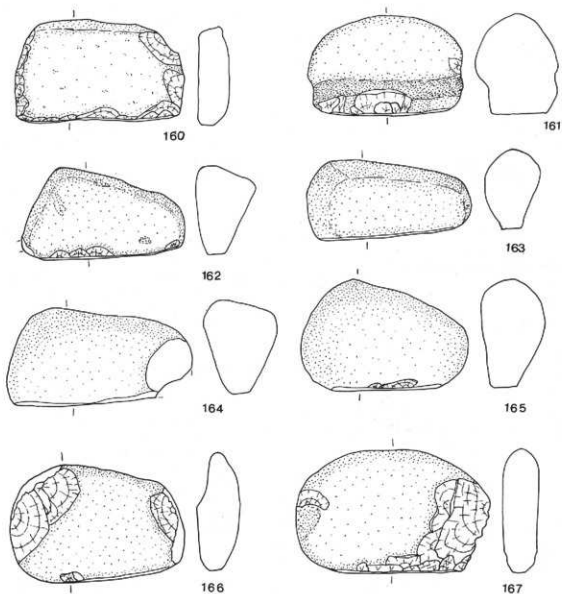
No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
165	E-17-213	90.8	99.0	41.2	510	花崗閃緑岩		端部片	
166	E-17-216	106.2	77.3	48.9	400	花崗閃緑岩		断面三角形、敲打調整、一端欠損	
167	E-18-79①	175.0	91.2	32.1	720	安山岩	157	扁平礫、両端に挟り	
168	E-18-83	125.3	93.1	38.4	590	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損	
169	E-18-86	101.6	65.3	26.4	210	安山岩		扁平打製石器	
170	E-18-101	173.0	75.4	60.0	124	花崗閃緑岩		断面三角形、焼け	
171	E-18-104	153.0	93.1	388.0	850	安山岩	158	扁平礫、敲打剥離、両端に挟り	
172	E-18-105	163.0	84.9	35.8	820	安山岩	159	扁平礫、敲打剥離、両端に挟り	
173	E-19-19	145.0	108.3	41.7	840	花崗閃緑岩		扁平打製石器	
174	E-19-54	132.4	81.1	24.3	540	砂岩	160	扁平礫、敲打剥離	
175	E-19-55	96.8	68.0	75.2	850	安山岩		北海道式石冠、一端欠損	
176	E-20-6	145.0	73.7	50.0	710	安山岩		断面三角形	
177	E-20-7	123.0	70.0	78.4	960	安山岩	161	北海道式石冠	
178	F-6-1	140.0	65.8	47.5	520	安山岩		断面三角形、敲打剥離	
179	F-6-2	127.9	76.6	52.9	560	花崗閃緑岩	162	断面三角形、敲打剥離	
180	F-11-2	101.3	85.8	36.2	360	安山岩		扁平礫、一端欠損、端部に挟り	
181	F-11-6	82.4	90.0	35.6	400	安山岩		扁平礫、端部片、敲打剥離	
182	F-11-18	150.0	92.5	82.4	1,290	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損、割れてから焼け	
183	F-12-4	116.0	63.2	42.5	500	花崗閃緑岩		断面三角形	
184	F-14-9	138.0	65.2	59.7	870	安山岩	163	断面三角形	
185	F-15-12	147.0	76.2	56.9	770	安山岩	164	断面三角形、一端欠損	
186	F-16-5	143.0	80.8	40.1	640	花崗閃緑岩		扁平礫	
187	F-16-28	154.0	68.8	49.0	680	花崗閃緑岩		断面三角形	
188	F-16-37	160.0	88.5	36.3	570	安山岩		扁平打製石器	
189	F-16-62	184.0	122.8	33.0	900	安山岩		扁平打製石器、未使用	
190	F-16-113	102.6	90.7	63.5	730	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片	
191	F-17-117	130.7	85.4	55.1	890	花崗閃緑岩	165	断面三角形	
192	F-18-37	102.4	58.4	22.7	250	花崗閃緑岩		扁平礫、両端に敲打痕	
193	F-18-41	175.0	107.4	40.6	840	安山岩		扁平打製石器	
194	F-19-28	108.7	77.1	60.6	740	安山岩		断面三角形、一端欠損	
195	F-21-4	89.3	66.5	60.1	390	安山岩		断面三角形、一端欠損	
196	G-12-3	72.4	68.4	58.1	380	安山岩		断面三角形、端部片	
197	G-12-22	162.0	74.1	64.9	1,070	花崗閃緑岩		断面三角形、三辺使用	
198	G-12-36	101.0	83.8	62.5	780	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損	
199	G-14-14	135.0	94.0	37.7	720	花崗閃緑岩	166	扁平礫	
200	G-14-18	87.2	82.2	50.2	520	花崗閃緑岩		槽内礫の一面使用	
201	G-16-4	53.7	80.8	40.9	200	花崗閃緑岩		扁平打製石器、端部片	
202	G-17-15	163.0	96.2	34.9	800	花崗閃緑岩		扁平礫、焼け	
203	G-17-41	83.3	95.4	46.0	500	花崗閃緑岩		扁平打製石器、端部片	
204	G-19-3	118.4	68.8	22.4	250	花崗閃緑岩		扁平打製石器	
205	G-20-2	123.5	78.6	30.2	340	花崗閃緑岩		扁平打製石器	
206	G-20-9	78.6	88.6	38.7	360	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片	
207	G-21-1	150.0	97.3	30.0	690	安山岩	167	扁平礫、両端に挟り	
208	H-13-23	101.6	65.2	54.6	490	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損	
209	H-13-36	65.5	55.7	39.0	220	花崗閃緑岩		断面三角形、端部片	
210	H-13-39	129.7	66.5	38.9	500	花崗閃緑岩		断面三角形	
211	H-13-42	111.3	55.8	57.8	600	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損、端部に敲打痕	
212	H-14-8	142.0	75.9	59.9	930	花崗閃緑岩		断面三角形、二辺使用	
213	I-15-1	170.0	75.3	52.3	1,050	凝灰質砂岩		断面三角形、敲打剥離	
214	I-15-2	91.1	71.7	56.1	510	花崗閃緑岩		断面三角形、一端欠損、二辺使用	



图III-22 包含层出土石器12



图三-23 包含层出土石器 10



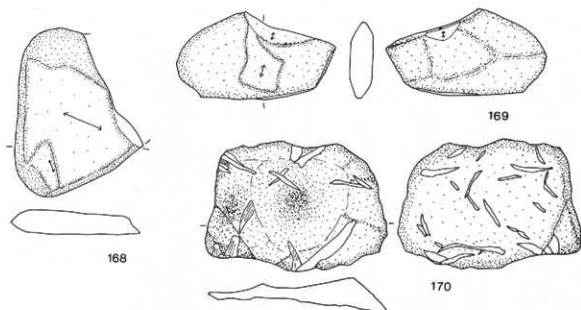
図Ⅲ-24 包含層出土石器 ④

表Ⅲ-29 砥石一覧表

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	D-13-227	122.1	95.7	20.7	320	砂岩	168	一面に使用痕、一端欠損
2	D-15-164	124.3	69.1	19.8	140	砂岩	169	両面に使用痕
3	D-16-200	187.0	141.0	34.8	540	泥岩	170	両面に使用痕
4	E-11-36	300.0	119.4	107.4	3,380	砂岩		三面に使用痕
5	E-16-66	117.9	103.2	44.3	820	安山岩		一面に使用痕
6	G-16-12	112.4	104.5	57.4	640	泥岩		一面に使用痕

石錘 (図Ⅲ-26) (表Ⅲ-30~33)

160 点出土している。石質は安山岩 118点、花崗閃緑岩 8点、凝灰質砂岩14点、泥岩 4点、砂岩16点である。いずれも扁平礫の両端を加撃し抉りを作成したものである。ほとんどが長軸に抉りを作成している。



図Ⅲ-25 包含層出土石器(5)

表Ⅲ-30 石錘一覧表(1)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	C-3-10	39.6	35.6	21.1	40.0	安山岩		両端に挟り	
2	C-4-18	58.7	53.6	18.4	90.0	安山岩	171	両端に挟り	
3	C-5-27	81.3	59.3	19.6	110	花崗岩		両端に挟り	
4	C-6-7	83.0	77.8	35.4	270	安山岩		両端に挟り	
5	D-5-16	61.2	56.1	22.4	100	安山岩		両端に挟り	
6	D-5-25	58.4	53.0	13.0	50.0	安山岩		両端に挟り	
7	D-6-16	72.6	56.8	21.9	120	安山岩		両端に挟り	
8	D-7-10	31.9	66.0	16.1	44.8	安山岩		端部片	
9	D-7-11	56.0	47.6	12.5	50.0	安山岩		両端に挟り	
10	D-11-2	82.0	57.6	25.2	140	安山岩		両端に挟り、一面欠損	
11	D-11-5	80.3	79.3	22.5	200	花崗岩		両端に挟り	
12	D-11-8	81.0	70.1	27.5	250	安山岩	172	両端に挟り	
13	D-12-6	74.6	58.1	20.9	120	花崗岩		両端に挟り、挽け	
14	D-13-10①	75.3	66.0	22.8	160	安山岩		両端に挟り	
15	D-13-10②	90.3	68.5	27.6	260	安山岩		両端に挟り	
16	D-13-18	58.7	52.3	19.1	80.0	安山岩		両端に挟り	
17	D-13-25	84.1	58.7	18.6	110	安山岩	173	両端に挟り	
18	D-13-28①	46.4	43.0	6.6	16.6	安山岩		両端に挟り	
19	D-13-28②	62.2	52.6	9.3	30.0	砂岩		両端に挟り	
20	D-13-40	78.4	67.2	19.1	170	花崗岩		両端に挟り	
21	D-13-54	76.7	70.0	24.0	200	安山岩	174	両端に挟り	
22	D-13-57①	73.3	60.4	21.9	150	安山岩		両端に挟り	
23	D-13-57②	74.0	76.2	29.9	180	砂岩		両端に挟り	
24	D-13-66	56.6	50.4	12.5	50.0	安山岩		両端に挟り	
25	D-13-82	57.0	46.6	13.7	40.0	安山岩		両端に挟り	
26	D-13-85	79.3	63.5	12.2	100	安山岩		両端に挟り	
27	D-13-92	65.2	62.4	22.8	130	安山岩		両端に挟り	
28	D-13-102	62.3	48.9	18.3	70.0	花崗岩		両端に挟り	
29	D-13-111	56.2	44.5	11.8	40.0	砂岩		両端に挟り	
30	D-13-118	69.2	61.8	22.6	140	安山岩	175	両端に挟り	
31	D-13-205	49.1	46.6	8.9	30.0	砂岩		両端に挟り	
32	D-13-210①	51.9	40.4	11.2	30.0	砂岩		両端に挟り	
33	D-13-210②	43.5	39.0	9.9	20.0	安山岩		両端に挟り	

表Ⅲ-31 石鍾一覧表(2)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
34	D-13-210③	52.0	42.2	12.8	40.0	安山岩		両端に挟り	
35	D-13-210④	53.0	38.8	9.9	40.0	泥岩		両端に挟り	
36	D-13-213	62.8	61.8	12.8	80.0	安山岩		両端に挟り	
37	D-14-34	85.1	67.9	9.9	200	安山岩		両端に挟り	
38	D-14-48	73.0	67.0	13.6	130	安山岩	176	両端に挟り	
39	D-14-60	71.1	58.3	16.9	120	凝灰岩		両端に挟り	
40	D-14-63	67.7	62.7	25.4	160	安山岩	177	両端に挟り	
41	D-14-104	48.5	40.7	13.5	40.0	安山岩		両端に挟り	
42	D-14-142	62.6	45.3	18.5	80.0	泥岩		両端に挟り	
43	D-15-30	69.9	55.9	22.5	120	凝灰岩		両端に挟り、擦り	
44	D-15-77	72.0	65.9	23.9	160	安山岩	178	両端に挟り	
45	D-15-90	79.0	48.8	19.4	100	安山岩		両端に挟り	
46	D-15-94	55.9	56.7	15.6	60.0	安山岩		両端に挟り	
47	D-15-139	65.5	56.7	17.3	90.0	安山岩		両端に挟り	
48	D-16-11	62.2	53.9	13.0	60.0	安山岩		両端に挟り	
49	D-16-80	72.6	72.3	19.7	150	安山岩		両端に挟り	
50	D-16-94	76.4	59.9	18.4	100	安山岩		両端に挟り	
51	D-16-171	52.9	47.9	13.7	50.0	凝灰岩		両端に挟り	
52	D-16-181	74.0	60.2	24.7	150	安山岩		両端に挟り	
53	D-16-196①	75.7	62.0	25.6	150	安山岩		両端に挟り	
54	D-16-196②	78.0	66.5	26.8	140	安山岩		両端に挟り	
55	D-16-196③	82.1	62.4	21.2	140	安山岩		両端に挟り	
56	D-17-91	57.0	53.9	15.7	70.0	安山岩		両端に挟り	
57	D-18-52①	81.6	60.0	23.8	150	安山岩		両端に挟り、一面欠損	
58	D-18-52②	59.1	56.1	24.2	120	安山岩		両端に挟り	
59	D-19-31	52.0	36.7	11.7	40.0	安山岩		両端に挟り	
60	D-19-58	56.3	41.5	15.9	40.0	砂岩		両端に挟り、一面欠損	
61	E-3-27	58.3	38.8	13.2	40.0	安山岩		両端に挟り	
62	E-4-20	68.8	72.8	17.5	110	安山岩		両端に挟り	
63	E-4-21	49.7	44.5	13.6	50.0	安山岩		両端に挟り	
64	E-6-1	70.3	62.0	25.4	150	安山岩	179	両端に挟り	
65	E-8-5	55.3	59.6	17.3	70.0	安山岩		両端に挟り	
66	E-8-6	50.7	44.4	11.4	40.0	安山岩		両端に挟り	
67	E-9-12	80.3	79.3	22.5	30.0	安山岩		両端に挟り	
68	E-9-13	81.0	70.1	27.5	130	安山岩		両端に挟り	
69	E-9-14	74.6	58.1	20.9	200	砂岩	180	両端に挟り	
70	E-9-17	75.3	66.0	22.8	20.0	砂岩		一面欠損、両端に挟り	
71	E-9-18	90.3	68.5	27.6	60.0	凝灰岩		両端に挟り	
72	E-10-19	58.7	52.3	19.1	40.0	安山岩		両端に挟り	
73	E-11-10	55.1	43.4	18.5	60.0	安山岩		両端に挟り	
74	E-11-13	61.5	49.8	12.7	41.5	安山岩		一端欠損、挟り	
75	E-11-23	52.1	41.4	18.9	50.0	安山岩		両端に挟り	
76	E-11-27	80.4	82.7	20.7	180	安山岩		両端に挟り	
77	E-11-28	53.5	53.4	46.1	安山岩		両端に挟り		
78	E-11-39	66.5	50.2	20.1	100	安山岩		両端に挟り	
79	E-11-51	49.7	39.8	14.4	40.0	安山岩		両端に挟り	
80	E-12-22	61.1	47.1	16.9	60.0	安山岩		両端に挟り	
81	E-12-33	46.3	36.9	13.2	40.0	砂岩		両端に挟り	
82	E-12-34	51.8	49.9	19.2	70.0	凝灰岩		両端に挟り	
83	E-12-41	66.6	60.3	25.4	140	凝灰岩		両端に挟り	
84	E-13-23	47.9	39.0	14.8	40.0	安山岩		両端に挟り	
85	E-13-26	74.8	64.6	16.6	120	安山岩		両端に挟り	
86	E-15-22	61.7	44.4	13.9	50.0	凝灰岩		両端に挟り	
87	E-15-29	66.6	73.3	29.0	190	凝灰岩		両端に挟り	

表Ⅲ-32 石鍾一覽表(3)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
88	E-15-56	62.9	18.8	17.2	60.0	安山岩		両端に挟り	
89	E-15-61	66.8	52.0	13.4	70.0	安山岩	181	両端に挟り	
90	E-19-48	61.7	42.6	12.0	50.0	安山岩		両端に挟り	
91	F-6-3	77.6	66.0	21.5	160	安山岩		両端に挟り	
92	F-7-2	64.6	47.8	16.1	60.0	安山岩		両端に挟り	
93	F-7-5	76.9	68.8	14.6	120	凝灰岩		両端に挟り	
94	F-8-5	50.1	41.0	13.5	30.0	安山岩		両端に挟り	
95	F-8-7	50.0	42.7	14.0	50.0	安山岩		両端に挟り	
96	F-8-13	37.8	47.4	10.7	29.2	安山岩		一端欠損、挟り	
97	F-8-20	49.4	50.7	22.4	80.0	凝灰岩		両端に挟り	
98	F-9-9	51.7	48.4	13.4	50.0	安山岩		両端に挟り	
99	F-11-12	74.2	59.7	15.9	100	安山岩		両端に挟り	
100	F-11-25	60.9	55.5	22.5	100	凝灰岩		両端に挟り	
101	F-11-31	71.2	57.4	12.2	70.0	安山岩		両端に挟り	
102	F-12-14	72.8	54.9	18.9	100	安山岩		両端に挟り	
103	F-12-23	54.2	51.5	17.8	70.0	安山岩		両端に挟り	
104	F-12-33	58.7	60.5	19.2	100	安山岩		両端に挟り	
105	F-12-34	62.0	63.7	16.2	100	安山岩		両端に挟り	
106	F-14-2	67.8	54.7	21.3	100	安山岩		両端に挟り	
107	F-14-5	56.0	44.5	9.9	50.0	砂岩		両端に挟り	
108	F-14-7	60.3	52.9	17.2	70.0	安山岩		両端に挟り	
109	F-15-21	56.8	52.8	11.4	40.0	安山岩		両端に挟り	
110	F-15-22	60.6	39.6	13.7	40.0	安山岩		両端に挟り	
111	F-15-33	75.8	68.3	27.5	190	安山岩		両端に挟り	
112	F-15-35	55.4	47.7	18.7	70.0	安山岩		両端に挟り	
113	F-16-36	71.2	62.7	21.9	140	安山岩		両端に挟り	
114	F-18-2	57.9	44.2	9.7	30.0	砂岩		両端に挟り	
115	F-18-10	80.5	57.2	19.0	130	安山岩	182	両端に挟り	
116	F-18-14	51.1	50.8	15.6	50.0	安山岩		両端に挟り	
117	F-20-8	61.6	48.4	20.8	80.0	安山岩		両端に挟り	
118	F-21-7	59.2	43.2	8.9	20.0	砂岩		両端に挟り	
119	G-7-2	44.6	42.2	16.3	40.0	安山岩		両端に挟り	
120	G-9-2	50.5	49.3	13.3	50.0	凝灰岩		両端に挟り	
121	G-11-6	72.7	68.0	25.3	160	安山岩		両端に挟り	
122	G-11-8	63.4	51.6	15.4	60.0	安山岩		両端に挟り	
123	G-11-10	40.5	44.1	10.6	30.0	安山岩		両端に挟り	
124	G-11-15	63.9	55.2	14.5	70.0	安山岩		両端に挟り	
125	G-11-24	54.5	56.1	23.8	100	砂岩		両端に挟り	
126	G-12-6	68.4	66.1	24.8	160	凝灰岩		両端に挟り	
127	G-12-18	58.2	56.1	18.2	80.0	砂岩		両端に挟り	
128	G-12-27	52.8	52.3	11.0	40.0	安山岩		両端に挟り	
129	G-12-33	43.4	39.9	10.8	30.0	安山岩		両端に挟り	
130	G-12-34	40.8	33.8	12.9	30.0	安山岩		両端に挟り	
131	G-14-3	85.0	38.6	23.8	160	安山岩		両端に挟り	
132	G-14-5	49.6	63.4	17.5	40.0	安山岩		両端に挟り	
133	G-14-20	42.3	42.7	12.6	30.0	安山岩		両端に挟り、一面欠損	
134	G-14-23	70.5	39.6	15.7	80.0	安山岩		両端に挟り	
135	G-14-25	41.9	52.6	13.7	40.0	安山岩	183	両端に挟り	
136	G-14-26	47.3	45.1	11.1	30.0	砂岩		両端に挟り	
137	G-15-4	59.7	39.9	13.5	50.0	安山岩	184	両端に挟り	
138	G-15-8	65.8	57.7	16.5	80.0	安山岩		両端に挟り	
139	G-15-9	61.6	47.8	12.3	50.0	安山岩		両端に挟り	
140	G-15-13	67.0	52.5	14.6	80.0	安山岩		両端に挟り	
141	G-16-6	58.7	41.0	13.6	40.0	安山岩		両端に挟り、一面欠損	
142	G-19-19	53.2	50.0	15.2	60.0	凝灰岩		両端に挟り	

表Ⅲ-33 石鏢一覧表(4)

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
143	H-13-2	57.0	46.9	14.6	50.0	泥岩		両端に挟り
144	H-13-4	58.6	50.5	16.7	70.0	安山岩		両端に挟り
145	H-13-6	69.5	72.4	16.4	120	安山岩		両端に挟り
146	H-13-7	70.9	60.6	15.6	80.0	安山岩		両端に挟り、一面欠損
147	H-13-33	59.2	57.7	17.2	80.0	安山岩		両端に挟り、両面に線痕
148	H-13-34	65.8	56.8	15.4	80.0	安山岩	185	両端に挟り
149	H-13-38	64.7	53.9	13.5	70.0	安山岩		両端に挟り
150	H-13-41	53.7	48.3	18.4	60.0	砂岩		両端に挟り
151	H-14-5	57.6	58.4	19.1	80.0	花崗閃緑岩		一端欠損
152	H-14-7	50.8	60.5	15.4	80.0	泥岩	186	両端に挟り
153	H-16-3	56.2	46.8	13.6	50.0	安山岩	187	両端に挟り
154	I-13-2	54.9	52.3	18.0	46.0	安山岩		両端に挟り、焼け
155	I-13-3	57.3	51.6	14.8	50.0	安山岩		両端に挟り
156	I-13-4	53.0	53.7	16.9	50.0	安山岩		両端に挟り
157	I-13-5	52.2	51.6	13.3	40.0	安山岩		両端に挟り
158	I-13-7	68.4	55.8	21.1	100	安山岩		両端に挟り
159	I-15-5	36.1	18.9	19.1	32.2	凝灰質砂岩		端部片
160	I-15-10	79.1	66.4	26.5	210	凝灰質砂岩	188	両端に挟り

たたき石 (図Ⅲ-27) (表Ⅲ-34、35)

33点出土している。花崗閃緑岩25点、安山岩4点、砂岩2点、泥岩・溶結凝灰岩各1点である。扁平楕円礫を使用しているものは13点、楕円礫を使用しているもの17点、扁平円礫を使用しているもの1点、長楕円礫を使用しているもの1点である。使用面では189・192・194～196・198・199は端部に敲打痕をもつものであり、190・197は端部とともに面部に敲打痕をもつものである。191・193は端部とともに側縁に敲打痕をもつものである。192は敲打痕とともに敲打剝離がみられる。Na7は楕円礫の一端にトチむき状の使用痕をもつものである。

表Ⅲ-34 たたき石一覧表(1)

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備考
1	D-5-11	72.8	58.1	35.0	200	花崗閃緑岩		楕円礫の一端に使用痕、焼け
2	D-11-4	104.9	59.3	34.0	350	花崗閃緑岩		扁平楕円礫の両端に使用痕
3	D-13-83	101.9	85.4	37.3	530	花崗閃緑岩	189	扁平楕円礫の一端に使用痕、焼け
4	D-15-20	173.0	60.8	40.0	630	泥岩		扁平楕円礫の両端に使用痕、一端線欠損
5	D-15-110	77.5	60.7	33.2	230	花崗閃緑岩		扁平楕円礫の周縁に使用痕
6	D-16-17	116.8	57.7	38.1	300	安山岩		長楕円礫の一端に使用痕
7	D-16-35	67.7	48.5	38.8	180	花崗閃緑岩		楕円礫の一端に使用痕、焼け
8	D-19-91	65.0	42.1	30.4	120	花崗閃緑岩		楕円礫の一端に使用痕
9	D-23-5	75.1	58.7	27.0	200	花崗閃緑岩		扁平楕円礫の一端に使用痕
10	E-11-24	67.8	59.7	42.7	230	安山岩	190	楕円礫の一端・一面に使用痕
11	E-12-7	68.5	56.2	33.9	200	花崗閃緑岩		楕円礫の一端に使用痕
12	E-13-49	68.7	61.4	29.5	200	花崗閃緑岩		扁平楕円礫の一端に使用痕、焼け
13	E-15-11	107.8	94.7	48.8	780	花崗閃緑岩	191	扁平楕円礫の一端・側縁に使用痕
14	E-15-73	65.8	52.5	43.1	230	花崗閃緑岩		楕円礫の一端・一面に使用痕
15	E-17-191	132.2	77.2	31.7	550	花崗閃緑岩	192	扁平楕円礫の両端に使用痕
16	E-18-82	79.2	58.4	38.2	250	花崗閃緑岩		楕円礫の一端に使用痕
17	E-19-5	84.0	69.7	49.8	430	花崗閃緑岩	193	楕円礫の一端・側縁に使用痕
18	E-23-2	74.6	65.1	39.9	290	花崗閃緑岩		楕円礫の一端に使用痕、焼け
19	E-23-12	75.1	53.2	33.4	200	花崗閃緑岩		扁平楕円礫の側縁に使用痕
20	F-10-3	96.6	54.6	30.6	270	安山岩		扁平楕円礫の側縁に使用痕、焼け
21	F-16-13	73.9	53.6	41.7	240	凝結凝灰岩	194	楕円礫の一端に使用痕

表Ⅲ-35 たたき石一覧表(2)

No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
22	F-16-23	96.1	54.6	27.3	250	花崗閃緑岩		扁平楕円形の一端に使用痕	
23	F-19-2	72.3	62.5	38.0	250	花崗閃緑岩		扁平楕円形の側面に使用痕、焼け	
24	F-20-4	90.9	63.6	44.5	360	花崗閃緑岩	195	楕円形の一端に使用痕	
25	F-23-2	113.2	92.1	43.0	680	花崗閃緑岩	196	扁平楕円形の一端に使用痕	
26	G-8-5	136.3	42.8	32.0	260	砂岩		長楕円形の両面に使用痕	
27	G-12-23	101.0	67.0	51.9	510	花崗岩	197	楕円形の一端に使用痕	
28	G-14-27	110.6	68.8	49.2	570	花崗閃緑岩	198	楕円形の一端・一面に使用痕	
29	G-15-1	109.3	68.9	51.6	230	砂岩		楕円形の両端に使用痕	
30	G-17-48	91.1	46.2	34.4	190	花崗閃緑岩	199	楕円形の一端に使用痕	
31	H-13-31	115.0	76.6	65.1	860	花崗閃緑岩	200	楕円形の一端に使用痕	
32	H-15-2	102.3	82.7	46.7	660	花崗閃緑岩		扁平楕円形の一端・両側面に使用痕、焼け	
33	H-16-1	54.9	58.5	52.6	230	安山岩		使用痕のある端部片	

石皿(図Ⅲ-28)(表Ⅲ-36)

3点出土している。石質はいずれも花崗閃緑岩である。いずれも一面が浅くすりくぼんでいるものである。

表Ⅲ-36 石皿一覧表

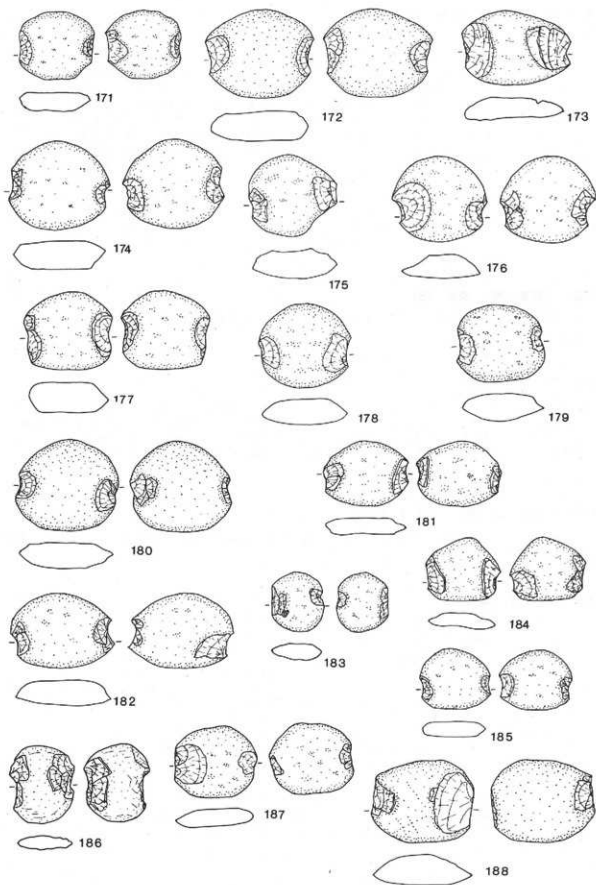
No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	D-15-25	121.0	91.9	73.0	840	花崗閃緑岩		破片、一面すりくぼみ、割れてから焼け	
2	D-23-6	164.0	147.0	42.7	1,430	花崗閃緑岩		一面すりくぼみ、焼け	
3	F-25-11	164.0	113.2	52.8	1,490	花崗閃緑岩	201	一面すりくぼみ	

台石(図Ⅲ-28、29)(表Ⅲ-37)

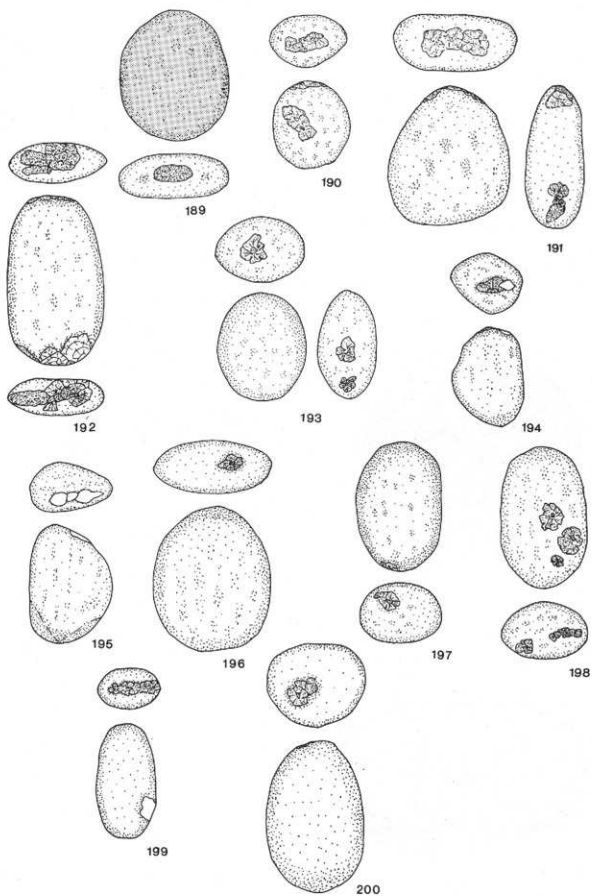
19点出土している。石質は花崗閃緑岩12点、安山岩2点、凝灰質砂岩2点である。いずれも一面が使用により平坦になっている。

表Ⅲ-37 台石一覧表

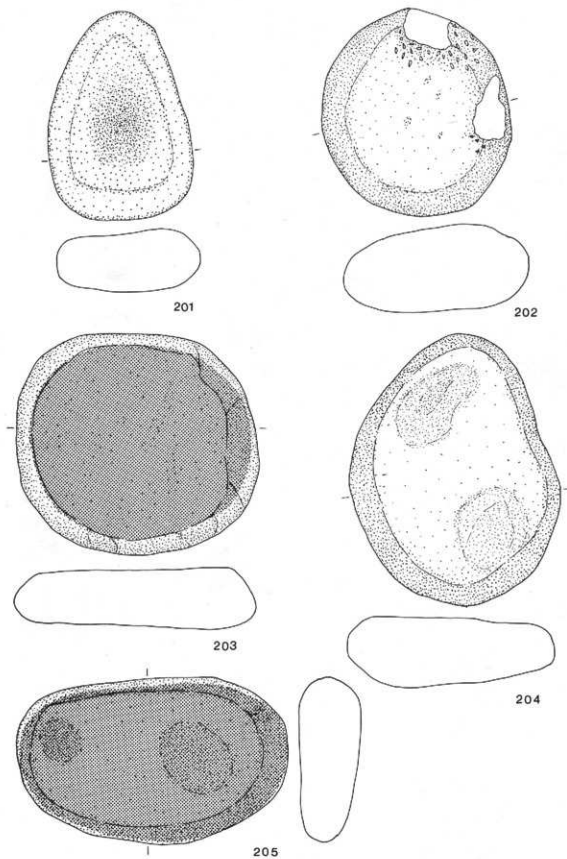
No	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	E-4-12	300.0	170.0	127.6	9,000	安山岩			
2	D-11-3	164.0	145.5	66.5	2,520	花崗閃緑岩	202	一面みがき、焼け	
3	D-14-49	193.0	178.0	50.7	2,890	花崗閃緑岩	203	一面みがき、焼け	
4	D-14-127	112.6	97.9	67.6	670	花崗閃緑岩		破片、一面みがき、割れてから焼け	
5	D-15-241	316.0	305.0	73.0	11,000	凝灰質砂岩		一面みがき	
6	D-16-59	295.0	240.0	141.9	15,000	安山岩			
7	D-16-198	162.0	166.0	62.8	1,980	凝灰質砂岩		一端欠損、一面みがき	
8	D-17-7	214.0	156.0	58.4	2,990	花崗閃緑岩	204	一面みがき	
9	D-18-159	108.0	164.0	70.7	2,500	花崗閃緑岩		破片、一面みがき、割れてから焼け	
10	D-18-221	359.0	148.0	118.0	9,500	花崗閃緑岩		焼け	
11	E-15-66	133.1	92.6	70.1	1,210	花崗閃緑岩		破片、一面みがき、焼けてから割れ	
12	E-15-71	175.0	148.0	81.9	4,000	花崗閃緑岩		一面みがき	
13	E-18-102	215.0	134.0	59.1	2,670	花崗閃緑岩	205	一面みがき	
14	E-20-19	232.0	204.0	81.1	6,000	花崗閃緑岩	206	一面みがき	
15	E-24-5	190.0	154.0	60.8	2,560	花崗閃緑岩	207	一面みがき、割れ	
16	H-13-20	150.0	112.0	50.5	1,120	花崗閃緑岩		一面みがき	



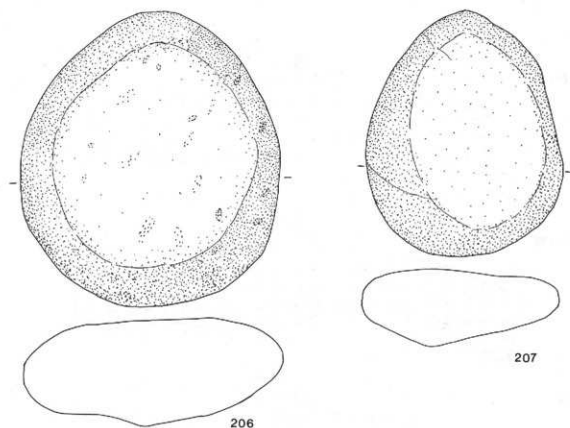
图III-26 包含层出土石器16



图III-27 包含层出土石器(17)



图III-28 包含层出土石器(8)



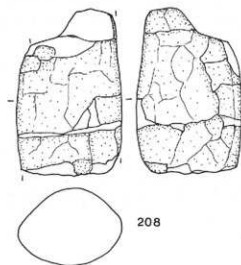
図III-29 包含層出土石器(19)

石棒 (図III-30) (表III-38)

1点出土している。石質は砂岩である。研磨されている。先端・基部が欠損している。

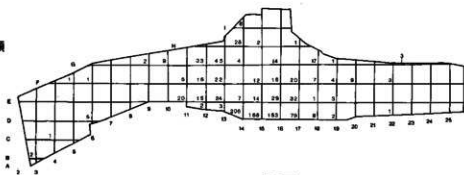
表III-38 石棒一覧表

No.	グリット	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	図番	備	考
1	D-18-183	130.0	78.7	66.8	740	砂岩	208		

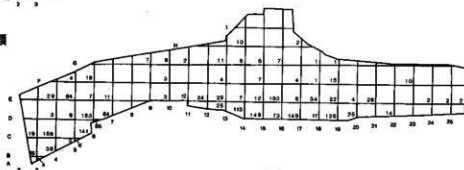


図III-30 包含層出土石器(20)

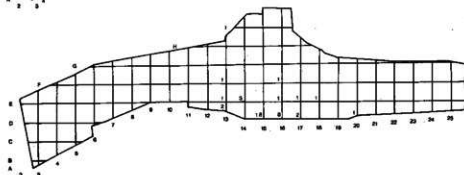
I群a類



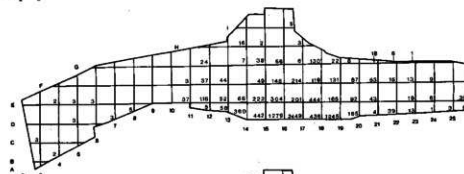
I群b類



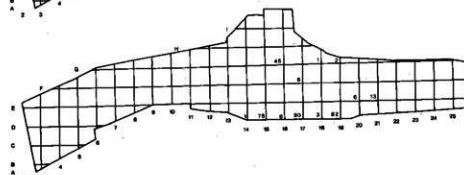
II群



III群

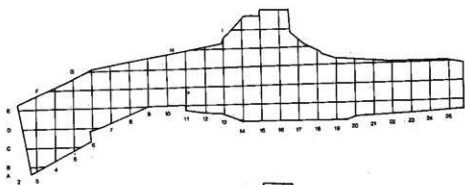


VI群

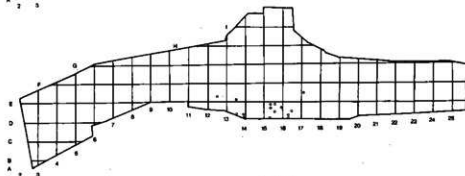


图III-31 土器分布图(全体)

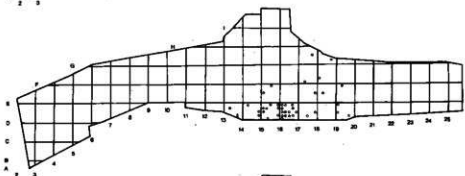
a 類



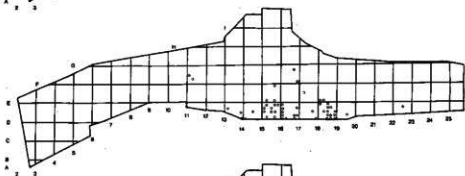
b 類



c 類



d 類



e 類

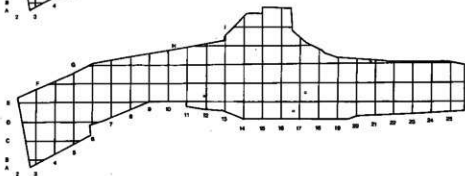
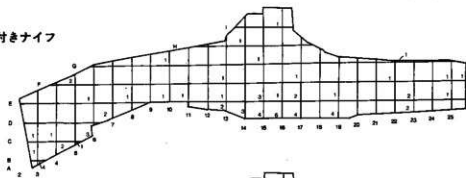
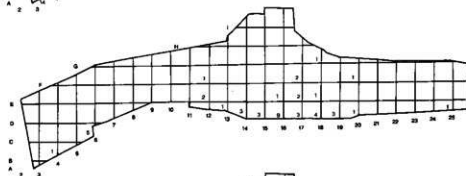


图 III-32 縄文中期土器分布图

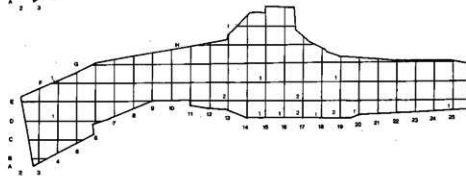
つまみ付きナイフ



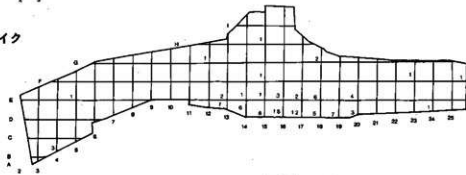
削器



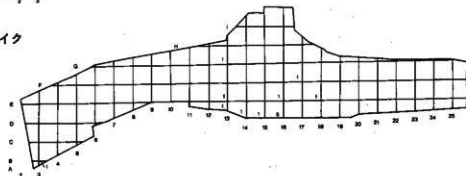
搔器



Rフレイク

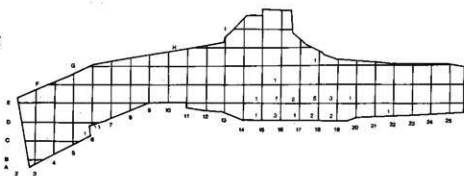


Uフレイク

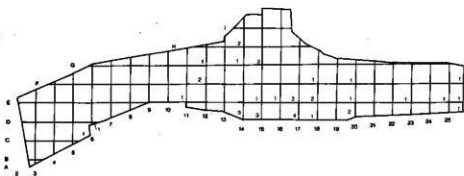


図III-34 石器分布図(2)

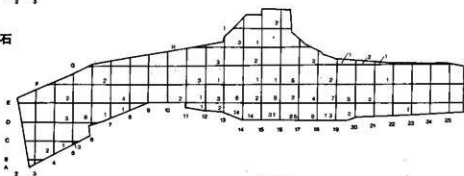
石核



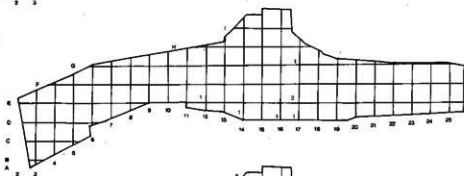
石斧



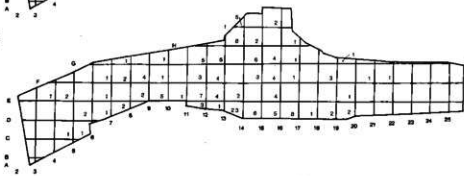
すり石



砥石

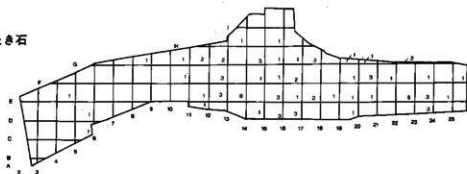


石鐘

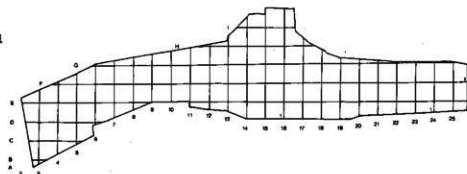


圖III-35 石器分布圖(8)

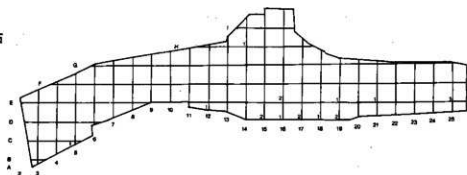
たたき石



石皿

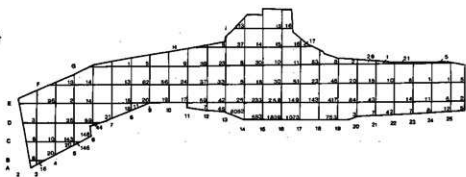


台石

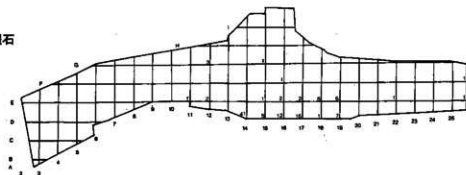


圖三—36 石盤分布圖(4)

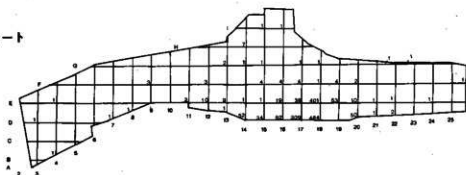
頁岩



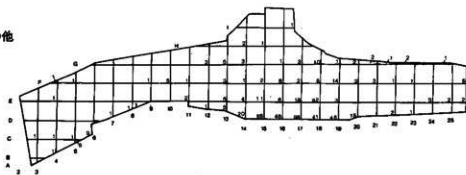
黒曜石



チャート



その他



図III-37 石質別フレイクチップ分布図

第IV章 総 括

本遺跡からは4軒の竪穴、7基の上墳、3基の石組遺構が発見され、遺物も数多く検出された。ここでは各遺構、遺物を時期別にその特徴を述べてゆきたい。

1. 縄文時代早期中葉

当時期では3基の石組遺構が検出されている。11～18ラインにまたがる沢状地形の下部にS-2、その枝沢と考えられる沢跡の東側にS-1、22～25ラインにまたがる沢状地形にはS-3が分布する。どれも沢とのつながりがその立地から認められる。石組の規模から言えば、S-2が、最も大きい。その石も他の石組に較べて受熱が著しく、頻繁に利用されていたものと考えられる。それに対し、S-1、3は規模が小さく、S-1は掘り込みはあるが、焼土、炭化物は検出されず、S-3は焼土は認められるものの掘り込みは認められない。この違いが何に基ずくものかは明らかではないが、各石組毎の作業内容や役割の違い等が考えられよう。特に、S-2がまたがるD-13～14区は土器の分布において1群a類が最も多く分布し(図Ⅲ-32)、当時期に於てはこのあたりが中心的な場であったと思われる。また、この地点では石鍾が集中して出土しており(図Ⅲ-33)、層的にも早期中葉であることから、本地点が漁と関わっていたことを伺わせる。

この時期の石組遺構は類例が少なく、竪穴内に於ても中野B遺跡や蛸子川1遺跡の例にあるように、炉は地床炉が主で、立派な石組による施設は少ない。その理由は明らかではないが、本遺跡の例のように、水が豊富で、海や川に降りる道筋である沢に、それに替わる施設を築いていたことも考えられるかもしれない。

2. 縄文時代早期末葉

当時期の遺物分布は南側の段丘平坦面と、D-13～19区にかけての2地点である。特に、南側の地点は、土器の分布傾向から(図Ⅲ-29)ほぼこの時期のみ利用された生活面と考えられる。遺構は、E-4区より検出されたP-1のみで、出土した遺物はすり石1点である。石器の分布状況を見ると、当地点から多く出土する遺物に、つまみ付きナイフとすり石があり、この時期の特徴的な石器と考えられる(図Ⅲ-32, 33)。このように、南側の段丘平坦面に関しては、早期末葉のほぼ単一遺跡であること、P-1がE地区のP-2・33の特徴と共通すること、特徴的な器種などから、隣接するE地区と共通しており、E地区より続く作業領域として位置づけられる。

3. 縄文時代中期中葉

遺物の分布傾向から(図Ⅲ-30)当時期の中心的な場と考えられるのはD-16区である。ここはⅢ群b類土器も比較的多く分布し、この時期より継続して利用された場と考えられる。出土土器は多いが、完形に復元したのは1個体のみで、他は底部欠損したものが多く、出土状態も破片で流れ込んだ状況であった。集中出土したD-16区のまわりには当時期と考えられる遺構はなく、作業領域とは考えがたい。当地点が、沢状地形の下部であることから、沢の西側にあったと考えられる集落主体部に伴った廃棄場と考えられる。

当時期の遺構はD-19区より出土したP-5である。この土壌は土器の集中するD-16区から若干はなれ、その地点を見下ろす尾根状地形の上に立地する。遺構の性格は特異で、火や埋め戻し行為を伴う儀礼行為をおこなった可能性が考えられる。具体的にどのような行為であったかは明らかではないが、廃棄場もしくは「送り場」との関わりのなかで位置づけられるかもしれない。

4. 縄文時代中期後葉

当時期の遺構はH-1~4, P-6が挙げられる。H-1の立地は沢状地形の底部に位置する。遺構は掘り込みが他の3軒と較べ深く、しっかりとしており、堅穴内施設も炉、土壌が中心に位置し、柱穴がそれを取り巻くように分布するなどの特徴を持つ。遺物は床面出土のすり石が炉や土壌の周辺が出土。土壌からは1点であるが魚の骨が検出されており、日常生活を営む居住空間の特徴を持っている。それに対し、H-2~4はH-1とは若干離れた尾根状地形の南緩斜面に互いに近接して立地する。ともに掘り込みが浅く、H-2, 3では土壌、炉、柱穴など堅穴内施設の配置に片寄りが認められる。出土遺物は、H-2, 4からは石棒が出土、H-3と4ではともに泥岩製の石製品が出土したほか、土器に接合関係が認められるなど互いに密接な関係が想定される。

後者の堅穴群のなかで特徴的なのは、36点におよぶチャート製の石錐及び多量のチャートのフレイクが床面より出土したH-4が挙げられる。チャートのフレイクはその多くが菱形や三角形に割れる傾向が認められ、そうした“割れ”の特徴を利用して、この場において石錐を生産したものと考えられる。また、石錐の多くに使用痕が認められることから、ここで製作し、そのまま利用したと言えよう。なお、遺物の分布をみると、H-4の位置するD-18区とそれに近接するD-17区にチャート製の石錐が多く分布し(図Ⅲ-31)、チャートのフレイク・チップも、D-17区が最も多い(図Ⅲ-35)。それに対し、頁岩のフレイク・チップはD-17区では出土しない。当区は土器を始め、ほかの遺物も全体的に少ない傾向にあり、H-4を含むD-17・18区がチャート製石錐の製作と利用に関わる領域といえるかも知れない。一方、H-2・3はその性格について判然とせず、H-4を含めた時間的な関係も明らかにすることはできなかった。しかし、H-4に対し、H-2・3はチャート製石錐・フレイクは少なく、頁岩製のRフレイク、Uフレイクが多いこと、とくにH-2は埋め戻しがみとめられた特異な遺構が検出されたこと、4点もの石核がまとまって出土したことなどから、H-4とは別の役割を担った作業場として位置づけたい。

縄文時代中期後葉、青苗遺跡はカベ山の堅穴群の出現など集落が変化ないし拡大したものと考えられる。ここF地区のような段丘縁部に堅穴が登場するもこうした現象と大きく関わっていない。ただ、Ⅲ群c類において“捨て場”ないし“送り場”の色彩が強かったこの地点が、Ⅲ群d類期には作業場的な空間に変貌している。このことを集落の拡大に基づく“玉突き現象”と位置付けるか、もっと別の、より根本的な問題が関わっているかは、今後当該期における周辺の遺跡や“むかえ”の状況をみてゆかなければならないだろう。

引用・参考文献

- | | | | |
|-----------|-------------------------------|-------------------------|------|
| 鬼柳 彰・田才雅彦 | 恵庭市 ユカンボシE5遺跡 | 北海道埋蔵文化財センター 調査報告書 第81集 | 1992 |
| 木村哲朗 | 掘株神社遺跡発掘調査報告書 | 泊村教育委員会 | 1995 |
| 佐藤忠雄 | 奥尻島青苗遺跡 | 奥尻町教育委員会 | 1981 |
| 佐藤忠雄 | 米岡第2遺跡 | 奥尻町教育委員会 | 1978 |
| 高橋和樹 | 函館市 中野B遺跡 | 北海道埋蔵文化財センター 調査報告書 第97集 | 1993 |
| 田部 淳 | ヘロカルウス遺跡E~G地点 | 北海道泊村教育委員会 | 1996 |
| 種市幸生 | 小樽市 忍路土場遺跡・忍路5遺跡 | 北海道埋蔵文化財センター 調査報告書 | 1988 |
| 藤島一巳 | 江差町 茂尻C遺跡 | 江差町教育委員会 | 1988 |
| 大沼忠春・村上義直 | 長浜2遺跡 | 奥尻町教育委員会 | 1995 |
| 藤田 登 | 御幸町~茅部郡森町における縄文時代の住居址・土壌群発掘記録 | 森町教育委員会 | 1985 |
| 古屋敷則雄 | 蛭子川1遺跡 | 北海道亀田郡戸井町教育委員会 | 1995 |

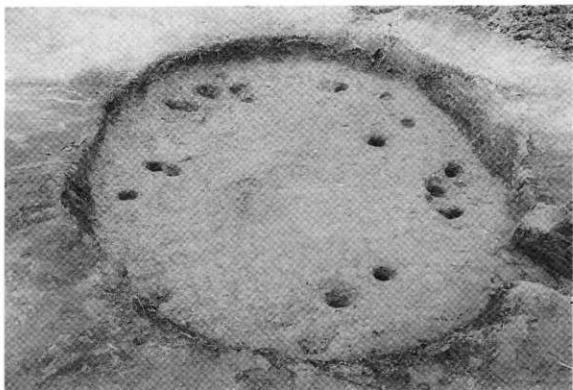
写 真 图 版



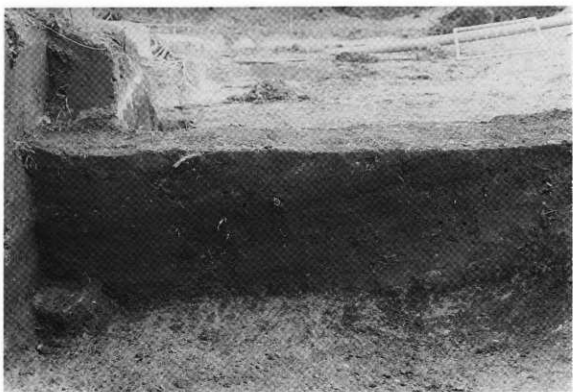
表土剥ぎ作業



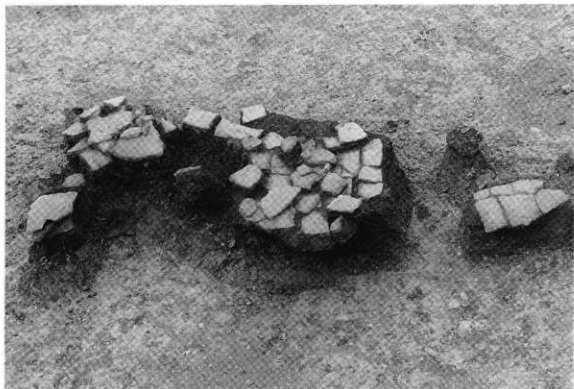
作業風景



H-1 完掘状況



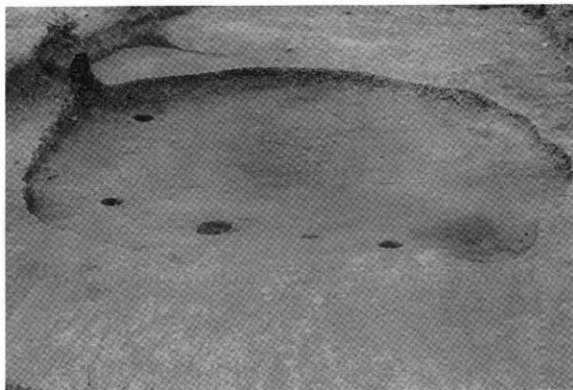
H-1 土層断面



H-1 土器出土状況



H-1 調査風景



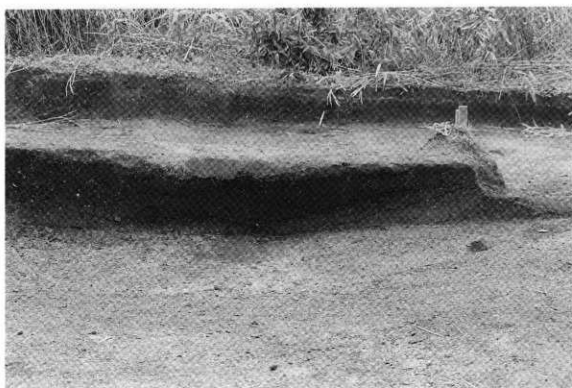
H-2 完掘状况



H-2 土层断面



H-3 完掘状况



H-3 土层断面



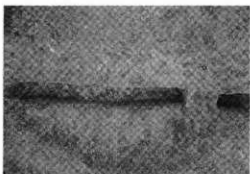
H-4 完掘状况



H-4 土层断面



H-4 石棒出土狀況



P-1 完掘狀況



P-1 土層断面



P-2 完掘狀況



P-2 土層断面



P-3 完掘状况



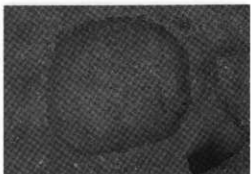
P-3 土层断面



P-4 完掘状况



P-4 土层断面



P-5 完掘状况



P-5 土层断面



P-5 调查风景



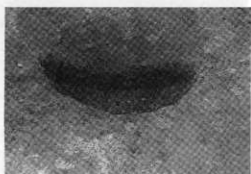
P-6 完掘状況



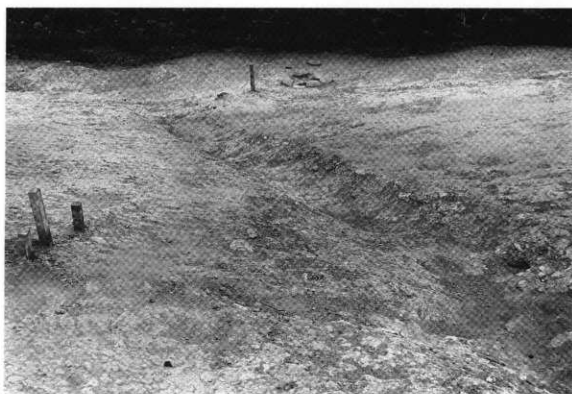
P-6 土層断面



P-7 完掘状況



P-7 土層断面



沢跡とS-1



新石器上層 S-1 検出状況

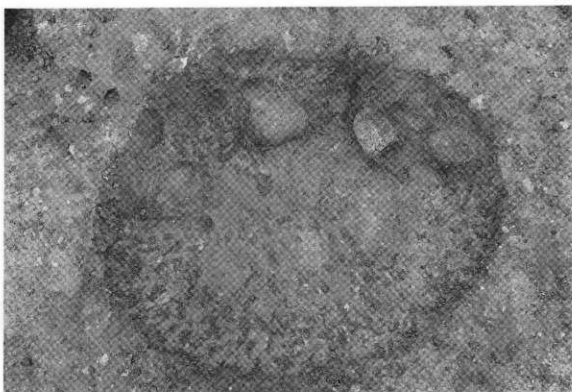
北緯35度15分



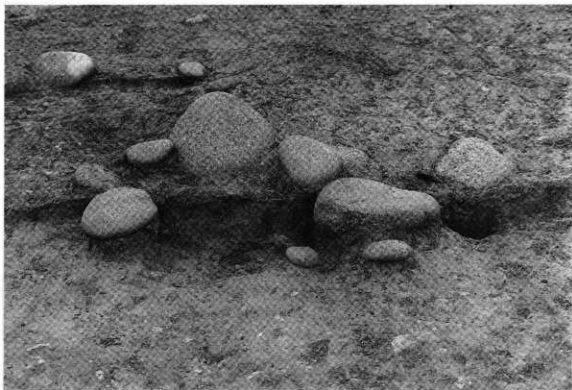
S-2 検出状況



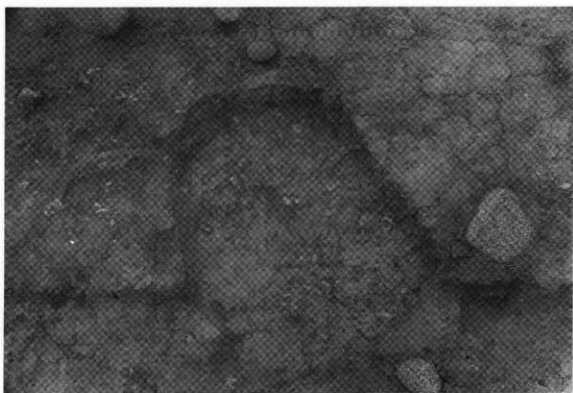
S-2 遺物出土状態



S-2 完掘状況



S-3 検出状況



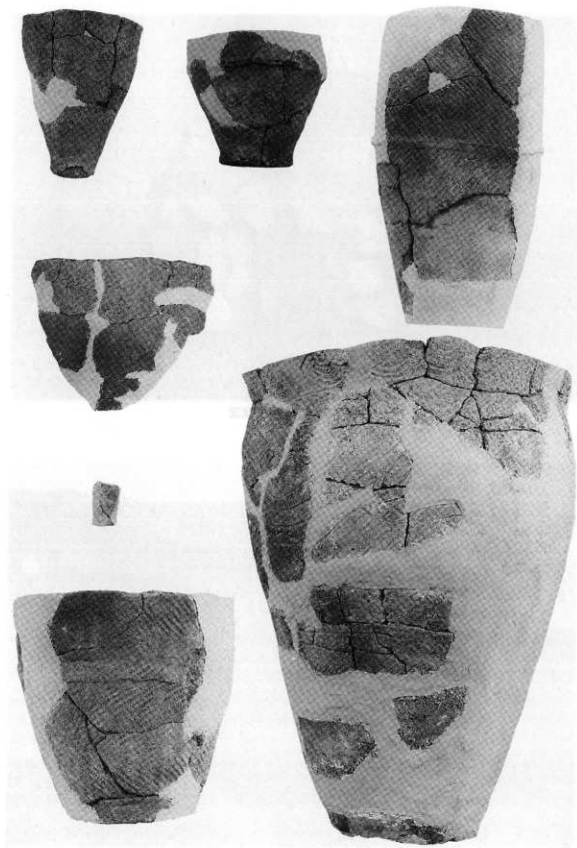
S-3 完掘状況



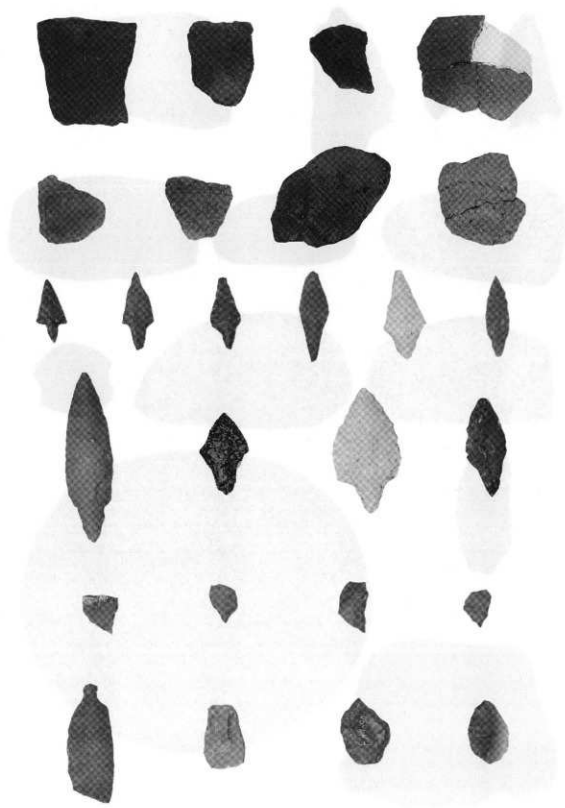
D-16 土器出土狀況



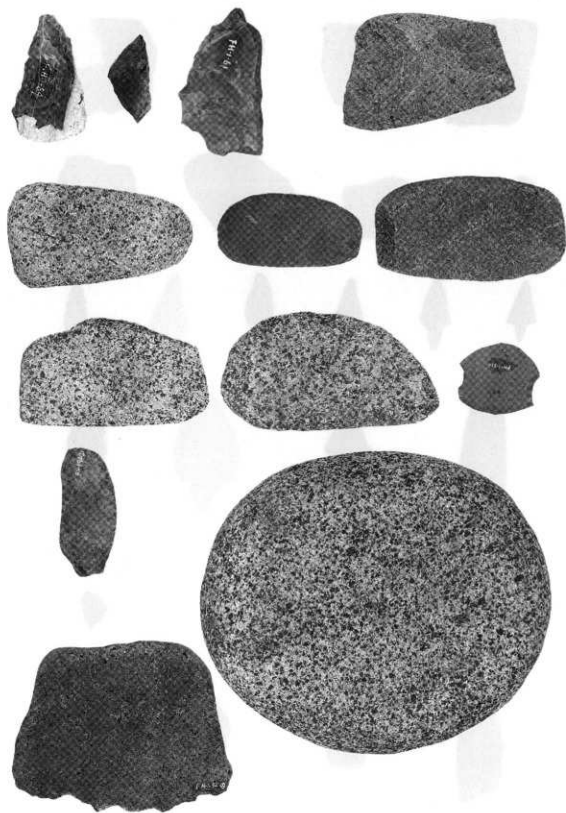
完掘風景



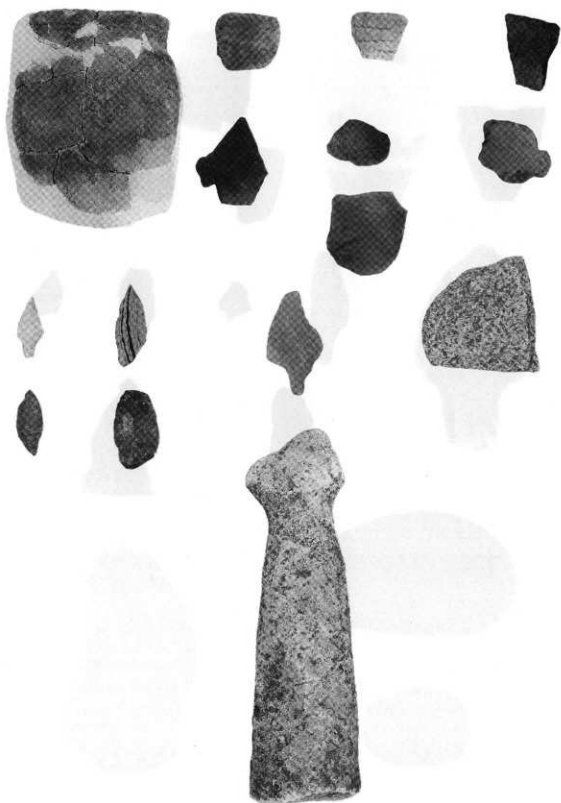
遺構出土遺物(1) H-1



遺構出土遺物(2) H-1



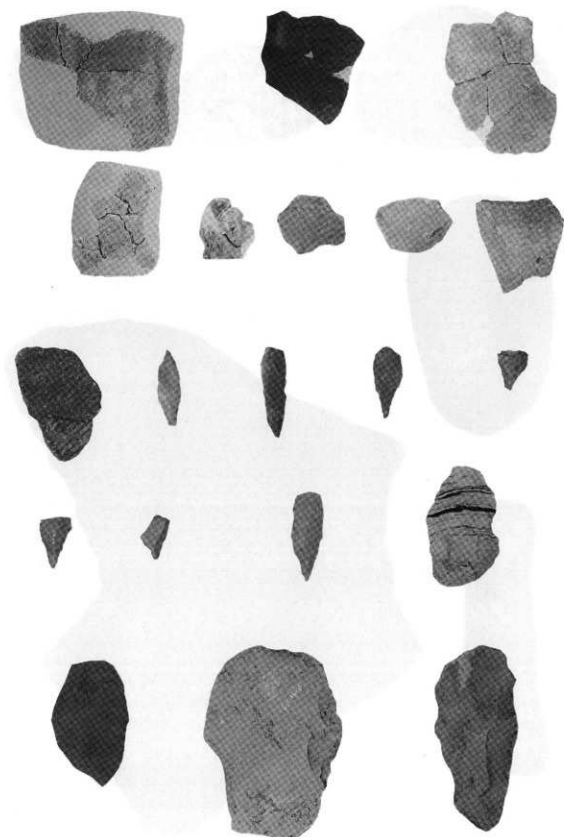
遺構出土遺物(3) H-1



遺構出土遺物 (4) H-2



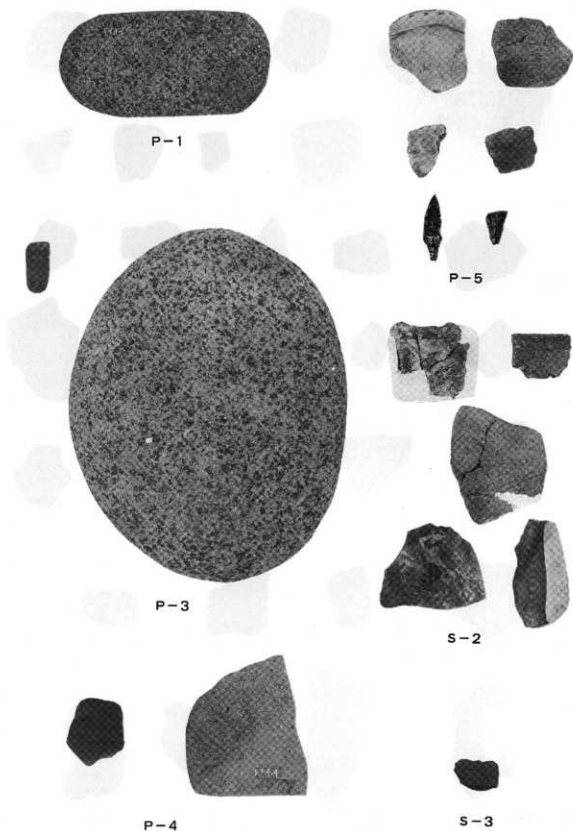
遺構出土遺物(5) H-3



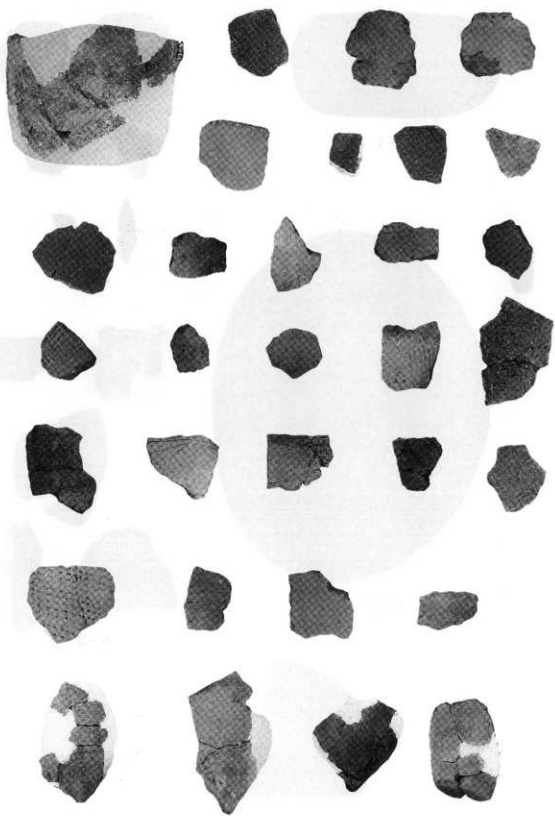
遺構出土遺物（6） H-4



遺構出土遺物 (7) H-4



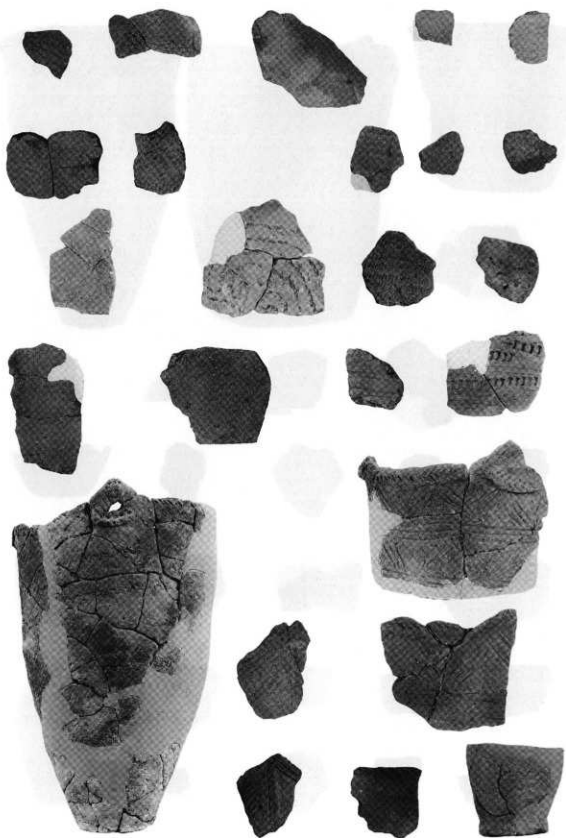
遺構出土遺物 (8)



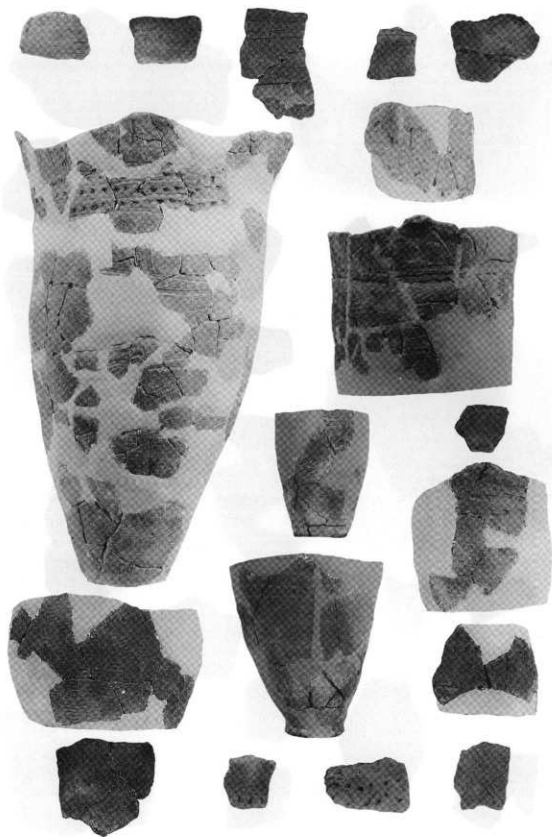
包含層出土土器 (1)



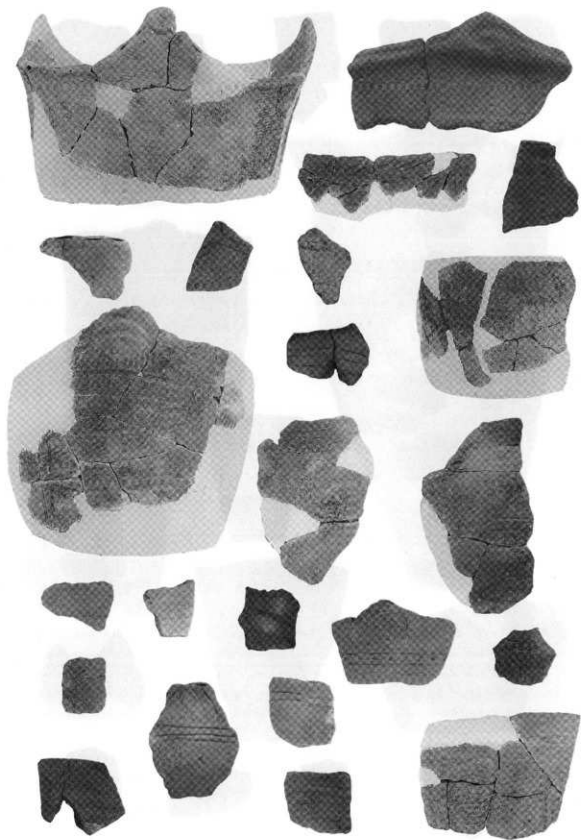
包含層出土土器（2）



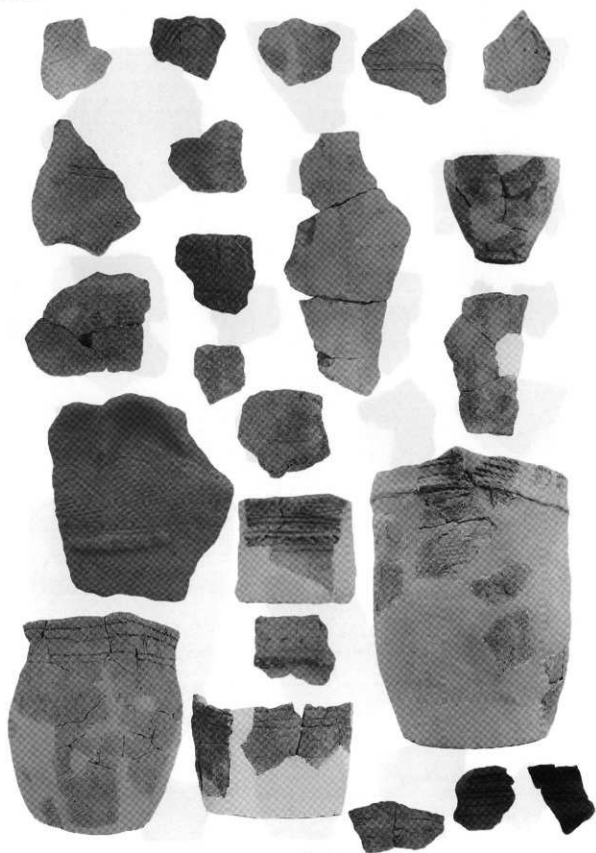
包含層出土土器 (3)



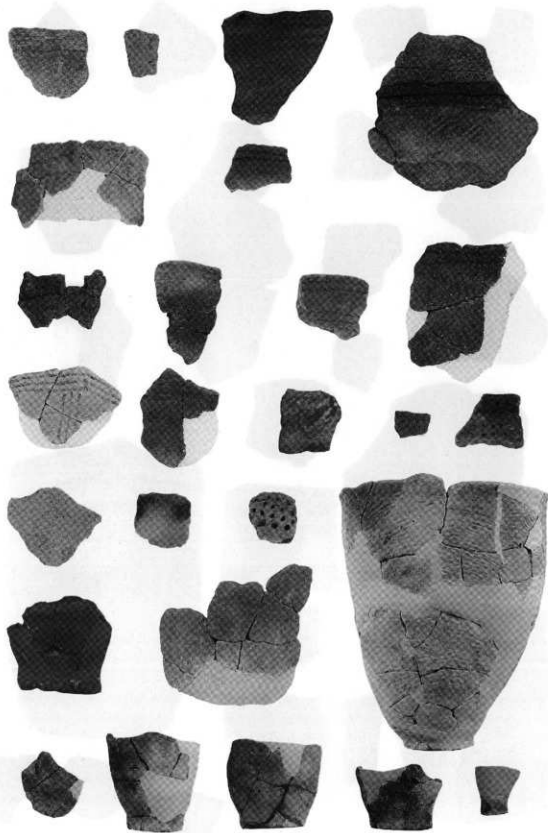
包含層出土土器(4)



包含層出土土器 (5)



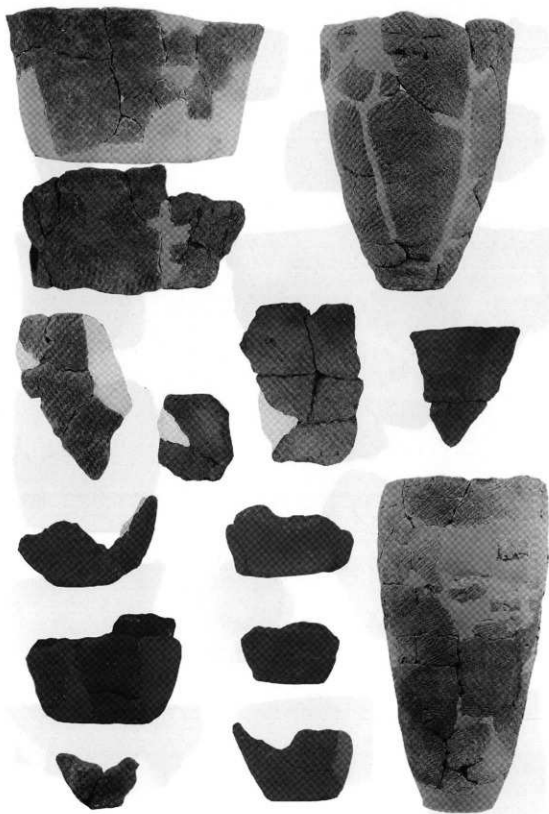
包含層出土器 (6)



包含層出土土器 (7)

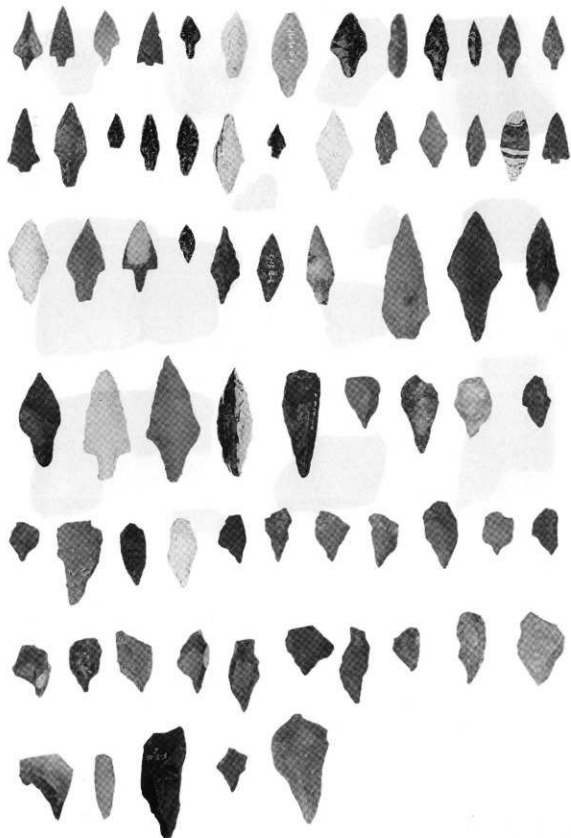


包含層出土土器 (8)



包含層出土土器(9)

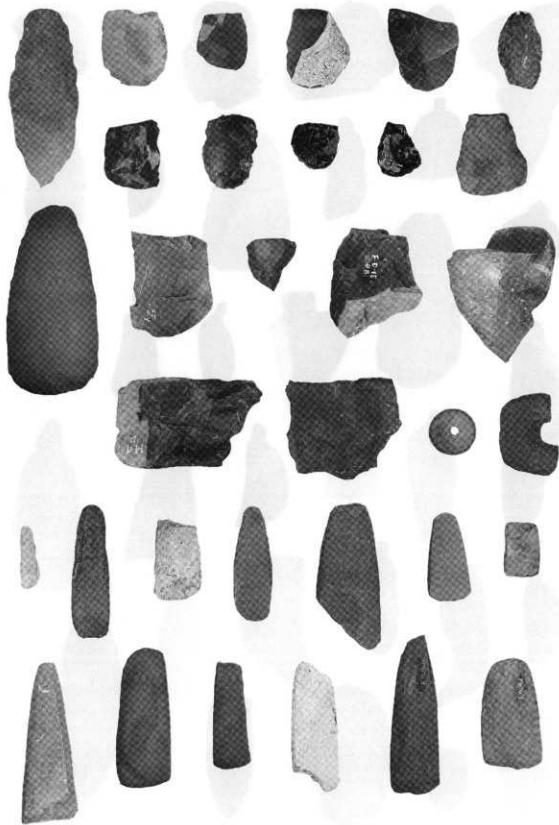




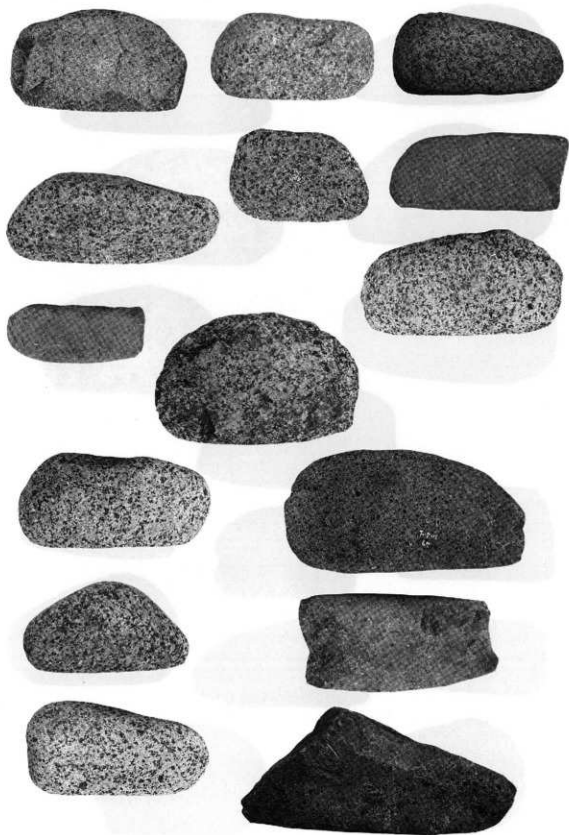
包含層出土石器 (1)



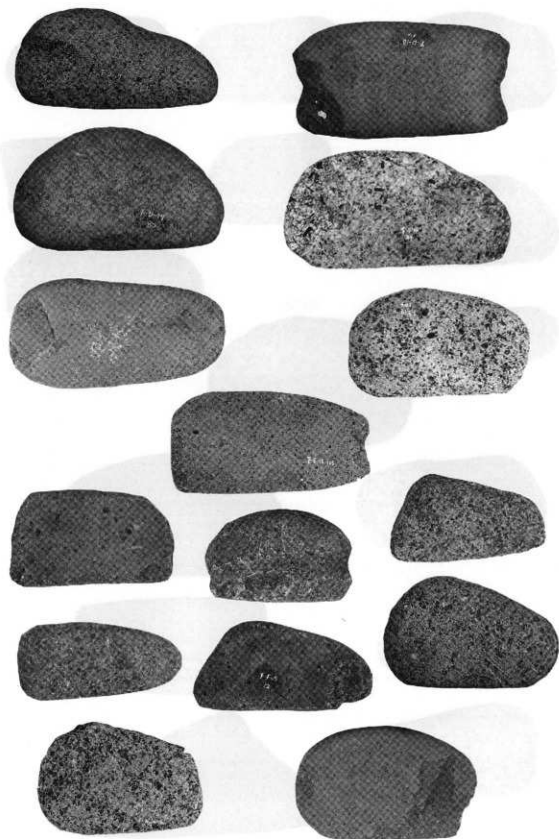
包含層出土石器(2)



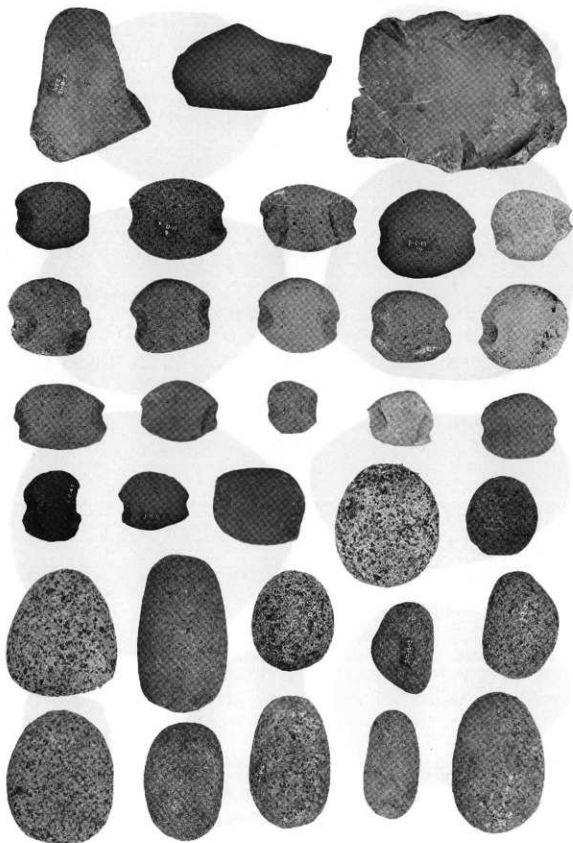
包含層出土石器(3)



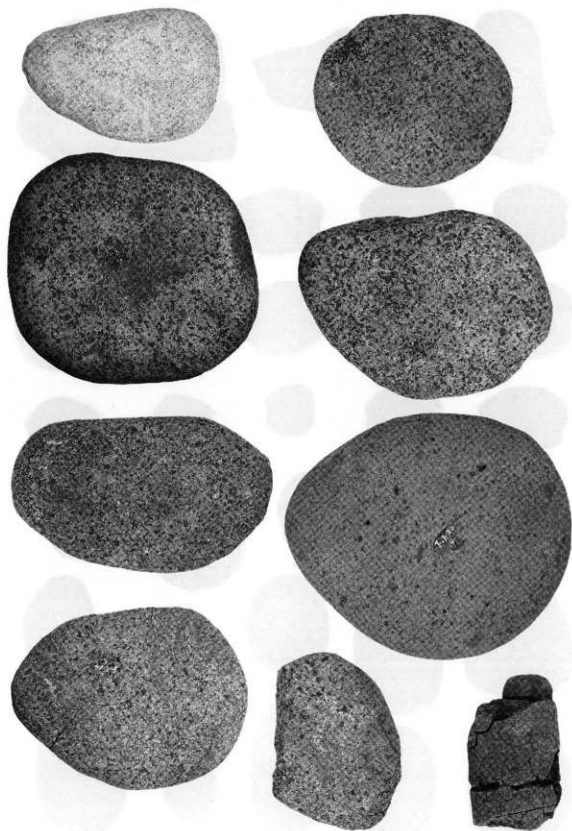
包含層出土石器（4）



包含層出土石器(5)



包含層出土石器 (6)



包含層出土石器（7）

青 苗 遺 跡 (F地区)

～青苗地区漁業集落環境整備事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書(2)～

1998年7月発行

発行 奥尻町教育委員会
北海道奥尻郡奥尻町字奥尻317番地地先
☎ 01397 (2) 3890

印刷 榊長門出版社 印刷部
北海道函館市日乃出町11番13号
☎ 0138 (52) 2461
